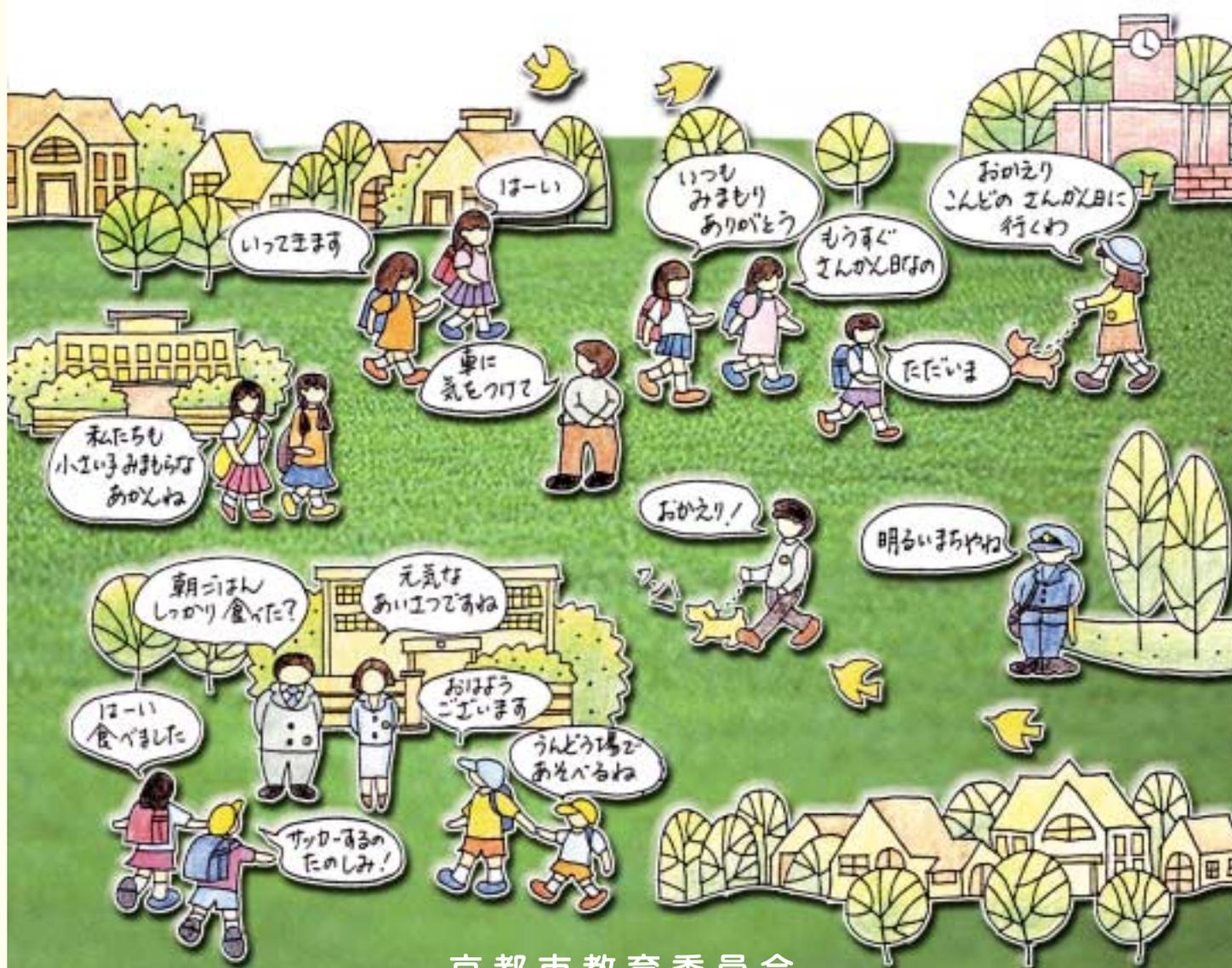


もっと出会おう もっと話そう

地域ぐるみの学校安全

90校の実践事例



京都市教育委員会

地域の人に支えられて

子どもたちにとって安心して教育を受けることができる安全な学校の姿が、昨今の不審者による学校侵入の事件で失われてきました。さらに、昨年末には下校途中の小学生女児の尊い命が奪われるという痛ましい事件が連続して発生しました。学校や子どもたちを狙って発生した事件をとおして、学校だけではなく登下校時における安全確保も大きな問題となっています。このような最近の社会状況をふまえ、子どもたちにとって安全で安心できる環境を確保するために、教職員の危機管理能力の向上や校内における防犯機器の整備などの安全管理体制の確立だけではなく、家庭や地域の関係機関・団体と連携しながら学校安全に関する取組を充実させていくことが重要です。

このため、本市では、学校と家庭・地域、関係機関との連携を重視し、地域安全ボランティアの協力を得ながら、地域社会全体で学校安全や子ども安全に取り組んでいく気運が広がってきました。安全で安心できる学校・地域社会を目指して、「子どもは地域の宝」という意識が広まり、地域全体で「安全・安心のまちづくり」等の取組が推進されてきたのです。そして、本年度、文部科学省と警察庁の委嘱事業として「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」が実施されることとなり、本市においても8支部90校を対象にこの事業を展開することとしました。

この事業は、警察官のOBがスクールガードリーダーとして、各校区を巡回パトロールすることや地域の安全ボランティア等にアドバイスすること、さらに支部内にモデル地域を指定し、学校安全推進委員会を開催するとともに様々な取組等についての情報交換や内容充実を図る講習会の開催を行うものです。

P T Aや学校安全ボランティアの方による地域パトロールの充実や、地域の方々が中心となった「みまもり隊」発足による子どもたちの見守り活動、子どもたちの目線に立った校区安全マップの点検や改善、さらに、あいさつ・声かけ運動の充実及び安全に関する事項の啓発活動など様々な取組が展開されてきました。そして、「地域の子どもは、地域で守り、育てる」という意識が各地域で一段と高まり、地域住民同士や子どもたちとの交流の中から、「無理なく、継続していける活動を地域に定着させていこう」という考えが広がってきています。

この1年間の取組の一端をまとめたこの冊子を参考に、さらに地域ぐるみの学校安全の取組を充実させていただくことを願っています。

最後に、本報告集の作成にあたり、ご協力賜りました関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

目 次

学校安全推進委員会に出席して	京都産業大学大学院教授	藤 岡 一 郎	i
京都市の「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」の取組について	立命館大学助教授	谷 口 知 弘	ii
1 事業概要			iii
2 スクールガード・リーダーの取組			iv
3 モデル地域での取組			v
4 各学区での取組			
(1) 子どもたちのみまもり活動の取組			
地域の子どもの安全は地域で守ろう！		元町小学校	1
鳳徳ふれあいネットワーク		鳳徳小学校	2
山階やすらぎの街づくり会みまもり隊		山階小学校	3
地域で見守る子どもの安全		山階南小学校	4
登下校時の子どもの安全を守る活動		陵ヶ岡小学校	5
太秦グリーンプロジェクト 地域ぐるみの“力のある学校”づくり		太秦小学校	6
地域ぐるみの子ども見守り隊		南太秦小学校	7
3つの「安」が合い言葉 安全・安心・安井学区		安井小学校	8
あんしん・あんぜん・すこやかな学びのある学校づくり・まちづくり		西院小学校	9
「安心・安全 梅津のまち」をめざして		梅津小学校	10
継続的な子どもの安全確保の活動		梅津北小学校	11
地域ぐるみの西京極子ども見守り隊		西京極小学校	12
学校・家庭・地域が一体となった安全確保を		西京極西小学校	13
地域で守る子ども安全		葛野小学校	14
「松陽 地域・子ども見守り隊」の活動		松陽小学校	15
桂みまもり隊」の活動		桂 小学校	16
地域とPTAの協力で守られている桂徳小の安全		桂徳小学校	17
地域・家庭・学校が一体となった学校安全活動		醍醐小学校	18
家庭・地域との連携による子どもの安全確保		小栗栖小学校	19
地域ぐるみで「守り」、「育てる」安全・安心な宮山まちづくり		小栗栖宮山小学校	20
地域で守る子ども安全		池田東小学校	21
子どもたちの安全は地域の手で		日野小学校	22
「今日も元気だ 醍醐西っ子」みんなで見守っているよ きみたちのことを！		醍醐西小学校	23
地域でまもる北醍醐の子		北醍醐小学校	24
地域ぐるみで子どもを守る「向島南みまもり隊」		向島南小学校	25
(2) 安全マップの充実を図る取組			
みんなでまもる子どもの安全		待鳳小学校	26
一人一人が防犯を意識し、みんなで子どもを守る学校安全活動		紫竹小学校	27
みんなで守ろう子どもたち		音羽川小学校	28
子どもの安全は学校とPTA・地域が連携して守る！		嵯峨小学校	29
みんなで作る みんなの安全マップ		山ノ内小学校	30
みんなでつくろう学校安全		川岡東小学校	31
地域と連携した学校安全活動		深草小学校	32
地域・保護者、みんなで守る竹田の子		竹田小学校	33
地域ぐるみで守る子ども安全		桃山南小学校	34
子どもを守る・学校を守る		池田小学校	35
地域・家庭とともに子どもを守る		納所小学校	36
地域で取り組む安全活動		二の丸北小学校	37
危険箇所総点検、みんなで見守ろう校区の安全		神川小学校	38
(3) 子どもたちへの声かけ・あいさつ運動の取組			
たかがみね子ども安全の日		鷹峯小学校	39
朝の校門前立ち番による安全確保		安朱小学校	40
家庭や地域の見守りによる登下校の安全確保		鏡山小学校	41

息の長い安全確保の活動	勤修小学校	42
みんなで守り育てる子どもの安全	小野小学校	43
あんしん あんぜん みまもりたい	広沢小学校	44
パトロールボックスの運用	嵐山小学校	45
みんなで見守る「花園の子」	花園小学校	46
守ろう 創ろう みんなの安全	桂川小学校	47
みんなでつくる安心・安全のまち すながわ	砂川小学校	48
家庭・地域との連携による子どもの安全確保	石田小学校	49
子どもの安全意識を高め、学校・保護者・地域で取り組む下鳥羽安全確保推進活動	下鳥羽小学校	50
地域との連携による登下校の子どもの安全確保の取組	向島藤の木小学校	51

(4) 地域パトロール活動の取組

地域ぐるみの子ども見守り活動	上賀茂小学校	52
みんなで見守る子ども安全活動	柘野小学校	53
地域の子どもは地域で守る	大宅小学校	54
地域ぐるみで子どもの安全を守る活動	西野小学校	55
笑顔で声かけ、みんなで守ろう子どもの安全・地域の安全	音羽小学校	56
子どもの安全を守る「おかえりトトロ隊」の活動	大塚小学校	57
地域が見守る安全活動	百々小学校	58
地域ぐるみで見守る子どもたちの安全	大宮小学校	59
こどもの安全・地域の安全をみんなの手で	常磐野小学校	60
地域・PTAと連携して取り組む学校安全活動	宇多野小学校	61
地域を貫く国道162号線と山に囲まれた校区の安全な環境づくり	高雄小学校	62
こどもぼうはんパトロール隊	櫻原小学校	63
学校・地域安全防犯活動	桂東小学校	64
地域ぐるみで子どもを守る	稲荷小学校	65
セーフティネット藤城	藤城小学校	66
地域と手を携えた安全活動	春日野小学校	67
地域ぐるみで守る、子どもたちの安全	伏見板橋小学校	68
学校・家庭・地域で地道につみあげる安全確保対策	伏見住吉小学校	69
地域みんながみまもり隊	横大路小学校	70
地域の子をみんなで守る「羽束師みはり隊」	羽束師小学校	71
「地域で守る」明親見守り活動	明親小学校	72

(5) 安心・安全に関する啓発活動の取組

みんなで守ろう 子どもたち	雲ヶ畑小学校	73
みんなで取り組む防犯安全活動	宕陰小学校	74
学校・家庭・地域が一体となって安全な学校づくりを	嵯峨野小学校	75
みんなで続ける学校安全活動	御室小学校	76
地域ぐるみの学校安全活動	京北第一小学校	77
子どもを守る学校安全活動	京北第二小学校	78
学校・地域で取り組む子ども安全安心の校区づくり	京北第三小学校	79
地域ぐるみの学校安全体制の取組	川岡小学校	80
学校と地域で“子どもを守る”	松尾小学校	81
学校・家庭・地域が一体となった子どもの安全確保	嵐山東小学校	82
地域の安全は面で守る	藤ノ森小学校	83
安全対応能力と防犯意識を高める	桃山小学校	84
広めよう安全知識・高めよう安全意識	桃山東小学校	85
「地域の子は地域で守ろう」の合言葉のもとに	伏見南浜小学校	86
安心と安らぎのまちづくり	向島小学校	87
向島二の丸の見守り活動	向島二の丸小学校	88
地域ぐるみで子どもを守る学校安全活動	久我の杜小学校	89
地域ぐるみで守る子どもの安全	美豆小学校	90

5 資料

- 緊急アピール
- 京都市子ども安全会議ネットワークニュース



学校安全推進委員会に出席して

京都産業大学大学院教授 藤岡 一郎

(モデル地域推進委員会 委員)

子ども・学校の安全が危機に瀕してから、学校を中心に家庭・地域社会の諸団体・関係機関などと連携してさまざまな取組みがなされてきました。その取組みのなかで、単に過去の「安全回復」ではなく協働して「安全創造文化」を形成するために、校区の方々や関係機関の協力なくしては覚束ないこと、学校安全管理体制まして子どもの安全の確保は学校のみで達成できないことも共通認識となってきたように思われます。また、学校内の安全のみでなく子どもの生活圏の安全を確保しないと「子どもの安全」が実現したことにはならないことも周知されつつあるように感じられます。

学校安全推進委員会は文部科学省・警察庁の「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」を校区において展開する推進機関として設けられたものです。校区の関係者すべてが学校区中心に集い、話し合い、企画し、校区全域で子どもを見守り・育て、牽いては校区の方々の生活の安全安心を今以上に実現しようというものです。もちろんそれがすぐに実現できればということはありませんが、まだその実現に向けての道程にあります。

今年度実施のいくつかのモデル校区の学校安全推進委員会の話し合いに出席いたしました。夜の会合にもかかわらず関係者はほぼ全員出席し熱心に校区における現状の課題と解決に取り組まれていました。その結晶がこの報告集記載の実践の数々です。子どもや地域への愛情こそがその使命感を支え、社会貢献をなしていることに敬意と感謝の気持ちで一杯です。この報告集に掲載された各報告文に現れた実態の下支えとして、多くの関係者なかでも校区の諸団体の方々の隠れたご尽力があることを改めて肝に銘じますとともにその活動の拡がりのための新たな知恵の結集を期待しているところです。もちろん京都市教育委員会、警察、一般行政などの関係者の深い理解と実行力が基盤にあって一定の成果を挙げつつあることはいうまでもありません。またその活動が第一線の教職員、警察官、市職員などの方々の意思と実行力に依存し、その奮闘する姿に接すると頭を垂れる思いです。しかし、その時間的・身体的負担に思いをいたすとき、職責を果たすことは当然としても継続的な日常活動となるためには、今後ともさまざまな配慮と工夫がもめられるように思われます。

この報告集は、これまでに発刊された子ども・学校の安全に関する事例集にさらに先進的事例が付け加えられ、京都ならではの示唆に富むものとなっています。ゴールへの道は遠いかもかもしれませんが、日常生活のあり方や校区の特性を生かした工夫のそれぞれの累積が今後も継続すれば、子ども・学校の安全にとどまらず、京都市が掲げる「安全安心な市民生活」の基盤を形成するに違いないと思います。



京都市の「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」の取組について

立命館大学助教授 谷口 知弘
(モデル地域推進委員会 委員)

1 まちづくりの視点から見た今年度の成果

多様な活動と連携のカタチ

近年、子どもが被害者になるばかりか、子ども自身が加害者になる事件も発生している。要因の一つとして、子どもたちを守り育ててきた地域の力が弱くなってきていることが上げられる。子どもが被害者となる事件を未然に防止することが急務であることは言うまでもないが、加害者化防止の視点からも子どもたちが健全に育つ地域づくりを息長く続けることで地域の力を育むことが大切だと考える。また、安心・安全まちづくりは防犯のみならず、防災、交通安全、事故防止、食の安全など、その射程は広く、これらすべての活動が子どもたちを健全に育む地域をつくり、地域の力を育む活動と捉えることができる。

このように、広い意味での安心・安全まちづくりの視点から、今年度90の小学校が取組まれた本事業を概観すると、一様な取組ではなく「子どもたちのみまもり活動」、「安全マップの充実」、「声かけ・あいさつ運動」、「地域のパトロール活動」、「安心・安全に関する啓発活動」、「祭りの開催」など、まちづくりに繋がる多様な取組が展開された。また、連携先においても住民福祉連合会などの地縁組織のみならず、NPOやPTAのOB会など、様々な組織との連携が見られた。このように多様な活動が実施され、多様な連携のカタチが見られたことは、地域の特性を読み取り、地域資源を有効に活用しようとする努力し、工夫された結果であると推察される。本事業の重要な目的である「地域社会全体で学校安全に取り組む体制整備」の実現に向けて、地域特性に対応した連携のカタチが模索され試みられたことが大きな成果の一つであり、安心・安全な地域社会を住民主体でつくる体制づくりにおいて、小学校が地域連携の中心的役割を担うことの有効性が検証されたと考える。

2 これからの活動に向けての課題

プロセスを大切にした地域の絆を育む活動へ

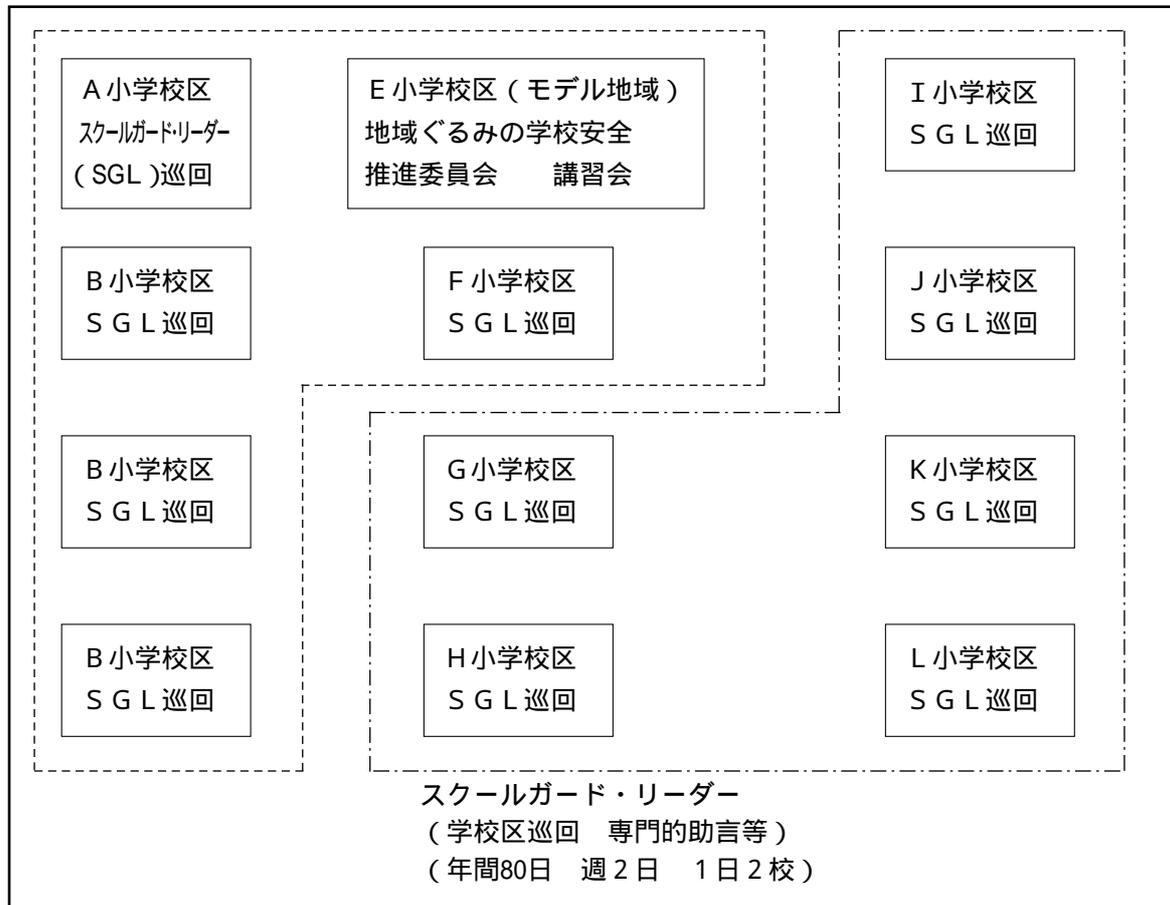
多数の学校で実施された安全マップの作成過程を見ると、地域住民、PTA、教員、児童がマップ作成のプロセスに参加し、一緒に校区の点検やマップ作りを行っている事例が数校あった。このように多様な主体が協働作業を行うプロセスを取り入れることで、地域内に顔の見える人のつながりをつくり、地域の絆を育む取り組みとなる。安全マップ作成に限らず、活動を作り上げるプロセスに地域の多様な主体が参画する努力と工夫が更に望まれる。

行政内の連携を強化し、地域の安心・安全をつくる活動へ

モデル校をはじめ多くの学校で警察との連携が行われたことは大きな成果であったが、区役所との連携があまり見られなかったことは残念である。京都市では、平成16年度に「安心安全ネット総合プラン」を策定し、各区役所のまちづくり推進課が中心となり小学校区単位で地域の総合的な安心安全ネットワークを形成する事業を始めている。この事業と本事業が連動することでより大きな成果を期待したい。

1. 事業概要

事業のイメージ図（支部）



実施支部と学校

- ・北上支部〔9校〕 (上賀茂, 紫竹, 元町, 鳳徳)
(鷹峯, 待鳳, 大宮, 柊野, 雲ヶ畑)
- ・山科支部〔13校〕 (陵ヶ岡, 鏡山, 安朱, 音羽, 西野, 山階)
(百々, 山階南, 音羽川, 大塚, 勸修, 小野, 大宅)
- ・右北支部〔13校〕 (嵯峨, 広沢, 嵐山, 嵯峨野, 高雄, 宕陰)
(常磐野, 宇多野, 御室, 花園, 京北第一, 京北第二, 京北第三)
- ・右南支部〔10校〕 (山ノ内, 西院, 葛野, 西京極, 西京極西)
(梅津, 梅津北, 太秦, 南太秦, 安井)
- ・西東支部〔10校〕 (嵐山東, 松尾, 松陽, 榎原, 川岡)
(桂, 桂川, 桂徳, 桂東, 川岡東)
- ・伏中支部〔9校〕 (稲荷, 砂川, 深草, 竹田)
(藤ノ森, 藤城, 桃山, 桃山東, 桃山南)
- ・伏東支部〔10校〕 (北醍醐, 醍醐西, 醍醐, 春日野, 日野)
(池田, 池田東, 小栗栖, 小栗栖宮山, 石田)
- ・伏西支部〔16校〕 (伏見住吉, 伏見板橋, 伏見南浜, 下鳥羽, 横大路)
(向島, 向島藤の木, 向島南, 向島二の丸, 二の丸北)
(神川, 羽束師, 久我の杜, 納所, 明親, 美豆)

2. スクールガードリーダーの取組について

警察官OBの地域学校安全指導員（スクールガード・リーダー）が校区の巡回指導等を実施しました。

巡回日数

1人が数校の小学校区を担当しました。

週に2日で1日あたり2校区の巡回を原則としました。（長期休業中を除く。）

巡回方法

ア 開始時間

登校時巡回パトロール 午前8時より巡回し、1時間以上の活動

下校時巡回パトロール 午後2時30分より巡回し、1時間以上

イ 内容

腕章，帽子，名札を着用し，登下校時の巡回パトロール及び校区の巡回パトロール等を実施しました。

スクールガードの取組に対して助言する内容があれば，学校の校長または教頭に伝えました。また，学校からスクールガードの取組に対して専門的な考え方等の助言を行いました。



<スクールガードリーダーの活動の様子>

3. モデル地域の取組について

1 推進委員会

メンバー

学校，PTA，各種団体，スクールガード団体，モデル校の所轄警察署（生活安全），
学識経験者，教育委員会（学校安全）

内 容

[1 回目] 挨拶，趣旨説明，学校の防犯活動，スクールガードの実践紹介，情報交換，
警察並びに学識経験者からの助言

[2 回目] 挨拶，活動の成果と課題，情報交換，警察並びに学識経験者からの助言



< 鳳徳学区の推進委員会の様子 >

2 講習会

参加者等（100名程度）

支部内の学校関係者並びにスクールガードの代表者，支部の所轄警察署，教育委員会

内 容

挨拶，趣旨説明，スクールガードリーダーの取組の報告，見守り活動の報告，不審者への対応の仕方，子ども110番の家の説明，警察からの助言，情報交換等



< 山階支部の講習会の様子 >

4 . 各学区の取組

地域の子どもの安全は地域で守ろう!

元町小学校

取組の内容及び方法

1 地域ぐるみの取組

登校時間(午前7時45分~8時30分)の対応

- ・18町内の皆様方のうち、比較的時間のある方
学区内の朝の散歩、家の前の掃除、家の前での体操など、通常の時間にされていることを極力この時間にします。
- ・声かけ運動
「おはよう!」「行ってらっしゃい!」と声をかけて、子どもとコミュニケーションを図り、次第にお互いが知り合う。

特に、緑のジャケットを着用した元町少年補導委員会の皆さんが毎朝、学校前交差点(北山通り新町)にて安全指導と声かけを行っている。



- ・防犯ベルが聞こえたら、すぐに対応
「こども110番のいえ」であるなしにかかわらず、表に出て、もっとも近くにおられる方がすぐ家の中に保護する。そして、警察と学校、子どもの家に連絡をとる。

就学時間の対応

定期的なパトロールは決められていないが、学区民の皆さんが近くの郵便局、銀行、スーパーなどに出向く時、さりげなくパトロールをする気持ちで行き帰りする。

下校時間(午後3時~5時)の対応

- ・さりげなく外の様子を見る
時間幅があるため、対応が難しいが、夕刻時の買い物その他、外出時に気を配るようにする。
- ・声かけやその他のことは、朝と同様。
元町婦人会によるパトロール
元町婦人会では、『子どもみまもり隊』を

結成し、『子どもみまもり隊』と書かれた下記のカードを着用して、午後2時~5時の間学区内をパトロールする。



2 元町小PTAの取組

- ~子どもたちの安全のためにできること~を提案し、下記のことを実施しています。
学区周辺への外出の時『腕章』をつける。
子どもの登校を外に出て見送る。
子どもの下校時は、外の様子に気をかける。
子どもに防犯ブザーを持たせる。
子どもたちが外で、一人にならないように心がける。

3 元町小学校の取組

「こども110番のいえ」や「安全マップ」の作成

地域の皆様をはじめ、保護者の皆様のご協力によって、「こども110番のいえ」や「安全マップ」を作成し、地域および保護者に配布した。

校内安全体制

- ・校門の締め切り
- ・防犯カメラによる来校者の確認
- ・防犯訓練の実施
警察等のご協力による防犯訓練の実施
- ・教職員による校内パトロール
特に、下校時(午後2時~4時)には管理
用務員が正門にて子どもを見守る。



鳳 徳 ふ れ あ い ネット ワ ー ク

～ 地域の子は 地域で守り 育てる ～

鳳徳小学校

取組の内容及び方法

1 学校の取組

学校と家庭・地域が一体となって、地域の子は地域で 守り育てよう」と「鳳徳ふれあいネットワーク」を組織し、活動している。

参観日などでの立ち番とパトロール
鳳徳ふれあいネットワークの腕章をつけての
パトロール

警察や関係団体と連携した取組
スクールガードリーダーと学校、地域の連携
した取組

地域とともに、地域安全マップの作成
取組を通しての教職員の意識改革



2 P T A 活動の取組

「こども110番のいえ」の見直しと安全マップの取組

組織的、継続的なパトロールの実施と、ステッカー・腕章等の作成と防犯ブザーの配布
京都市 P T A フェスティバルでの安全の取組の紹介（パネル展示）



3 地域の取組

各種団体による地域パトロールの実施
子どもの健全育成をめざしたキャンプや写生会の取組

自由参観週間の立ち番と声かけの取組
「子どもたちを守りたい」と16名の地域ボランティアによる登下校時の校区パトロールの実施



成果と今後の課題

「子どもをよりよく守り育てる」という地域の取組が充実してきた。緊急時の連絡体制が確立し、行動するシステムが子どもや保護者の安心感に結びついてきた。

上鴨署をはじめ関係機関との連携をより深め、双方向の取組を充実させていきたい。

「継続」をキーワードに取組の充実を図り、「地域の子は、地域で守り育て、地域を愛する子」にしていきたいと考えている。

山階やすらぎの街づくり会みまもり隊

山階小学校

取組の内容及び方法

1 日常の活動

防犯・安全立番

月曜日～金曜日

登校時 7:40～9:00

下校時 13:30～15:30

パトロール

学区内危険箇所点検 月1回

学内みまもり 随時

平成16年度月別活動人数

月	のべ人数	活動日数
5	111	11
6	219	21
7	190	21
8	222	22
9	222	20
10	246	21
11	246	20
12	203	17
1	213	16
2	245	19
3	209	17
計	2,326	205



2 「みまもり隊」の取組

山階みまもり隊は、学校をとりまく社会情勢を受けて、平成16年5月7日に正式に発足した。実際の活動は、平成16年度の入学式から開始している。

営業の方・主婦・仕事を退職した方など20名ほどのメンバーが、学校行事にそって月当番予定を作成し、朝夕、校門から通学路に沿っての交差点、危険ポイントなどに立って、安全指導を行っている。

オレンジ色のTシャツ・ウインドブレーカー・ダウンジャケットをトレードマークとして着用し、誘導灯を携帯して、交通整理だけでなく子どものみまもり等の活動に当たっている。

P T A地域委員の朝の交通立番や交通安全対策協議会の交通整理とも連携して、校区内の強力な防犯・安全対策を進めている。

平成17年9月2日山階学校運営協議会が発足した。4委員会の一つとして「やすらぎを守る委員会」を構成し、防犯・防災部会と地域環境美化部会を設置した。この委員会・部会に「みまもり隊」のメンバーが参画し、学校の取組全体を見据えながら、日常の活動のあり方を検討している。

地域で見守る子どもの安全

山階南小学校

取組の内容及び方法

本校では、登下校時の子どもの安全を確保するために、地域・PTA・学校が連携し、一体となって見守る活動を続けている。

また、本年度「山階南スクールみまもり隊」(学校安全ボランティア)も発足し、毎日、それぞれのボランティアの方の事情に合った無理のない形で、登下校時の子どもの安全・安心の取組を行っている。

1 登校時の安全

防犯推進協議会・交通安全対策協議会の方々が緑の帽子、腕章、名札をつけ、また、山階南スクールみまもり隊の方々が名札・笛、緑の腕章をつけ、正門や南門、信号機のある交差点や危険な箇所立って、交通整理や安全の呼びかけ等、安全指導をしたり、「朝のあいさつ」を元気に交わしたりしている。

また、集団登校時の登校班にPTAの地域委員が、子どもたちの安全を守るため、毎日交代で、黄色の旗を持ち、通学路と一緒に付き添って門まで送り届けている。



2 下校時の安全

下校時は、日によって下校時刻にばらつきが

あるため、集団下校をする低学年、特に1年生の下校時刻予定表をみまもり隊に知らせている。

みまもり隊は、その時刻に合わせて校門前に集合し、笑顔で「気をつけて帰ってね。」「さようなら。」「学校楽しかったか。」等々の声かけをしながら、子どもたちを見守っている。

また、登校時と同様、信号機のある交差点、危険な箇所や横断歩道に立って、交通整理や安全の呼びかけや誘導を行ったり、一緒に家の近くまで付き添ったりと子どもたちの安全確保をしている。



3 その他の安全

学校では地域と連携し、各種団体に腕章や緊急ホイッスル・防犯プレートを配布し、安全への取組を推進している。

教育後援会からは、全児童に防犯ブザーを配付している。

PTAでは、自転車のかごにつける、「こども あんしん・あんぜん パトロール中」の防犯プレートを作成し、全家庭の数だけ配布し、自転車のかごに取り付け、パトロールをしたり、声を掛け合ったりしている。

今後も、学級・家庭・地域が一体となった地域ぐるみで、子どもたちの安全・安心を見守るための取組をさらに充実させていきたい。

登下校時の子どもの安全を守る活動

保護者・地域の安全ボランティアの取組

陵ヶ岡小学校

取組の内容及び方法

1 取組の趣旨

校区内には大きな通りとしては北側に三条通り、西側に大石道があるぐらいで、住宅街の狭い通りの多い地域である。通りには人通りの少ない寂しい通りもある。朝には山科・醍醐・大津方面から京都市内の中心部へ車・人が流れ、夕方にはその反対の流れとなる。地下鉄東西線の開通とともに三条通りの車の混雑は随分と解消されたが、三条通りが混雑してくると住宅街にも地域外の方の車両が出入りする。

このような状況の中で、今までから、登校時の安全については教職員の輪番による通学路での立ち番をはじめPTAによる立ち番、地域の防犯推進協議会のメンバーの方による校門での立ち番などにより、子どもたちの交通安全だけでなく不審者から子どもを守る取組を進めていた。また、子どもたちの在校時においても防犯の方々に見守っていただいていた。しかしながら、小学生が下校時に被害に合うという大変に痛ましい事件が全国的に広がり続く中、下校時にも焦点を当てた取組をPTA・地域の方のご協力を得て進めている。



2 地域の防犯推進協議会の方々の支援

防犯推進協議会陵ヶ岡支部のメンバーの方々が、常に地域の子どもの安全を気にかけていただき見守っていただいている。

下校時には、低学年の下校時刻に合わせて正門で子どもたちを見守っていただくだけでなく、下校にあわせて地域のパトロールをして子どもたちが安全に下校できるように見守っていただいている。

3 PTA安全ボランティアの立ち上げと活動

地域の防犯推進協議会の方々が頑張っておられる姿を見て、PTAでも行動に移そうと今年

度から安全ボランティアの募集が始まった。それぞれのボランティアが無理なく、長く続けられることを合言葉に活動してもらっている。登校時に通学路や通用門で見守られる方、下校時に家の近所で見守られる方などそれぞれいるのである。スタッフジャンパーと腕章をつけての活動である。



お孫さんが学校に通われているということで登校時も下校時も見守っていただいているおじいさんもおられる。

今は、防犯推進協議会の方といっしょに活動中である。陵ヶ岡自治連合会からは左の写真のように寒さ・風雨よけの詰所がプレゼントされた。

4 PTA会員みんなで見守ろう

本校では、来校時には会員の皆様の名札を着用されている。

その名札の裏側を利用して下記のように『安全パトロール』と



いう黄色の札を入れ、戸外へ出るときにもそれをつけていただき、登下校の子どもたちの安全を見守っていただいている。

取組の成果と課題

子どもたちは、多くの大人の人に見守られているという安心感をもつと同時に地域の方と子どもたちが親しくなってきた。

何より不審者が出るということが激減した。取組を理解していただき、より多くの方のボランティアの参加を願っている。

太秦グリーンプロジェクト 地域ぐるみの“力のある学校”づくり

太秦小学校

取組の内容及び方法

1 子どもマモルンジャー活動

地域ぐるみで、子どもの命を守る活動のひとつとして、登校時は主に太秦小PTAおかあさんたちが、下校時にはおやじの会のメンバーが、そろいの緑のTシャツにオリジナルの旗を手に、校門や交通量の多い交差点に立ったり、地域をパトロールするなど、子どもの安全を確保しながら、笑顔で「さよなら」「気をつけて」などと声かけする『子どもマモルンジャー活動』を続けてもらっている。

時間	曜日	担当
登校時	月～金 (火曜日は教職員が担当)	太秦交通安全推進会 PTA地域委員 (母親中心) 学校
下校時	月～金 (緊急時は随時)	太秦交通安全推進会 保護者PTAおやじの会 (父親中心)



マモルンジャー活動の様子(下校時)

また、他にも

- ・休日、休業中の見守り活動...太秦防犯・防火委員会
- ・防災啓発活動...太秦防災「土曜塾」(太秦防火委員会、右京消防署主催 月1回)
- ・非常事態緊急活動...太秦グランドPTA (代表 学校運営協議会会長)

など、地域ぐるみで子どもを守る取組を続けてもらっている。



2 太秦安全マップの見直し

1,000人の子どもたちを守るポイントを5,000世帯超の地域が目で見つめなおす。

<方法>

縦1.8m、横1.8mの大型校区地図を作成。

学年ごとの色別シールを本校の児童の自宅に張る。

地域各種団体、保護者の方々に協力を依頼し、通学路の死角、人気の少ない場所、夜暗い場所などの校区の危険箇所を再点検する。

校区の危険箇所にシールを貼り記す。

「こども110番のいえ」にシールを貼り記す。

全家庭に配布し、一人でも多くの方にマモルンジャー活動の協力を依頼する。



制作中の太秦安全マップ

<予想される効果>

児童宅を記すことにより、子どもの少ない地域、登下校一人になりやすい通学路、「こども110番のいえ」の少ない通学路などを把握することができる。

地域各種団体、保護者の方々に協力を依頼することにより、よこの繋がりを深め、情報を共有し、互いに子どもを守る意識が高まる。

3 その他の安全確保の協力事項

日頃、野外で行っていること(犬の散歩、花の世話、門はき、買い物、ジョギングなど)を子どもたちの登下校時に合わせていただく子どもへの日常的な声かけで子どもを見慣れ、見守り、見届ける。

「こども110番のいえ」の増設

自転車名札、パトロール時の腕章など抑止力のすそ野を広げる。

地域ぐるみの子ども見守り隊

南太秦小学校

取組の内容及び方法

学校への不審者の侵入や、登下校時においての子どもにかかわる事件や事故が増加している中、平成16年1月に「南太秦子ども見守り隊」が発足した。自治連合会を中心に小学校・PTA・交通安全推進委員会・少年補導委員会・犯犯推進委員会等が集まった。

当初は、地域住民が普段から行っている門掃きや水やり、散歩等を児童の登下校の時間に合わせていただく取組を回覧等で地域の方々に呼びかけた。

そして4月には地域の方々に地域ボランティアとしての参加を呼びかけ、約130名のボランティアが集まった。「できる者が できる時に できることを」という、ボランティアがそれぞれの都合に合わせて、子どもの安全を見守っていただく方法をとっている。この取組は、「いつまで」という期限のあるものではなく、南太秦に子どもがいる限り、続けていかなければいけない取組である。そこで、長続きさせるためにあまり制約をつくらずに活動していこうということになった。

したがって、活動日や時間が決まっておらず、個人の都合に合わせて、できる時に活動してもらっている。中には、登下校時間ともに通学路に出て子どもたちの安全を見守っていただいている方もおられる。



・「こども110番のいえ」と「子ども見守り隊」との合同交流会

右京警察署の生活安全課から講師を招き、「犯罪に巻き込まれないための知識」をご講演いた

ただいたり、地域の安全・安心のまちづくりについて話し合ったりした。また、「こども110番のいえ」を通学路を中心に増やしていく取組も進めていくことになった。参加者が本当に「地域の子どもの安全確保」の願いを込めて行動されている熱気が感じられる交流会となった。

・「子ども見守り隊」とPTA本部との交流会

PTAは子どもの安全を守るための独自の活動を行ってきているので、お互いの活動を報告し合ったり、活動内容について調整したりした。また、それぞれの立場での意見交換を行い、より効果的な取組について確認し合った。



1月に入り、今一度見守り隊の取組を見直すための会議を開いた。今回は児童代表として6年生6名も加わり、子どもの側からの率直な意見も出し合った。子どもたちからは、感謝の言葉や見守り隊の方に声をかけられて元気が出た話が出され、参加されていた見守り隊の方々は、とても喜んでおられた。

また、見守り隊からは大人に甘えることなく、自分の身は自分で守るくらいの気持ちでいてほしいという子どもたちに対しての要望もでていた。

子どもたちと毎日挨拶を交し合ったり、声をかけ合ったりする中で、地域住民と子どもたちとの接点ができ、それが地域のつながりを深める一端にもなっているように思う。

3つの[安]が合い言葉 安全・安心・安井学区

安井小学校

取組の内容及び方法

本校では、これまでから、保護者が当番制で集団登校の各班に正門まで付き添い、児童の登校を見守っている。しかし、全国各地で小学生が命を奪われる凶悪事件が相次いで起こり、本校校区においても不審者に追われたり、声をかけられたりする事案が繰り返して起こり、児童の安全が脅かされている。

そこで、児童の安全を守るため、学校長から自治連合会会長・社会福祉協議会会長をはじめ、校区の各種団体長に働きかけ、地域ぐるみで児童の安全を守る「学校安全ボランティア」の体制づくりが7月頃から始まった。

8月23日に各種団体長と子どもの見守り活動に参加していただける方々が集まり、第1回の全体会と防犯勉強会が開催された。約120名の地域の方々が集まり、各種団体長・学校長のあいさつに続いて、右京警察署の署員の方から右京区の犯罪の様子や防犯に対する備えについて講演をしていただいた。その後、学校が地域諸団体の方々と相談して作成した腕章とホイッスルが配られ、子ども見守り活動の準備が行われた。

そして、9月からいよいよ子ども見守り活動がスタートした。およそ、児童が下校する午後1時30分から4時30分の間、毎日正門の前や校区のポイントに腕章をつけたボランティアの方々が立ち、スクールガードリーダーや警察官とともに、子どもたちの下校を見守っていただいている。また、自転車で通学路や危険箇所のパトロールもしていただいている。子どもたちも毎日校門に立ってくださっている方々と顔見知りとなり、あいさつを交わすなど、次第にコミュニケーションも深まり、子どもたちも地域の方々に見守っていただいていることを実感しているようである。



P T Aでは、地域委員会を中心に会合を開き、どのような協力ができるかについて各家庭へのアンケートなども行い、下校時に見守りができるか否か等を明らかにされた。子どもたちが下校する時間帯には、できるだけ門口に出て子どもの帰宅を見守る活動や買い物を兼ねてパトロールを行うなどの防犯活動を行っていただいている。

学校では、登校時に、正門と南門及び交差点に立ち、あいさつの指導と兼ねて交通安全と防犯の見守りを行っている。

本校校区は、細い路地や畑や駐車場に沿った寂しい道などがあり、危険な箇所が少なくない。それらを記した「安全マップ」も古くなり、更新の必要性が生じていた。

そこで、冬季休業の期間に、全教員が担当する町内の全ての児童の家を回り、各児童の家と集合場所の周辺、集合場所から学校までの通学路に危険な箇所はないか詳細に調べ、校区地図に危険な場所を青色でぬり、危険箇所が一目で分かるようにした。また、記載されている「こども110番のいえ」も変更になったところがあり、更新の必要性が生じていた。そこで、「こども110番のいえ」を一軒一軒訪ね、改めて防犯協力をお願いをした。

このようにして、危険な場所と「こども110番のいえ」を記した新しい「安全マップ」が完成した。

今後、さらに地域やP T Aからの情報を盛り込んでより充実したものにし、子どもたちへの安全指導や防犯活動に役立てていきたい。

子どもたちへの防犯学習として、自らの防犯意識を高め、安全を守るように1月30日に「防犯教室」を行った。右京警察署生活安全係の方に来ていただき、実演を交えながら不審者に対する備えや危険に遭遇したときの対応などを指導していただいた。

あんしん・あんぜん・すこやかな学びのある学校づくり・まちづくり

西院小学校

取組の内容及び方法

1 一人一人が安心して健やかに過ごせる学校づくり

学校内外での事故の防止を心がけ、安全指導の徹底および学習環境の整備を図り、教職員が一丸となって、日常的に子どもを守り育てる意識をもつとともに、子どもたち自身が自分の命や体を大切にすることを意識する取組を進めている。

毎月15日を「健康の日・学校安全日」とし、全校的にみんなで安全点検を行ったり、安全指導の時間をとって具体的な指導を行ったりしている。

また、児童会に安全委員会を設置し、全校児童が主体的に安全に学校生活を送る工夫を投げかけたり、地域の交通安全推進委員会や社会福祉協議会と連携した行事や取組にも参加したりしている。

町別児童会を中心に安全マップの見直し等も行い、PTA地域委員会とタイアップして毎日の安全な集団登校を続けている。

また、各教室と登校班には、ホイッスルボタンを常備し、不測の事態には対応できるようにしている。

下校については、各学級で子どもたちが「安全あんしん下校カード」にいつ・だれとどの道を通って帰っているかを記入することで、自分の安全な下校に対する意識をもたせ、家庭との連携も図っているところである。



2 「西院子供見守り隊」から地域ぐるみのあんしん・あんぜんな西院のまちづくりへ

子どもたちの安全な登下校を見守るために、PTAが中心となって、「西院見守り隊」が発足した。

保護者や地域に登録者を募り、橙色の腕章をつけて、子どもの下校時に買い物に出かけたり、散歩や門掃きをしてもらったりすることで、町のあちこちに子どもたちを見守る空気が感じられ、犯罪の抑止力につながっている。

現在登録者数は、地域の諸団体を含め400人近くのにぼり、多くの方の協力を得ている。

「西院子供見守り隊」の活動をはじめとし、地域ぐるみの安全で安心なまちづくりを行って、いこうという地域力の高まりも感じられるようになってきている。

今後も、子どもたちが安心して学校に通える環境づくりに向けて、学校・家庭・地域が連携しあって、取組が進められるようにしていきたいと考えている。



< 西院子供見守り隊の腕章 >



「安心・安全梅津のまち」をめざして

～学校・保護者・地域の連携～

梅津小学校

取組の内容及び方法

1 「梅津子ども見まもりたい」

昨年末に幼い命が犠牲となる痛ましい事件が各地で連続して発生したことをうけ、梅津の子どもたちが安心して登下校できるようにと学校・保護者・地域が協力し、「梅津子ども見まもりたい」が発足した。

主に子どもたちの下校時刻に合わせて、買い物や犬の散歩、植木の世話などといった外での日常生活を、子どもに目を配りながら実施していこうという活動内容である。

12月中旬に地域と保護者に会員募集の案内をしたところ、約200名の方にご応募いただいた。会員全員に「梅津子ども見まもりたい」の文字の入った帽子(写真)を配り、子どもたちが一目で「見まもりたい」の方と分かり、安心して下校できるように体制を整えた。

1月末には活動内容についての意見交換も兼ねて「見まもりたい」の発足式が梅津小学校ふれあいサロンで行われた。その場で、この活動が長く続いていくことが地域の防犯意識の向上と「安心してらせる梅津のまち」づくりにつながるという確認もされた。



<「梅津子ども見まもりたい」の活動>

また、これまでの安全マップをもとに地域を再点検し、新しいマップに改訂し、保護者や地

域に配布する作業も進められている。

2 笑顔であいさつ運動

「おはよう」「今日も元気か？」などと声をかけながら、地域の子もたちが安全に登校できるよう、毎朝、保護者の方々が交代で集団登校の集合場所から学校まで子どもたちを送っていただいている。



<保護者の方々に見守られて登校する子どもたち>

また、毎週金曜日の朝はPTA本部役員を中心に各種委員会の方々が正門と西門に立ち、笑顔で「おはようございます」と声かけ運動をしていただいている。子どもたちも元気にあいさつをし、気持ちよく一日の始まりを迎えている。



<元気にあいさつする子どもたち>

今後も学校・保護者・地域の連携を密にし、子どもたちが安心して健やかに育つような取組をますます充実・発展させていきたいと思っている。

継続的な子どもの安全確保の活動

～ 学校安全対策委員会「見守りボランティア」～

梅津北小学校

取組の内容及び方法

梅津北には、活動の拠点となる「梅津北パトロールボックス」が南門前に設置されており、活動母体として「学校安全対策委員会」が、地域の主な各種団体により組織されている。

毎年、新規のボランティア募集を自治会を通して行い、ボランティアの方へは説明会を実施するなどして、地域との連携をもった継続的な活動となるように進めている。

P T Aは朝の登校時に、地域委員が各町ごとに集団登校の付き添いを行っているが、「見守りボランティア」としての登録に参加し、これまで以上に、地域との連携をもった取組意識を図る体制づくりを行った。

梅津北の見守りボランティア活動は、「無理なく長く続けられる。」ことを目指した取組を一人ひとりが行うようにし、現在160名の登録があり、登下校時の児童への安全確保として、地域で声をかけ合う取組を行っている。

学校前での登校時や下校時での見守りとして、各団体が曜日を決めて校門前に立ち、子どもたちへの声かけを行っている。



地域のボランティアの方は、通学路や自宅前での声かけを行い、決まった曜日に決まった人が子どもを見守る体制が地域ぐるみとなるように活動を展開している。

ボランティアの方は、保護者のデザインによる黄色いワッペンを付け、腕章なども活用しな

がら、顔と声と目印で子どもたちへの安心づくりとなる雰囲気をつくっている。

本年度の取組として、梅津地域の安心町づくりとの取組との連携を持った。

地域のどの場所が溜まり場となっているのかを実際に調べたり、夜間パトロールを各種団体参加のもとで実施したりして、地域を実際に歩き、地域の様子を確かめる活動を行った。



学校の教職員が集団下校の引率時に通学路を点検したと合わせ、これにより、地域の様子を詳しく把握することに役立てた。

実際に歩くことは、子どもたちの通学路の様子が見えてくる働きとなり、地域とP T Aとで新しい「こども110番のいえ」を多く設置する動きとも連動した。

「こども110番のいえ」の所在場所や通学経路、通学路の注意ポイントなどをのせた安全マップの作成に生かすことにも繋がった。

また、自転車用のプレートを作成し、「自転車でのパトロールが効果的となるようにしよう」という地域からの声を安全取組に生かした。

これらの取組を通して、合同パトロールを通学路を意識し、下校時刻に合わせた時間帯で行うことや、ポイントとなる箇所を各通学路ごとにさらに見直し、安心な通学路へつなぐ活動とすることや、下校時での立番箇所の増設への取組などを地域ぐるみで展開していこうと考えている。

地域ぐるみの西京極子ども見守り隊

西京極小学校

取組の内容及び方法

1 取組の趣旨

広島県・栃木県の悲惨な事件を契機に、子どもにかかわる事件や事故が増加している中、昨年の12月「西京極子ども見守り隊」が立ち上げられた。

学校・家庭・地域社会・自治連合会・各種団体・関係機関との連携をより一層強化し、今一度、登下校はもとより地域社会における安全確保に努め、「幼児・児童・生徒が安心して生活できる環境を確立していきたい」という熱い思いでこの活動が始まった。

学校・家庭・地域の連携の深まりのなかで、子どもたちの安全確保（交通安全・防犯）に全力で取り組んでいる。

2 教職員の取組

子どもへの安全指導の徹底

学級・学年の中で、下校コースが同じ方面の児童同士が複数での下校指導。知らない人に声をかけられても絶対について行ったり、車に乗ったりしない。等

不審者侵入を想定した避難訓練の実施
地域パトロールの強化

完全下校時（11～1月：4時・2～10月：4時30分）に下校コースに集めて下校指導とパトロールの実施。定期的に校区内のスーパーマーケット等のパトロールの実施。



スクールガード リーダー（通学路の安全点検）との連携



3 PTA・地域との連携

PTA，地域の方々による「西京極子ども見守り隊」のボランティア活動

「こども110番のいえ」の点検と追加登録

「西京極子ども見守り隊連絡所」の設置

「学童通学路 防犯パトロール実施中」の看板を校区内に設置

「パトロール中」のパネルを自転車の前籠に取り付ける取組

身近な取組の推進

下校時（午後の時間帯）を意識しての水やり，門掃き，買い物，散歩，犬の散歩などをしながら子どもたちの様子を見守る取組。

取組の成果と課題

PTA，地域の方々による「西京極子ども見守り隊」のボランティア活動を通して、「地域の子どもは，地域で守る」という気運が高まってきた。また，子どもたちが地域の方を知り，ふれあい，互いに挨拶がかわせる取組をさらに進めていき，そのつながりを一層深めていきたい。

学校・家庭・地域が一体となった安全確保を

西京極西小学校

取組の内容及び方法

本校校区は、東西を天神川と桂川の間、南北を八条通りの南から阪急電車の間に囲まれた地域である。桂川の河川敷や西京極総合運動公園など、不特定多数の人々が集まることが多い地域である。種々の催しがあると不審者の見分けがつきにくく、夏になると涼を求めたり、日常的にも散歩や余暇の時間を過ごしに来られたりする人も多い。

伏見区の事件以降、本校でも地域の子どもは自分たちの手で守ることを目的に、PTA会員の自転車に安全パトロールのプレートの掲示や朝の声かけ活動、交通安全指導、登校時の名札着用の徹底など、できることから活動を始められていた。

しかし、広島県や栃木県で小学生児童の痛ましい事件が発生したことや、上記のような地域実態の中で、校区内でも不審者の情報があったことなどから、PTAを中心に子どもの安全確保について、さらに積極的にかかわっていこうという声が高まった。

地域の協力を得て、子どもの安全についての集会には体育館いっぱいの地域の人々が集まっていたり、熱心な議論が行われ、子ども見守り隊の発足となった。



<「子ども見守り隊」腕章>

平成18年1月10日より見守り隊のパトロールがスタートした。登校時には、PTAの方が中心になり集団登校の付き添いや校門を中心としたパトロールを行っている。下校時には、通学路の見回りや付き添いを行っている。



さらに、各種団体ごとにパトロールの日を設定し、校区内のパトロールを行っていただいている。日中仕事に行かれていて、登下校時にパトロールができない方は、出勤時や帰宅時に校区内を通行する際に、腕章をつけて協力していただいている方もある。また、定期的なパトロールが困難な方は、散歩時や買い物時に腕章をつけて通行していただいたり、門掃きや、庭の手入れ時に腕章をつけて作業していただくなど、協力したいと思われた方が、各自の都合で無理なくできる方法で活動していただいている。

学校においても、今年度は昨年度より一段と踏み込んだ不審者の侵入を想定した防犯訓練を実施したり、放課後や長期休業中における児童の安全を願い、定期的に職員がパトロールを行ったりしている。

また、一週間に一度程度来校していただいているスクールガードリーダーの方から危険度の高い地域など、専門的なアドバイスを得るなど、見守り隊の活動が有効に活用されるように連携を図っている。

取組の成果と課題

他県の事件や、校区内での不審者の情報により、今回はPTAや地域の方々も、事態を深刻に受け止めていただき、自主的な見守り隊のスタートとなった。地域の方々もいろいろな立場で、さまざまな制約がある中、それぞれの方ができることから、可能な範囲で無理なく続けられる方法でかかわっていただいているので、地域の防犯意識も高まりつつあり、今後も長く続けていただける取組になるものと期待している。

地域で守る子どもの安全

葛野小学校

取組の内容及び方法

1 「葛野の子供をを守る会」組織の立ち上げ

平成13年6月の大阪教育大学附属池田小学校での事件をきっかけにPTAは、防犯ステッカーを自転車の前に取り付けたり、校外補導委員が集団登校の際に付き添ったりするなど今まで以上に、子どもたちを見守っていかうという意識が高まった。

平成16年11月の奈良女児誘拐殺人事件を受けて、下校時の児童を見守る取組を学校から地域の団体をお願いした。早速に地域の方々による子どもを見守るボランティアが組織され、平成17年2月にボランティア団体「葛野の子供を守る会」が発足し、活動が始まった。

同年4月、約100名の参加のもとに『守る会』は第1回連絡会を開催し、参加者全員が次の5点を確認した。

- 地域の子どもは地域で守る
- 永続性を重視する
- 安全を第一とし、無理せず協力しあう
- 会員の増加を目指す
- 連絡網を充実させる

『守る会』の組織が確立したことを受けて、体育振興会や少年補導などと同じように自治会連合会の委嘱団体になった。



2 活動の様子

ボランティアの方々には、会の名前が入った黄色のベストを着用し、ホイッスルのついた名札を首にかけ、交通安全用の小旗を持って活動されている。



前月に学校から各学年の下校予定時刻表を渡すようにしている。そして、各学年の下校時にあわせて『守る会』の方々は通学路に立ったり、会独自の防犯ステッカーを付けた自転車で通学路とその周辺を巡回したりされている。パトロールしながら学校で作成した安全マップを持っていただき、マップの見直しもしていただいている。

学年により下校時刻が違う中、長い時間下校の安全指導をしていただくのは大変なご苦労だと思っている。学校としては大変ありがたい感謝している。

これらの取組は、毎日継続して実施していただいている。また、学校で行う防犯教室にも参加してもらい、子どもたちの防犯意識向上の取組にも協力をしていただいている。

3 ボランティア活動を通じて

ボランティアの方々子どもたちとのふれあいの中から交流も広がり、あちこちで挨拶を交わす姿が見られるようになってきた。

学校と地域の連携が深まる中で、子どもたちの安全確保とともに学びと育ちを一層充実させていく契機になればと期待している。

学校も挨拶がきちんとできる、お礼の言葉がきちんと言えるなど子どもたちへの指導を進めている。

今後の課題

ボランティアをどのようにして増やすのが、今後の課題になっている。

黄色のベスト、ホイッスルのついた名札、交通安全用の小旗姿が犯罪の抑止力になっている。

「松陽 地域・子ども見守り隊」の活動

松陽小学校

取組の内容及び方法

1 「松陽 地域・子ども見守り隊」結成の経過

昨年11月に広島で起きた小1 女児殺人事件、12月に栃木で起きた小1 女児殺人事件等々、近年多発する児童を狙う犯罪及び、弱者を狙った事件が思えばきりがなく増加している。

この松陽地域においても、児童・保護者や地域住民の方は不安にかられておられるのが現実である。地域では今日に至るまで、児童登校時の安全確認、児童への防犯訓練、少年補導が担当される長期休業期間の安全パトロール等々、各方面で取組が行われていた。しかし、今回、従来の取組と並行して松陽自治連合会を中心に、特に防犯推進委員協議会が活動の中核となり、各種団体、地域住民の全ての有志の方で安心・安全を見守る「松陽 地域・子ども見守り隊」を結成する運びとなった。

2 「松陽 地域・子ども見守り隊」発足

1月22日(日)に約80名の方が参加され、発足会が行われた。発足会では地域各種団体と住民が一致協力して、地域安全特に子どもの安全確保に協力していこうとの確認がなされ、さらに多くの人員を確保していこうとの話し合いが行われた。



3 「松陽 地域・子ども見守り隊」の取組

パトロールの時間帯は、それぞれの方の都合のよい時に行く。(できれば、児童の下校時午後2時～4時30分にパトロールを)

「松陽 地域・子ども見守り隊」の方に対して地域全体で感謝の心を示す。(子どもたちと見守り隊でのあいさつができるような関係にする。)

一目で「松陽 地域・子ども見守り隊」と分かるように、統一した帽子と腕章を着用し、名札をつけ、防犯ブザーを携帯する。



4 「松陽 地域・子ども見守り隊」の今後

松陽地域全住民が、取組を理解・信頼し、全住民が安心・安全意識を高め、自主的な取組の確立を図る。

「松陽 地域・見守り隊」の人員の確保が進み、子どもたちの下校時刻に合わせて学校からの下校引率や定点でパトロールをしていた「お迎え隊」のようなものも、できるようにしていきたい。

『桂みまもり隊』の活動

桂小学校

取組の内容及び方法

昨今の子どもが被害者となる様々な事件を受け、子どもを中心に、高齢者や女性をはじめ全ての地域住民の安全と安心を守ることに重点を置き、各方面での従来の取組と並行して、新たに平成17年4月より桂自治連合会のもとに『桂みまもり隊』の活動がはじめられ、その結団式が平成17年5月8日に行われた。

1 目的

安全・安心で住みよい桂地域にしましょう。お互いに声を掛け合い、助け合える住民相互の結びつきを強めましょう。

2 組織

桂学区の各種団体や自治会をはじめとした全地域住民の有志による『桂みまもり隊』協力委員
桂小学校、桂中学校および学区内の幼稚園
桂小学校PTA地域委員
協力委員数約280名（平成17年12月19日現在）

3 活動内容

“各自の自由な時間に、みまもり隊のベストやジャンパーを着用して”をモットーに、取組を広げ持続させていくために、当番制ではなく自らの意思や判断による活動を中心に行っている。具体的には次のような時である。

- ・地域内の散歩や買い物に出かける時
- ・水やりや門掃き、子守りの時
- ・通勤時間に学区内を行き来する時
- ・サークルや会合で往復する時
- ・家の前での立ち話の時 等

であるから、基本的には24時間体制ということにもなる。しかし、小学校の授業日（月曜日から金曜日まで）における下校時間帯、午後2時から午後4時30分に重点が置かれている。

毎月1日から7日までの間、さらに夏休みの終盤や年末の1週間、各種団体や自治会でローテーションを決めて、学区内夜間パトロールが行われている。

みまもり隊シンボルカラー・紺色の自転車前かご用プレート『桂みまもり隊』を取り付ける活動も進められている。合わせて、同じプレートを玄関や門扉に取り付けるお宅も増えており、学校の北門、南門にも付いている。ベストやジャンパー、プレートが犯罪の抑止効果を高めていると考えられる。

各自治会ごとに選出されているPTA地域委員も、同じベストを着用し、下校時間帯を中心にパトロールを行っている。

「ベストやジャンパーを着た協力委員には、地域住民あげて感謝の声かけをしましょう。」との働きかけも行われており、学校でもその指導を行っている。

「このベストを着ていたら、うれしいことに子どもがよく挨拶をしてくれるようになりましたよ。いいことですね。」

何人もの協力委員さんからの言葉である。子どもたちにとっても、『桂みまもり隊』が自分たちの生活の中に入ってきており、自分たちを見守ってくださっている方々が身近にいらっしゃるということを感じ、あいさつの輪が広がりだしてきている。この互いに“あいさつをし合う、声を掛け合う”ことが、安全・安心のためには何よりも大切である。

年度末には、協力委員を対象としたアンケートが実施される。子どもたちの様子や見守りポイントの他に、見守り活動を進める上での課題等を明らかにし、次年度に向けて活動の充実が図っていく予定である。



3 連絡体制

自治連合会からの連絡は、各種団体長・自治会長を通じてそれぞれの協力委員へ、文書または緊急の場合は電話連絡で伝えられる。

また、協力委員が活動中に何か事件等に遭遇した場合は、協力委員が警察、学校、自治連合会役員に必要なに応じて連絡をしている。

学校からもこの連絡体制を利用し、年度はじめや長期休業の前に、行事予定及び休業日や下校時刻の変更などを知らせている。

今後の課題

協力委員のさらなる増員
協力委員相互の連携の強化
学校・保護者・協力委員の連携の強化

地域とPTAの協力で守られている桂徳小の安全

桂徳小学校

取組の内容及び方法

1 スクール・ヘルパーの活動

桂徳老人クラブ連合会が中心となり、児童の安全を守るために、平成15年10月に「桂徳スクール・ヘルパー実行委員会」が結成された。

要領、規約、活動内容等を定めた後、ボランティアを募集して、平成16年4月から、本格的に活動を始めた。現在、32名の会員で活動している。

安全の確保だけでなく、児童とあいさつや日常の会話をかわすことから、児童との関わりも深まり、生活科の学習や環境整備にも協力をいただくようになった。

児童には、守っていただいている方々へ感謝する気持ちが深まるとともに、スクール・ヘルパーの方々へは、励みにもなっている。

活動時間

午前の部：午前10時から午前12時30分

午後の部：午後1時30分から午後4時

の2部制になっている。

活動場所

学校正門前、北門前、校区内（主に通学路）

活動内容

- ・校内に常駐して、来校者の確認をする。
- ・授業中や休み時間の安全確保や、不審者侵入時に、教職員と協力しての防御に当たる。
- ・下校時に、門の前や桂川街道横断で安全確保に当たるとともに、校区内パトロールを行う。
- ・朝会等で、安全について児童に呼びかける。

その他

- ・ユニフォーム・帽子、腕章、タスキを着用して、活動している様子を知らせる。
- ・誘導灯、携帯電話を持って活動する。
- ・予定表により、当番を決めて活動する。



2 P T A の活動

桂徳校区は、幹線道路が校区の真ん中を通り、それ以外の道も抜け道として利用され、交通量のたいへん多い学区である。そのために、登校時は、安全を考慮して集団登校を実施している。

これらの実態を踏まえて、以前より、PTAの地域委員会が中心となり、登下校時の安全確保に取り組んでいる。また、不審者の出現に対応しての取組も進めている。

登校時の安全確保

- ・4月当初は、地域委員が、町内の集合場所で登校班の人数を確認するとともに、集合場所から学校まで引率している。
- ・1年を通して全保護者による輪番制で、交通量の多い場所での安全指導に当たっている。

緊急下校時の出迎え

町内の集合場所まで出迎える。

校区内パトロール

自転車に「パトロール中」のワッペンを貼って、随時にパトロールしている。

安全マップの作成

危険な場所（交通、不審者）を毎年調べなおし、校区図に書き込み、全戸に配布している。

名札の着用

来校時には、各家庭に配布した「名札」をつけるようにしている。

3 その他の取組

地域の方や諸団体の協力を得て、児童が自動車や不審者から安心して暮らせるようにしている。

「こども110番のいえ」

- ・校区の13箇所の店や家が、登録している。
- ・安全マップにも記入して、「こども110番のいえ」の場所がわかるようにしている。
- ・「校区探検」の学習時に場所を確認している。

交通安全教室

- ・6月の土曜日に、PTAを中心に地域の諸団体と西京警察署の協力を得て、「自転車教室」を行った。
- ・自転車の乗り降り、出発と停止、右折と左折の仕方等の基本的な乗り方を知るとともに、直線走法・ジグザグ走法や凸凹走法等の技能の訓練もしている。

地域・家庭・学校が一体となった学校安全活動

醍醐小学校

取組の内容及び方法

本校区では、子どもの安全を確保するため、学校・PTA・地域の諸団体は、子どもが安全に過ごすことができるように以下のような取組を行っている。

1 学校の取組

学習指導

- ・『安全（安全ノート活用）』、『命を大切に学習』
- ・『交通安全教室』（1年生 5/25）
- ・『知らない人にはついていかない』1年の特別活動で、12月に保護者の授業参観。醍醐支所、山科警察署生活安全課、自町連、少年補導委員会、防犯推進委員会の方も参観。

その他の場面での指導

- ・『朝の会』、『終わりの会』（下校時の注意）
 - ・長期休業前に休み中のくらしについて
 - ・『町別児童会』（4/21, 6/5, 12/14, 3/10）
 - ・『町別交流会』（6/5）
- 地域の少年補導委員会や町内の役員の方にも参加を呼びかけ交流を図った。
- ・『避難訓練』（火災5/2, 不審者侵入8/29, 地震1/17）
 - ・『こどもみまもり隊』の方々を子どもたちに紹介。（10/7）
 - ・『防犯劇』（1/10）110番の日になんで本校体育館において、山科警察署員により演じられた。
 - ・PTA会長、校長が「こども110番のいえ」へ訪問依頼。



保護者・地域への広報

- ・不審者の情報を地域に流す。
- ・学校だよりの地域回覧。

2 PTAの取組

支部PTA会長会での情報交換。

運営委員会

- ・『朝のこえかけ運動』
- ・『防犯ベル』の児童全員への配布。

地域委員会

- ・定期的な集団登校の引率。
- ・町別児童会への参加や集団下校の引率。
- ・地域の団体と協力をして、安全マップの見直しと作成。
- ・地域の祭りなどのパトロール。

保護者個々について

- ・自主的な児童の登校引率や下校の迎え。
- ・通学路の安全確認。

3 地域の取組

少年補導委員会や防犯推進委員会による定期及び緊急時のパトロール。

醍醐小学校区『こどもみまもり隊』の発足。



醍醐学区安心安全まちづくり宣言（9/23）

『醍醐のまち再発見』（12/17）

醍醐学区安心安全まちづくり推進委員会が主催し、地域・家庭・学校が連携して、子どもの目を見た醍醐の安心安全なまちというテーマで、醍醐地区をグループに分かれて歩き、子どもの目を見た安心安全マップ作りが行われた。

取組の成果と課題

今までの安全確保のための活動を、連携した取組に進めることで、子どもの安全確保のためのネットワークができてきた。今後さらに、連携を大切に、地域・家庭・学校が一体となった取組になるよう進めていきたい。

家庭・地域との連携による子どもの安全確保

～子どもを地域ぐるみで見守るために～

小栗栖小学校

取組の内容及び方法

地域の協力を得て、以前から登校してくる子どもたちの安全を確保するために、毎週はじめに「朝のあいさつ運動」を自治会とPTAを中心に行っている。地域へも子どもたちの登下校に合わせて、各棟の下に立っていただいたり、散歩していただいたりするよう呼びかけてきた。学校も毎日管理職と教務主任が、2つの門に立って、「おはようございます」と声をかけ続けてきた。上記のあいさつ運動では、生徒指導部が中心となって、教職員も2つの門に分かれて声かけを行っている。

また、4月だけではあるが、集団登校を実施している。その時には、地域委員の保護者の方が引率をされる。



そして、昨年11月に防犯推進委員会・PTAが呼びかけて、「こどもみまもり隊」が発足した。それに呼応して、PTA会員の方々も自転車に“パトロール中”のプレートや保護者用名札に警察等の緊急連絡先カードを作成するなど、取組を進めている。

特に、地域の各種団体からご協力いただいて、多くの大人が登下校時にそれぞれの危険なポイントに10人以上立つようになった。「黄緑色のお揃いのジャンパーと腕章をしている人が、みんなの安全を守るために立っていただいているんだよ。」と各担任から話をすることで、子どもたちは、いつも多くの大人が自分たちを見守ってくれているという安心感を持っている。



この他にも台風等による緊急下校の必要性が生じた場合、町別ごとに集団下校を行う。4月初めに事前に保護者に緊急時の対応方法を伺い、集団下校や学校待機、緊急連絡方法等の確認を行っている。

さらに、3年前には山科警察署から講師を招いて不審者が侵入してきたときの対処法等を学んだ。そして、この研修を受けて防犯訓練を毎年実施し、今年度も行う予定である。そのことで、子どもたちは、自分の大切な命を守るための方法を訓練を通して体験できている。

取組の成果と課題

いっどこで子どもたちの大切な命が危険にさらされるかわからないような事件が、多く起きている。この非常事態を地域・保護者・学校が、共通認識できた。そして、危機意識を共有することで、連携を密に取り合い、具体的な行動につなげることができた。

今後、さらに三者の連携をより強いものとし、地域ぐるみで子どもを守るシステムづくりを構築していかなければならない。

また、関係機関のさらなる協力を得て、より安全な地域を目指したいと考える。

地域ぐるみで「守り」、「育てる」安全・安心な宮山町づくり

～地域と共に子どもを「見守り」危険回避意識と安全への実行力を「育てる」～

小栗栖宮山小学校

取組の内容及び方法

1 取組の趣旨

住宅の殆どが小栗栖街道以西に位置する南北に長く伸びた校区であり、その西端は宮山の山肌で封じられている。南端部の府営団地から北端部の牛ヶ淵・岩ヶ淵町まで、閑静な住宅街が続いているが、その分小栗栖街道以西は人通りが少ない。また、昔からの細く入り組んだ地道も多く、子どもの見守りと同時に、二輪・自動車等との事故にも注意が必要である。一方、小栗栖街道及び学校の前の道路は車の往来も結構多く、交通ルールの遵守を子どもに徹底することが大切である。

上記の状況を鑑みて、地域では平成の初め頃から、地域各種団体及びPTA・学校が協力し合って、交通安全・防犯の呼びかけや看板作り等に早くから積極的な取組を進めてきた。また、地域各種団体・PTA・学校の代表が集う月例の定期会議では、その都度、問題点や課題を出し合い、共通理解しながら協力推進する組織体制を機能させてきた。それらを生かした、更なる「取組」の充実及び活性化を今後も進めていく。

2 「事故0をめざした交通安全」の取組

宮山自治町内会連絡協議会を中心として、子どもたちの通学路及び地域住民の通行に危険や不便のある箇所の見つけ出し、地道ではあるが、例えば路上の白線の書き直し、見通しの悪い箇所の是正、路上放置二輪車等への働きかけ等、交通安全のハード面での整備を、学校・PTAも協力し、普段の見守りを継続している。更に、毎年、地域で「子ども自転車安全教室」の実技講習会を開催し、子どもの安全への意識付けを図ってもらっている。

3 「校区安全マップ」から「宮山・子ども安全・安心マップ」へのステップ・アップ

長きに亘って校内に掲示されていた「校区安全マップ」を生かし、町別児童集会の時間に、子どもたちの目や経験から見た安全情報を加え、「子ども安全・安心マップ」へのステップ・アップ化を図った。さらに、学級活動等の時間に、それを「自分を守る」学習素材として活用していく。その際、「こども110番のいえ」の確認も取り入れていく。

4 「防犯ブザー全員携帯」への取組

平成16年度からPTAを中心に、地域各種団体等で子どもたち全員への防犯ブザー配布をめざし、「連れ去り忌避への意識付け」とその実践の活用に取り組んでいる。またPTAの地域委員や女性会が中心となり、朝の集団登校の見守りを継続してもらっている。

5 「宮山子どもみまもり隊」の発足とPTA声かけ運動の連携

醍醐地域全体での「醍醐こどもみまもり隊」の設立を受けて、「小栗栖宮山学区子どもみまもり隊」を発足させ、現在150名以上の地域の方が登録されている。「腕章」と宮山独自の「名札」を胸に、子どもたちの下校を中心に声かけ・パトロール・付き添い等の活動を通して、「安全・安心な町づくり」に活躍されている。さらに、従前より継続実施しているPTA「声かけ運動」との連携活動を企画している。



取組の成果と課題等

本校教育の特色のひとつである「部活動」及び「地域ぐるみの活動」への参加が消極的にならないように、絶えず地域各種団体・PTAと密接な連携を図り、「宮山の町」全体が子どもたちにとって「安心・安全」に過ごせること、及び、その中で子どもたちが「自他の生命を守ることや人間を大切に」意識を高め実行力を身に付けていけるよう、官公署との連絡も大切に、地道な取組を積み重ねながら、更に子どもの安全活動の活性化を進めていこうと努めている。

地域で守る子どもの安全

池田東小学校

取組の内容及び方法

1 池田東子どもみまもり隊

平成17年7月 みまもり隊結成趣旨説明・隊員募集開始

毎日、子どもの登下校に合わせて緑の腕章にシンボルマークの入った名札をつけたみまもり隊の方々に活動していただいている。

門口にたって子どもたちに「おはよう」と声をかけてくださる方、横断歩道で安全に渡れるように監視をしてくださっている方、中には子どもに付き添って学校まで来てくださる方などたくさんの方にお世話になっている。

下校時には、特に低学年の下校時刻に合わせて、校門まで迎えに出てくださる方や人通りの少ない公園付近に立ち「おかえり」の声をかけてくださる方、途中まで迎えに出てくださる方もある。その他、犬の散歩や買い物に出るときに緑の腕章や名札をつけて通学路を歩いている。

スクールガードリーダーさんからも「この校区はたくさんの方の協力があって安心ですね。」と言ってもらい、おかげで子どもたちはたくさんの方々の地域の方々に見守られて元気に通学している現状である。



2 親子で確かめた通学マップ

子どもたちの通学路の状況を親子で点検した。友だちと一緒に帰ってくるのはどこで、一人になるのはどこか、人通りが少ないのはどのあたりか、また、学校から家まで大体どれくらいの時間がかかるのかなどを実際に歩いて確かめてもらった。確かめたことを通学マップにかき入れ自宅に貼って活用してもらっている。

子どもたちの安全は地域の手で

～日野子ども見守り隊～

日野小学校

取組の内容及び方法

小学生が犠牲になる痛ましい事件が続発する昨今、本校では平成11年の本校での事件以来、児童の安全を守るため、様々な取組を行ってきた。インターホンやセンサーの設置等、ハード面での充実はもちろんのこと、教職員は、不審者対応訓練の実施、来校者への声かけの徹底、パトロールなど常に危機管理意識を持ちながら活動してきた。また、PTAには来校時の腕章着用、パトロールシートの活用、地域委員を中心にした登校時の引率などと、協力体制をとりながら児童の安全に努めてきた。

しかし、児童の安全は学校内だけでなく、地域に帰ったときにこそ守られる必要がある。特に本校区は南北に長く、30分もかけて登下校している児童も存在する。下校時には寂しい山すその道を一人で帰ることもなかりかねない状況から、地域全体で児童の安全を見守る体制の確立がかねてより望まれていた。

そうした願いから、地域の有志、学校、そして、事件以来、児童の安全について考えてきた「子育てを考える会」のメンバーらが中心になり、「見守り隊」結成に向けて準備を進め、地域全体に広く呼びかけた。

平成17年
6月、「日
野子ども見
守り隊～
SAFETY
HINO～」
が発足した。



現在登録

している隊員は162名。下校時に合わせて散歩をし、児童に声をかけてくださる人。登校時に、家から学校まで付き添ってくださる人。下校時には校門の前で児童を待って「おかえり」と声をかけて下さる人等々…。

「『さようなら』ではなく、学校から地域に帰ってきたのだから『おかえり』といって迎えたい。」といわれた隊員の方の言葉が印象的である。

「難しく考えず、まずできる範囲で協力を」という呼びかけから、入会も随時受け付けるし、



活動もそれぞれである。トレードマークは、紺色のキャップと、オレンジ色を基調にしたパトロールシート。

キャップに縫いとられた「SAFETY HINO」のオレンジ色の文字も鮮やかである。

また、毎月「見守り隊例会」を開き、互いに情報交換を行う場としている。放課後等の地域での児童の様子も話題になり、指導上おおいに参考になる場でもある。

去る12月20日には町別集会を実施したが、その中に見守り隊の方も参加していただいた。集団下校の際は、児童と保護者で危険箇所等を書き込んで新たに作った「安全マップ」を片手に、「ここは人通りが少ないし気をつけよう。」「ここが『こども110番のいえ』だね。」

と、確認しながらいっしょに歩いていただいた。



先日、保護者より電話が入った。

「子どもが友だちといっしょに帰ってきたのだが途中で一人になり、とても心細い思いをした。しかし、見守り隊の方がいっしょに歩いてくださり、家まで送ってくださった。とてもありがたかった。」という内容であった。

また、見守り隊の方からは「道で出会ったとき、子どもたちが元気に挨拶してくれるようになった。」という声も聞かれる。

地域と児童が太くつながり、そして地域の人々が児童の安全を至る所で守ってくださっていることを感じる時である。今後、この取組をさらに充実させ、保護者、地域全体で児童の安全を見守っていききたい。

「今日も元気だ 醍醐西っ子」みんなで見守っているよきみたちのことを!

醍醐西小学校

取組の内容及び方法

1 子どもみまもり隊



毎日、登下校の時に、カラフルな腕章をつけた複数の「子どもみまもり隊」の方が要所に立っておられる。子どもたちを取り巻く痛ましい事件が多発した昨年からお世話になっている。最初は戸惑っていた子どもたちも、今では元気に挨拶を交わしている。現在、地域の方100名以上が「子どもみまもり隊」に登録されている。また、「子どもみまもり隊」の方をゲストティーチャーとして招き、子どもたちに昔遊びを教えていただくなど交流を深めている。

2 地域女性会

毎月1日の朝、校門前に集合して、子どもたちに声かけをしていただいたり、毎週月曜日の放課後に、昼間留守家庭の子どもたちを集めて夕方まで面倒を見ていただいたりしている。また、環境学習の中で石鯿作りなどの支援を通して、積極的に子どもたちと接する機会を作ってもらっている。子どもたちは、近所のおばさんとして顔見知りになり、親しみをもっている。

3 PTA

毎月安全の日に、通学路の安全点検を兼ねて各地域（町別）ごとに集団登校に付き添って登校し、声かけ運動を校門前でしていただい

る。隣接の小中学校とも連携し、定期的に情報交換してもらっている。

4 少年補導

子ども見守り隊の一員として、毎朝登校指導に出ている。特に交通量の多い幹線道路の横断歩道付近に常駐していただいている。また、今年度「こども110番のいえ」を見直し、看板等の点検をしていただき、最寄の警察署に協力要請をしていただいた。

5 教職員

毎朝、校門前で学校長、生徒指導主任+で集団登校の様子を見守り、挨拶をかわしている。下校時には担任が町別ごとに下校指導をしている。部活動等に参加している子どもたちは部活動担当教諭が付き添い下校している。また、当番制で放課後（夕方）に校区内のスーパー等のパトロールを行っている。



6 スクールガードリーダー

月2~3回であるが、登下校パトロールの日には校区の隅々までパトロールし、一人で登下校したり、遊んでいる子どもがいたりすれば、必ず声かけしてもらっている。そして、通学路等のパトロール終了後、子どもの様子を学校に連絡してくださっている。

地域でまもる北醍醐の子

北醍醐小学校

取組の内容及び方法

1 見まもり隊の発足

北醍醐小学校区では、平成16年11月に地域の安全・子どもたちの安全は、地域で見守ることが地域の底力であると考え、北醍醐自治町内会連合会をはじめとした校区諸団体の呼びかけで、「北醍醐子どもの安全見まもり隊」が発足した。

2 活動内容

協力いただく活動内容は、以下の5項目である。朝の門掃きや花の水やり、犬の散歩などを子どもたちの登校時間帯に合わせる。

(午前8時～8時30分頃)

毎日の散歩やジョギングを子どもたちの登下校の時間帯に合わせる。

(午前8時～8時30分、午後2時30分～4時30分頃)

買い物の時間や、犬の散歩などを子どもたちの下校の時間帯に合わせる。

(午後2時30分～4時30分頃)

自転車のカゴにパトロール中のプレートをつける。

万一の緊急事態時、子どもたちの集団登下校の様子を、各地域の集合場所で見守っていた。



これらの内容で募集したところ、70名余りの応募があり、協力をお願いした。

「見まもり隊」の活動も2年目に入ったが、協力者の中には、当初から集団登校のグループを集合場所から学校まで送ってくださる方や、学

校前の交差点や通用門の前で、毎日子どもたちの安全を見守ってくださる方もあり、感謝の気持ちでいっぱいである。



子どもたちからも元気よく「おはようございます。」の声が聞かれるようになり、地域の皆さんとのつながりが強くなっていることが実感される。



「北醍醐見まもり隊」と書かれた黄色の腕章をはめた地域の皆さんの姿は、子どもたちの心に安心と安全を届けてくれている。

取組の成果と課題

- ・見まもり隊の活動の趣旨を理解していただき、地域全体に子どもの安心・安全に対する意識が広がってきた。
- ・安全意識の広がりとともに、腕章やバッジ等をつけて活動する方が、より抑止力が高まるのではないかと声もあがってきた。

地域ぐるみで子どもを守る『向島南みまもり隊』

向島南小学校

取組の内容及び方法

1 「向島南みまもり隊」の発足

昨今の子どもを狙った悲惨な事件を受け、学校の教職員やPTA、地域の方々などが向島南地域の子どもの安全について話し合う中で、地域の子の安全は地域ぐるみで守ろうということになり、昨年末「向島南みまもり隊」の発足が決まった。

PTAに協力いただき、「向島南みまもり隊」のロゴと向島南地域にちなんだ三十石船とツバメを背中にデザインした黄色の安全ベストを200着用意して、校区の全家庭に「みまもり隊」ボランティア募集の案内を配布した。地域行事などの機会も利用し、ボランティアの受付をしたところ、多数の方にボランティア登録をいただき、用意した200着のベストも残りがわずかになってきた。



2 「みまもり隊」ベストを着用して

犬の散歩や花の水やりなどを子どもたちの登下校の時間に合わせていただき、「みまもり隊」ベストを着用して子どもたちに声をかけられたり、安全を見守ってもらったりしている。校区を歩いていると、あちらこちらで「みまもり隊」ベストを着用していただいている方の姿を見かけることができるようになり、それを見てボランティアに応募していただける方も増えている。子どもたちに安心して声をかけられたり、黄色のベストを着ている「みまもり隊」の方同士でコミュニケーションを図れたり、地

域の方にも好評である。

3 「安全マップ」の作成

これまで交通安全の観点を重視して作成されていた「向島南安全マップ」を見直し、防犯安全を考えて改訂版を作成中である。保護者の方にも住まいの近くや通学路における危険箇所を指摘いただいた。

完成すれば、地域の全家庭に配布する予定である。



取組の成果と課題

これらの取組を通して、地域の防犯意識が高まってきたように思う。これからも「みまもり隊」のボランティア募集を続けるなど、地域ぐるみの防犯活動を続け、向島南校区すべての方々の目で、地域の子どもたちをあたたく見守っていただければと思っている。



みんなでまもる子どもの安全

待鳳小学校

取組の内容及び方法

1 組織

PTAが主体となって、平成16年度より「防犯ボランティア」を結成。保護者をはじめ、地域各種団体、地域の方々の協力のもと、より一層の充実に向けて取組を進めている。

2 登下校時声かけ運動

隔週に「防犯ボランティア」が中心となって、登下校時に、自宅前や交差点に立って、子どもの安全を見守っている。これには、地域のボランティアの方々も参加していただいている。「おはよう」「おかえりなさい」の声かけに子どもたちは安心して登下校をしている。



<声かけ運動>

3 防犯訓練・防犯教室

学校に不審者が侵入してきた時、学校外で不審者に声をかけられたり、いたずらをされそうになった時を想定して「防犯訓練・防犯教室」を、平成15年度より、上鴨警察署・待鳳防犯推進委員会の協力のもと実施している。この様子は保護者の方々に参観していただき、家庭で話し合う機会ともなっている。

4 防犯ブザー

平成15年、創立130周年を機会に、PTAより記念品としていただき、全校児童が防犯ブザーの携帯をはじめた。その後、新1年生には、待鳳社会福祉協議会の入学祝として配布していただいている。子どもたちは、カバンや首にぶら下げ、いざという時に使用できるように、常に携帯している。



<防犯ブザー>

5 待鳳学区“気をつけよう!”マップ

以前より作成していた「安全マップ」を防犯ボランティアが中心となって、交通安全・防犯の視点にたって、マップの見直しを実施し、作成しなおした。出来上がったマップを全保護者に配布するとともに、地域回覧をした。



<安全マップ>

6 防犯プレートの作成・配布

平成11年度より安全プレートを作成、保護者や地域に配布している。自転車やバイクの前かごにつけていただき、買い物など出かける機会にパトロールを兼ねた啓発活動として実施している。



<防犯プレート>

一人一人が防犯を意識しみんなで子どもを守る学校安全活動

紫竹小学校

取組の内容及び方法

1 不審者の学校内侵入を防ぐ中扉の設置

全教職員が防犯ブザーや笛を携帯するとともに、校外外の防犯パトロールを実施している。また、本校は、東側にある正門のみ開門しているが、その正門からの不審者を防ぐために、デジタルディスクレコーダ付きの防犯カメラの設置とともに、正門から20メートル入った所に中扉を設置している。朝は、児童が登校した後に閉門し、下校時には最初に授業が終了する学年に合わせて中扉を半分開門している。この中扉があることで、不審者には学校への侵入に抵抗感が生じ、防犯に繋がっている。



< 中扉の設置 >

2 地域で子どもを守るために「こども110番のいえ」を増やす取組

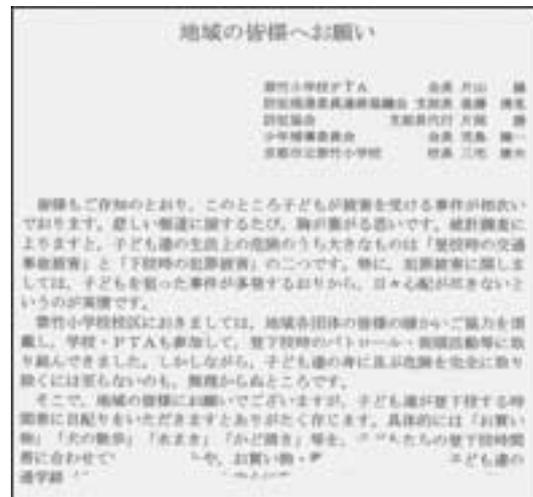
本校では、全児童が防犯ブザーを携帯するとともに、使い方や非常時の対応の仕方について警察署や「平安レディース隊」等の協力を得て、訓練を実施することで、防犯に対する意識を高めている。

また、地域の防犯に対する意識を高めるためのきめの細かい啓発活動や、PTAからの「こども110番のいえ」の新規登録のお願い(12月12日付で配布)を家庭や地域に配布したことにより、以前より軒数が増え132軒の方の協力を得ることができた。また、この「こども110番のいえ」のマップを家庭だけでなく地域全体に配布することにより、今まで以上に学校安全活動が展開されている。



3 一人一人が防犯を意識しみんなで守る学校安全の取組

学校、及び、PTAと各種団体(紫竹防犯推進連絡協議会、紫竹防犯協議会、紫竹少年補導委員会など)が協力して登下校時に子どもを見守る防犯パトロールや街頭活動に取り組んでいる。また、児童の登下校の時間帯に合わせて、「買い物」「犬の散歩」「水まき」「門掃き」などの実施や、児童の通学路を利用した「買い物」「散歩」などの実施のお願いの回覧文を町内会で回すなど、地域の一人一人が防犯を意識し、みんなで守る学校安全活動を展開している。



< 地域諸団体からの呼びかけの回覧版 >

みんなで守ろう子どもたち

音羽川小学校

取組の内容及び方法

1 「こども110番のいえ」協力者の倍増

子どもの命が奪われる事件等が連続する中、地域の子どもは地域で守ろうとの意識のもと、自治連合会の「防犯推進委員会」が中心となり今までの「こども110番のいえ」の増強を図ることになった。

まず、通学路の再点検を行った。子どもたちの安全をより図るために、現在ある「こども110番のいえ」の実態より、距離的に離れすぎの区間を明らかにした。すぐさま、新たに設置すべき場所をある程度確定した後、依頼活動を行った。皆さん、依頼の意図を汲み取ってくださり、快く引き受けていただくことができた。今までは約70軒程度であったのを一気に倍増の120軒にまで増やすことができた。



この名簿をもとに地図上にプロットする作業は、連携を図っているPTAが行った。住所から場所を1軒1軒確定していった。さらには、通学路の再点検から明らかになった危険な場所についても記載していった。今までは、交通安全を中心とした「安全マップ」であったが、人通りの少ない場所や見通しがよくない場所、人家の少ない場所などを明らかにした。これら全てを網羅した「新安全マップ」が作成され、これをもとに全学級一斉に指導を行うとともに、全家庭に配布し、子どもを守るために各家庭で子どもの実態や通学路の実態をもとにした話し合いをしていただくこと、家庭での約束ごとや気をつけることなどについても話し合う中で決めていただくよう依頼した。このような取組を

通じて子どもを守る機運が広がっている。

2 「通常の取組」を更に広げよう

今までも児童の登校・下校時間に合わせて「散歩をする。」「犬を連れて歩く。」「掃除をする。」「花の世話をする。」「買い物に行く。」「家を出て近くまで迎えに行く。」などの取組が行われているが、さらにこの取組を広げることによって子どもを守ろうとの話し合いのもと、学校、PTA、地域の各種団体等の広報により地域全体へ機運を高めることができた。

特に自治連合会の会合において学校より紹介・依頼した「こどもあんしん・あんぜんパトロール中」の腕章などについては、すぐにそれらをつけての活動が行われるようになっている。今までと変わらない活動ではあっても腕章をつけることによって、さらに活動の広がりが目に見えるものとなるとともに、今まで以上に地域で子どもを守るという意識の向上が図れた。

スクールガードリーダーの方からも「音羽川の地域はよく皆で子どもを守ろうとしている。」という話をうかがっている。

学校評議員の方々も以前から、子どもの安全に関しては心配しておられ、ご自身が所属する機関や地域の方へ積極的にアプローチされ、話し合った内容をすぐに実践へと移していただいている。

今まで児童の安全確保に取り組んでいただいていた方でこの度腕章をつけていただいた方には、「腕章をつけたことにより、誰はばかることなく今まで以上に子どもに声をかけやすくなった。」と喜んでいただいている。



子どもの安全は学校とPTA・地域が連携して守る!

嵯峨小学校

取組の内容及び方法

1 PTAと子どもと一緒にの地域安全マップづくり



嵯峨小学校区内は広く、登下校時の子どもの安全対策が急務であった。昨年度、児童の安全指導のため、「きょうとCAP」のワークショップを教職員研修として実施し、今年度は全教室で子どもたちにワークショップを行うことで、自分の安全を自分で守ることができる子どもに育てていくようにした。しかし、子ども自身が校区内の危険な場所を把握しているというわけではなかった。そこで、PTAと子どもたちが一緒になって、地域の危険な場所を出し合い作り上げたのが今回の「地域安全マップ」である。「過去に事件や事故が起きた場所」「不審者が隠れやすい場所」「見通しの悪い所」「危険なところ」など5観点で、自分たちの通学路の安全を見直し、それを校区地図内に表示していった。また、集団下校で地域委員さんと担当教員が子どもたちとともに、実際の場所で確認することができた。



2 交通安全推進会による登校班ごとの引率指導

本校では以前から、毎月初めに嵯峨交通安全推進会の方々に各登校班を引率指導していただいている。以前は交通安全を中心とする安全活動であったが、最近の事件をもとに防犯上の安全対策にも重心が移ってきており、子どもの安全を見守っていただいている。また、右京防犯推進委員連絡協議会嵯峨支部の方々に、「こども110番のいえ」を32軒から55軒に増やしていただいたが、今後も増やしていただける方向である。そうすることによって、不審者から子どもを守る地域の皆様方の意識の広がりを期待している。



3 緊急アピールなどで校区全体への協力依頼

児童の登下校の安全を図るため、嵯峨自治会連合会の協力により「安全対策宣言」や「緊急アピール」を嵯峨小学校区全域に出して、子どもたちの安全を守る取組を強化している。そして、事件発生や不審者出没の情報が入ると、ただちに警察や地域の各種団体にも連絡し、協力できる体制を整えている。

4 学校における新たな安全対策

本校は、区役所の出張所と門が兼用になっている。そのため、門を閉めることができない。そこで、校門内にフェンスと門扉を3箇所設置し、2箇所は施錠し、出入り口を1箇所のみにするとともに、児童の全家庭に名札を配布し、来校の際の着用をお願いしている。また、万が一、不審者が侵入した場合に備え、全教室等に刺又(さすまた)を常備した。他に、学校ホームページに京都府警の「子ども安全情報速報」のサイトをリンクさせ、より速い情報発信に努めている。

みんなで作るみんなの安全マップ

山ノ内小学校

取組の内容及び方法

12月22日に町別児童会が中心となって、自治連合会及び監視ボランティアやPTAの地域委員等の協力を得て、「地域ぐるみ通学路総点検」を行った。

この日は、5校時に監視ボランティアの方々への「感謝の集い」を全校で行った後、全校児童が町別に分かれ、監視ボランティアや地域委員のみなさん、町担当教員と一緒に下校しながら通学路の安全点検をした。

その結果、「家と家に挟まれた路地だが、それぞれの家の裏側になっていて、何かあっても駆け込んで助けを求めることができないかもしれないので不安だ。」「街灯が1つもなくとても暗くて怖い。」「駐車場が多く人通りが少ない。」「木の茂みや植え込みがあり、人が隠れていてもわからない。」「赤信号なのに自転車に乗った人が止まらずに通り過ぎていくことがよくあって、とても危ない思いをしている所がある。」「監視ボランティアの人にここにも立ってほしい。」など子どもの目線で感じた気づきが明らかになった。

そこで、この気づきをどう生かしていくか、町別児童会の町班長・副班長・書記の子どもたちと何度か町別会議をもって話し合った結果、校区の安全マップを作り、気付いたことをそのマップに情報として集約していくことになった。

1月23日6校時、学校からは町班長・副班長・書記の子どもたちと町担当の教員、地域からは自治連合会及び監視ボランティア、PTAの地域委員のみなさん等が学校の体育館に集合し、「山ノ内校区安全マップ」の作成に取りかかった。



まず、町ブロックごとにいくつかの町が集まって、町別会議で出た気づきや情報を地域の人たちと交流しながら、「メモマップ」に記入し整理した。

その後、体育館中央に町班長が集まり、畳二畳大の「安全マップ」にそれぞれの気づきを寄せ合い、情報を集約して1枚の安全マップを作成した。

この際、子どもたちがスムーズに活動できるようにパソコンで情報をイラスト化したシールを用いることにより、作成後にマップを見て、校区のどこにどんな情報があるかということが一目で分かるようにした。



完成した「安全マップ」を見ながら、「いつも通っている通学路にも危険な所があることが分かった。」「校区の中の様子がよく分かり、遊びに行くときも気をつけようと思った。」「みんなと一緒に調べて楽しかったし、注意しなければいけない所が分かった。」「家の人にも知らせたい。」などの感想が子どもたちから多く聞かれた。

この活動を通して、通学路という子どもたちにとって一番身近な所を自分たちで点検して調べたということで、児童全員が自分のこととしてかわることができた。また、地域の多くの人たちの協力で、自分たちの毎日の安全が守られているんだということも分かったようだ。

今後、この経験を生かし、みんなで作ったこの「安全マップ」を有効に活用していきたい。

みんなで作ろう学校安全

川岡東小学校

取組の内容及び方法

1 防犯訓練

7月8日(金)に西京警察署から2名の警察官に来ていただき防犯訓練を行った。不審者が廊下をウロウロしているという想定で児童が体育館に避難する様子を見ていただき、その後不審者にあつた時にどうすればよいか、児童に具体的にお話をしていただいた。また、教職員にも今日の反省点を指摘していただいたり、刺股の正しい使い方も教えていただいたりして充実した防犯訓練になった。



2 学校防犯安全マップ

12月よりPTAの協力のもと、防犯安全マップの作成に取りかかった。地域委員や町内会長の皆様に地域の安全や防犯について気のついたことを報告してもらった。また、学校も各学年ごとに下校時の安全について、児童と担任と一緒に危険箇所を一つ一つ確かめながら帰った。

地域委員や町内会と各学年から出された危険内容を集約して、校区の地図にかきあげた。

1枚の校区地図に集約してみると、今まで気がつかなかったところが危険な箇所であったり、安全であるはずの公園が人通りが少なく危険であったりすることが分かった。

この防犯安全マップをもとにして、家族で十分に話し合うことにより、常日頃から防犯について意識させたい。



3 下校時安全指導

9月から川岡東学区交通安全推進委員会と西京警察署、PTAが連携して、毎週月曜日の2時30分からの児童の下校時に合わせて正門前の車両通行禁止道路の両端に立って車が進入しないように指導を行った。

以前から通行禁止時間帯であるにも関わらず、通行している車両が多い。

ドライバーの多くはその道路が通行禁止道路とは知らないで通行している。週一回の指導ではあるが、少しは意識して通行を控える車も出てきた。しかし、標識が小さく分かりにくいいため、通行禁止ゾーンとは知らないで進入してくるドライバーもまだいる。

児童の安全を確保するために警察の指導が今後も必要である。



地域と連携した学校安全活動

深草小学校

取組の内容及び方法

1 学校の取組

児童会による毎月1日の声かけ運動（おはよう登校デー）、教職員は毎朝2ヶ所の校門前で声かけ運動を行っている。

毎月1回「安全の日」に学級指導と安全点検を行う。



年間3回避難訓練を実施（地震・火災・不審者侵入）。

- ・教職員の危機管理意識を高めるとともに、児童に防犯意識や必要な知識・技能を習得させる。

11月に交通巡視員の方を招いての自転車教室の実施。

放課後、定期的に地域パトロールの実施。

2 PTAの活動

地域委員が通学路の要注意箇所の点検をし、関係機関へ改善依頼の要望書を提出する。

登校下校時の見守り活動をする。

自転車のかごに「パトロール中」のステッカーをつける。

約850名の児童全員に防犯ベルと「防犯ベル携帯中」のステッカーを配布する。



地域委員が、「こども110番のいえ」を訪問して、新しい旗やプレートを渡す。「こども110番のいえ」を記入した学校安全マップを作成し、家庭数配布するとともに、職員室前に安全マップの拡大図を掲示する。



3 学校安全ボランティアの活動

学校安全ボランティアの会を定期的開催する。

- ・情報交換をする。
- ・地区別に代表者を定める。

学校安全ボランティアは「子ども安心・安全パトロール」の腕章をつけて、登下校時の見守り活動を行う。



自治連合会や各種団体連合会での協力を呼びかける。

自転車のかごに「パトロール中」のステッカーをつける。

4 その他

スクールガード・リーダーによる週1回登下校時に校区内の巡回パトロール実施。

地域・保護者 みんなで守る竹田の子

～不審者侵入防止と登下校を見守る地域～

竹田小学校

取組の内容及び方法

1 取組の趣旨

竹田小学校は、近鉄、地下鉄竹田駅、国道24号線・新油小路通り、名神南インターチェンジ・竹田バスターミナルに直結する京都市南部交通の要になる地域であるにもかかわらず、昼間に校区内を通行する人々の姿はまばらであり、住宅・農地の間を通過して登下校する児童が多く、死角になる場所も多いため、地域全体で児童の安全確保に目を向けていこうとする意識を高めていく取組を行っている。

2 全家庭に入校証の配布

本年度、学校への不審者侵入防止を目的に2カ所ある校門の昼間閉鎖を実施した。

そこで、地域・保護者に対して校門閉鎖についての伝達告知を行い、入校の際には、「入校証」の着用をお願いし、在籍保護者家庭に1枚ずつ「入校証」を作成し配布した。

しかし、来校者は、家庭に1人とは限られてはいないので、大きな行事などの時は「PTA校外安全委員会」の協力で、校門にて入校者の確認を行って上で、来校者全員に入校証をつけてもらうことにした。

現在、入校の折りには、インターホンでの確認とともに入校証の着用が定着した。



3 腕章と表示板の配布

児童が安心して登下校できるように、地域・保護者の方々にパトロール用の腕章や自転車前籠用の安全パトロール表示板の配布と、地域パトロールボランティアの募集を行った。

地域パトロール用の腕章と前籠表示板は、地域内での散歩や買い物・近所に出かけるときに着用にいただくとともに登下校時刻などに合わせて校区内に出させていただくように協力要請を行った。

あえて、時間や場所を決めてパトロールを行うのではなく、出かけるときのついでに着用していただくことを伝えることで、着用希望者が増えた。

また、別に校区パトロールボランティア募集の呼びかけに対しては、16名の保護者から協力の申し出があり、数名の保護者が、毎日下校時刻に合わせて校門で児童の下校を見守る姿が見受けられるようになった。

4 「こども110番のいえ」の確認と依頼

伏見警察署との連携を行い、校区内で「こども110番のいえ」を実施していただいている家庭を確認し校区地図に印を付けてマップ作りを行った。

また、今後校区内で「こども110番のいえ」に協力していただけたような家庭については、直接表示板や旗を持って行き、登録していただいた。



地域ぐるみで守る子どもの安全

桃山南小学校

取組の内容及び方法

1 子どもを守る組織

地域と学校が連携をとり、安全な学区づくりに取り組み組織として本校には「学校 P T A 安全対策委員会」がある。P T A 役員と O B, それに学校長はじめとする教職員が加わった組織である。学校児童の安全対策を中心とした協議が定期的に行われる。以下に述べるパトロールや子ども安全の家、安全マップもこの委員会からの提案が具現化されたものである。

そのほか、地域住民を中心とした防犯推進委員会では夜間パトロールしたり児童用に防犯ブザーを配布したりしていただいている。また、自治連合会では所属の各町内での夜回りを推進している。

2 不審者を見逃さない目

不審者から子どもを守るため、大人の目は欠かせない。自転車の前かごに「パトロール中」のプレートをつけお店へ行く買い物パトロール、犬の散歩を兼ねたワンワンパトロールが行われている。門掃きもできるだけ子どもの登校時や下校時に合わせてしていただくようお願いしている。元気な子どもたちの姿を見ながらの散歩や門掃きは、自分も元気をもらえると、お年寄りにもなかなか好評である。



昨今のように子どもが被害者になる事件が多いとパトロールの大切さは増している。パトロールをしている人だとはっきりわかった方がやりやすいとの声も上がってきた。そこで、P T A の協力を得て「ももみなみ P T A パトロール」と文字の入った腕章も新調され、さっそく P T A の役員の方や教職員が使っている。

3 子どもを守る安全の家

本校の学区には警察の「こども110番のいえ」のほか P T A が独自に推進している「子ども安全の家」がある。目的は緊急時の子どもを避難させ、安全を守ることであり同じである。ただ「こども110番のいえ」だけでは軒数が必ずしも十分ではないと思われる。本校では「子ども安全の家」も加えて、多くの家が子どもの安全を守っている。このような家がたくさんあることは子どもにとって安心であるばかりか、子どもの安全を守ろうとする住民意識の高揚につながり犯罪者に対しては抑止力にもなっている。

4 地域の人は顔なじみ

地域のつながりが希薄になっているといわれる現代だが、子どもと地域の方とのつながりを少しでも強めていくことが必要である。朝のおはようの声かけ運動や学校で行われる地域の方との交流学習も子どもたちと地域の方のつながりを深めるよい機会となっている。地域のみなが顔なじみで犯罪の起こらない街づくりをめざしていきたい。

5 自分の身は自分で守る

安全教育の基本は「自分の身は自分で守る」である。自分たちの住んでいる学区にはどんなところにどんな施設があって、どこにはどんな危険があるのかを自分で知ることが大事である。

大きな色刷りの安全マップは全家庭に配布された。子どもだけでなく、家族との安全を話題にした対話が深まっている。P T A 会員である保護者や児童と教職員の声を地図にした力作である。



子どもを守る・学校を守る

～子どもと共に考える安全な暮らし～

池田小学校

取組の内容及び方法

1 校内パトロール

校内のあちこちで子どもたちが遊んでいる中間休みや昼休みは、不審者の侵入を想定した場合、非常に危険な時間帯である。そこで、学年ごとに当番を決め、校内パトロールを毎日実施している。遊びの安全性やベル着を確かめるなど、生徒指導面での指導にも同時に取り組んでいる。来校者や子どもの様子について、必ずパトロール日誌に記入するようにしている。

2 校区内パトロール

学年ごとに当番を決め、校区内パトロールを毎週1回実施している。防犯マップをもとに重点的に巡回をしており、何か問題点があれば、パトロール日誌に記入し、全体への報告・連絡に活用している。校区を外れた位置にあるゲームセンター等も巡回するので、防犯だけではなく、生徒指導面での指導も兼ねている。長期休業中には、パトロール週間を設けて、多数の教員で集中的に実施し、子どもたちを見守るようにしている。また、事件や不審者の情報が伝えられた場合には、ある一定の期間、下校時刻に合わせて、担任外の教員が臨時のパトロールに出るようにしている。

3 子どもへの指導

防犯用ホイッスルの携帯

子どもたちは全員が防犯用のホイッスルを携帯している。これはPTAからの寄贈であり、新入生や転入生には無料で配布される。定期的に学級で点検をして、紛失した子どもには購入を勧め、常時携帯ができるように配慮している。

全校の子どもたちで受ける防犯学習

冬季休業前に、全校朝会で防犯学習を実施した。不審者を校内に入れないようにする仕組みを説明したり、誘拐犯から身を守る方法を指導したりするなど、子どもに防犯の意識を育てる指導を行った。パワーポイントにより作成した自主教材を使用して学習を進めることで、子どもの視覚に訴えるようにした。今後は体験的な学習を積極的に取り入れたプログラムも開発していこうと考えている。

子どもたちとつくる防犯マップ

まず、町別児童会における町の班長と副班長が大きな校区図を前にして、交通安全の面から、あるいは防犯の面から危険と思われる所について話し合った。話し合いの内容を記入した校区図をもとに、教職員やPTAの意見を書き加えて、防犯マップを完成させた。このマップは、校区内の幼稚園・保育園・児童館にも配布する。今後はその防犯マップを教材にして、実際に校区を歩きながら防犯の学習を進める予定である。



4 校内防犯システム

平成17年5月には、地域の自治町内会連合会の寄付により、正門と南門の2ヶ所に電磁ロックシステムを完備した。インターホンによる応答の後、遠隔操作によってロックを解除するようになっている。また、防犯カメラは合計4台となり、新規の2台はカラーモニターにつながっている。すべてのカメラの映像は、24時間録画が可能となっている。これらのシステムを有効に活用して、不審者の侵入を未然に防いでいる。

さすまたを各校舎に、警棒を職員室に設置し、万が一不審者の侵入があった場合を想定し、対処の方法や警察など関係機関への連絡についてもマニュアルに従った準備をしている。

5 教職員・PTA

教職員の名札・防犯ホイッスルの常時携帯の徹底、来校者への挨拶と声かけの奨励などには積極的に取り組み、ことあるごとに防犯意識の高まりを促すようにしている。授業参観等で、校門の電磁ロックを解除しなければならない時は、PTAの協力を得て、受付を設け、人の目による監視体制を強化している。また、自由参観日には、山科警察署生活安全課の方に「子どもの安全を守る」の演題で講演をお願いし、啓発に努めた。

地域・家庭とともに子どもを守る

納所小学校

取組の内容及び方法

1 納所小安心安全まちづくりプロジェクトチーム

本年度、自治連合会を中心に「納所安心安全まちづくり協議会」が結成された。まず、子どもの安全に対して出来ることは保護者・学校から提案しようとPTA会長・地域委員長・おやじの会会長、副会長・教職員でプロジェクトチームを結成し話し合いを行った。

特に11月の広島での事件を受け、保護者・地域で出来ることを出し合った。「こども110番のいえ」の見直しと活用について、子どもたちを地域全体で見守るために出来ることはないか等の意見が出された。

1月には防犯教室の実施について話し合い、子どもと親が参加できる防犯教室の実施に向け、取り組んでいくことを確認した。

2 こども110番のいえの見直しと活用の推進

納所学区には以前から27件の家に「こども110番のいえ」をお引き受けいただいていた。しかし、校区全体を網羅しておらず地域に偏りがあり、数もすくなく不安があった。まず、納所防犯推進協議会の会長と教職員が以前から引き受けいただいている27軒の家を回り再度の依頼を行った。その後、PTA会長と教職員で校区内を回り、新たに18軒の家に「こども110番のいえ」をお願いした。



そして、新しく「こども110番のいえマップ」を作成し、全家庭に配布し家庭で近所の「こども110番のいえ」を確認していただいた。また、このマップをもとに各学年別に校区内を回り、子どもたち一人一人が実際に校区内の「こども110番のいえ」の場所を確認した。



3 子ども見守りタイム

子どもたちの下校時の安全を地域全体で見守っていただくため「子ども見守りタイム」のプリントを作成し各町内会長さんのご協力を得て学区の全世帯に配布し協力をお願いした。

プリント配布後、子どもたちの下校時刻に合わせて、犬の散歩や買い物に出られる方の姿が以前より多く見られるようになった。



4 キッズサポートデイ

平成13年9月大阪教育大学附属池田小学校の事件をきっかけに、保護者が輪番で登校時・休み時間・下校時教職員とともに校門前に立ち、子どもを見守ることを始めた。

その後「キッズサポートデイ・学校にいこう」というスローガンを掲げた。毎月第1・3水曜日に地域委員を中心に都合のつく保護者が子どもたちの集団登校場所に集まり、一緒に登校し校門前で全児童が登校するまで「おはようございます」の声かけを行っている。

取組の成果と課題

これらの取組を進めたことにより、保護者・地域の方々に地域の子どもの見守っていきこうという思いが定着してきた。今後、子どもの下校時の安全確保、人通りの少ない道路に対する対策等、取組を充実発展させるため、保護者・地域の方々に、地域の各団体と連携をはかり、納所小学校の子どもたちを見守っていききたい。

地域で取り組む安全活動

二の丸北小学校

取組の内容及び方法

本校は向島ニュータウンの中にあり、校区の住宅は高層の建物が大部分を占めている。そのため校区は狭いが、住宅は垂直に広がり、戸数は多い。したがって児童の通学距離も短く、集団登校も行っていない。また、ニュータウン設立と同時に入居した家庭では、学齢児童がいなくなり、現在の児童在籍数は119名と少数である。

このような環境にあり、そのための環境に応じた安全対策も考えていく必要がある。例えば、エレベーターに乗る機会も多く、その中での犯罪に遭わないための対処法や、商店がなく人通りも少ない場所での危険をどう避けるか等課題も多い。

下の写真は学校で作成した校区の安全マップである。模造紙大であり、校内の目に付く場所に掲示し児童の注意を促している。また縮小版をプリントし、保護者・地域関係団体・交番等に配布した。このマップにはその場所の様子が分かるよう、写真が貼られ、吹き出しには注意事項がコメントされている。



<安全マップ>

この図をもとに、児童の下校時には、教職員によるパトロールを行っている。また、パトロール中であることが周囲によく分かるよう、腕章と帽子を身につけて巡回している。

この安全グッズを、PTA・地域の団体にも配布し、協力をよびかけたところ、登下校時にPTAや楽生会（老人会）の有志によるパト

ロールも始まっている。特にPTAは日ごとに当番を決め、曜日ごとの児童の下校時刻に合わせ、通学路をパトロールをしている。



<安全グッズ>

登校時（7:45～8:30）には、毎朝校門前に教頭・校長・PTA役員が交互に立ち、横断歩道を渡る児童の交通安全を見守るとともに、不審者の警戒にもあたっている。

本校は職員数・保護者数ともに少人数であることから、最近PTAを中心として、「子ども守り隊」を立ち上げ、各棟の管理組合や、自治会、少年補導等にも、登下校時のパトロールの協力を呼びかけている。

このように、パトロールに参加する人員を少しでも増やしていくことが、子どもを守るとともに地域全体の防犯意識を高めることになると考えている。

また、子どもにも自分を守ることを意識つけるため、専門家による講習や防犯ブザーの着用を計画している。



<朝の校門前>

危険箇所総点検、みんなで見守ろう校区の安全

神川小学校

取組の内容及び方法

1 校区の点検活動

8月8日(月)学校PTA,久我連合自治会,地域女性会,消防分団,少年補導委員会等の諸団体と向日町警察署の方と一緒に,地域の安全について話し合いがもたれた。

そして,子どもにとって危険な所,「交通量が多い所」「人が少なく,さびしい所」等を実際に3つ班に分かれ,校区内を歩き,点検を行った。



2 プレートの取り付け

10月11日(月)危険箇所の点検をもとに,久我連合自治会の協力で「ちかん 不審者 注意」のプレートを作成し,危険箇所に取り付けていった。子どもたちの登下校の時,少しでも地域の方々が安全に目を向けてもらえるよう,また,子どもたちにも注意を促すだけでなく,犯罪に対する抑止力にもなることと考えている。そして,この地域が,子どもたちにとって住みやすい所になればと願っている。



3 「安全マップ」の作成

夏休み中に,PTA本部役員を中心に「こども110番のいえ」の見直しをした。新たに協力を得た家を加え,「こども110番のいえ」の地図を作成するとともに,子どもたちや保護者に知らせた。

また,集団下校の時,教員といっしょに「こども110番のいえ」の確認も行った。

そして,この「こども110番のいえ」の地図に夏休みに調べた「危険箇所」を加えて,本校独自の安全マップを作成した。



今後の取組

これからも,地域の協力を得て,「こども110番のいえ」を増やしたり,諸団体の皆さんにも自転車の前かごに「パトロール中」のプレートを付けて子どもたちを見守っていただいたりして,子どもたちが安心して生活できるよう,地域の安全の輪を広げていきたい。

たかがみね子ども安全の日

鷹峯小学校

取組の内容と方法

1 取組の背景

平成16年の11月に奈良県で起こった小学女児児童誘拐殺人事件をきっかけに、本学区でも子どもの安全を確保するための具体的な取組を行うことになった。それ以前から、子どもの登校時には玄関まで見送ることや道で出会った子どもたちへ声をかけることなど、PTAを中心として、「無理せず、継続できること」に取り組んできた。しかしながら、小さな子どもを狙った犯罪がいつどこで発生してもおかしくない状況を考えて時、本学区でも具体的な行動を起こすことが必要となったのである。



当初は、学校・PTA・少年補導委員会・防犯推進の4団体で朝の時間帯の登校指導を行った。しかしながら、子どもを守るための取組は、学区として実施していく必要があることから、本学区の自治会の中心である鷹峯社会福祉協議会の全面的な協力の下、定期的・継続的に取り組むことになったのである。

2 取組の内容

- ・毎月15日を「たかがみね子ども安全の日」とし、緑色の防犯ウインドブレーカーを着用して、朝の登校時間帯にメインの通学路である鷹峯街道に立って「おはよう」の声をかけながら子どもたちを見守っている。
- ・日常的な取組として、「防犯ウインドブレーカーを買い物時などに着用してもらう」「下校時刻に合わせてなるべく外に出てもらう」などを校区の方をお願いしている。
- ・従来からの「こどもの110番のいえ」の軒数を増やすとともに、地域全体にも周知した。

3 方法

防犯ウインドブレーカー

社会福祉協議会において購入されたウインドブレーカーは、地域の各種団体や各町内会に数枚ずつ配布され、「たかがみね子ども安全の日」にはもちろんのこと、機会を捉えて日常的に着用してもらうことにした。

一方、学校・PTAでは、背中に「TAKAGAMINE」の文字を入れたウインドブレーカーを作り、教職員及び今年度のPTAの全ての委員に配布した。安全の日だけでなく、日常的にもPTAの諸行事の折に着用してもらっている。



「たかがみね子ども安全の日」の動き

毎月15日を「たかがみね子ども安全の日」とし、朝の登校時間にウインドブレーカーを着用して、集団登校の場所や通学路に立って子どもを見守ってもらう。

取組の成果と課題

お互いの顔が見えれば見えるほど安心できる地域であると考えている。大人の側から見ると知っている子どもほど声がかかりやすいし、子どもの側からしても知っている人には、いざという時に助けを求めやすいのは当然である。今回の「たかがみね子ども安全の日」は、学区全体から「おはようございます」という挨拶が聞こえてくる日なのである。「この取組を始めてから、道で出会った時にあいさつをしてくれる子どもが増えました。」という声をよく聞くようになった。「たかがみね子ども安全の日」をきっかけに、今後も顔の見える地域づくりを進めていきたい。

朝の校門前立ち番による安全確保

安朱学校

取組の内容及び方法

1 正門前・児童通用門の立ち番と朝の挨拶

- 参加者 P T A本部役員及び管理職・教務主任・担任(学年単位)・児童会役員
- 取組日 毎朝(月・火・水・木・金)
- 時間帯 8:00~8:25
- 取組 正門前・児童通用門の立ち番
- ・毎朝、正門・児童通用門の各入り口に立ち、子どもたちの登校を見守る。
 - ・毎朝、正門・児童通用門で、P T A役員・管理職・教務主任・担任(学年単位)で朝の声かけ『おはようございます』運動をする。
 - ・校門の開閉...児童登校後、児童通用門施錠・正門も閉門、かんぬきをかける。出入りは正門横小門から行う。



2 地域で子どもを守る絆づくり(安朱夏祭り)

安朱で初めての試み「安朱ときめき夏祭り」をきっかけに地域の人々と子どもたちが顔見知りになり、地域の人々との絆を深める事が、地域の安全安心につながる。

学校へ通う子どもたちが困ったとき話ができる。危険な目にあいそうになったらかけこめる。ルールを守らない行動はしっかり注意をしてくれる。子どもの成長には、まわりの温かな大人のまなざしが必要である。

組織 自治連合会役員(少年補導・民生委員・消防分団)安朱PTA本部役員・教職員

取組

- ・緊急避難場所「こども110番のいえ」設置場所の再調査及び新規設置依頼。
 - 「こども110番のいえのプレート」貼り付け
 - ・自転車前籠用「安朱小パトロール中」のプレート作成及び協力依頼
 - ・下校路付近の保護者に下校時の子どもへの声かけ依頼
- *安朱見守り隊たちあげに向けて...
- 下校路の校区内パトロール・各コース(赤・黄・緑・青)の4コースごとにルートをかえてPTA役員・教務主任・少年補導会長・自治連合会役員で危険箇所の確認と安全指導を行う。

家庭や地域の見守りによる登下校の安全確保

～ 家庭や地域の協力で子どもの安全を守る ～

鏡山小学校

取組の内容及び方法

1 取組の趣旨

本校の校区は山科盆地の西に広がり広範囲である。渋谷街道、大石道等の主要道路が通っており交通量は大変多い。また、交通量の割には道路が狭く、また、カ-ブが多く見通しが悪い。朝は生活道路にも車が入ってくる。校区には観光名所も見られるが、ほとんどが住宅地である。それ故、地域の目は届きやすい。「こども110番のいえ」も100軒を超えている。

そして、登下校の安全確保は、普段からの安全教育のもと家庭の協力や地域の多くのボランティアや教職員の出勤時の見守り等によって支えられている。特に狭い通学路を通行する車からの安全確保に対しては、家庭や地域の方々の声かけや誘導は大きな支えとなっている。

力が支えている。下校時刻は学年によって違うので、30分交代で校門付近に立ち「さようなら」「気をつけてね」の声かけをして下校する子どもを見送る。多くの保護者が交代で行っているため、いろいろな保護者とふれあういい機会となっている。



2 登下校の安全

朝の登校時、「おはよう」の声かけとともに家庭や地域の方々の見守りが始まる。通学路に続く交差点の入り口や信号はあるが車の通行量の多い交差点、校門付近等通学路上危険と思われる場所での誘導や安全確認を行っている。この安全を守る活動は、子どもたちが登校するまで続けられている。



4 PTAや地域の方々のパトロール協力

防犯への協力を地域回覧板で訴え、児童の下校時に合わせて買い物や犬の散歩、ジョギング等、外へ出てもらうように働きかけている。その際、鏡山小学校の黄色い腕章をPTAや地域の各種団体へ配布して、つけてもらうようお願いしている。

また、自転車につけるパトロールのプレートも以前より増やして協力していただいている。

取組の成果と課題

本校の校区は広範囲にわたるため、家庭や地域の見守りは、防犯の面からも心強い存在である。協力して下さる方々もボランティア精神に富み、意欲的に活動していただいている。

ますます多様化していく社会にあって、交通安全や防災、防犯の面からも家庭や地域の見守りは今後も必要である。学校との連携という点で、今後どのような姿で行われるか検討が必要と考えられる。

3 下校時の安全

下校時の子どもたちの安全確保は、家庭の協

息の長い安全確保の活動

勸修小学校

取組の内容及び方法

1 登校時の安全

P T Aの「声かけ運動」は、子どもの健全な育成を図るという立場から、朝、子どもたちに「おはよう」と声をかけていくことで、登校の様子を知ったり、子どもたちを励まし、親と子の信頼関係をつくっていきたりすることを目的に、昭和55年から始まった。

毎朝登校時には、管理用務員室前に置いてあるP T Aの腕章をつけ、旗をもって校区の4箇所（東門前、西門前、フレスコ前、新十条西野道交差点）に午前8時から8時30分までの間1人ずつ立ち、子どもたちへの声かけとともに、道路の横断の際、横断旗を掲げドライバーに注意を促したり、子どもたちに安全を呼びかけたりしている。

この活動には、全P T Aの保護者と一部教職員が参加している。P T Aの学級委員が当番表を作成し、その表に従って毎朝4名が輪番で当番となり1年間で全保護者がこの運動に参加するようにしている。

この活動を25年間続けてきているが、両親とも働いている家庭の率が増える中で、一部活動に支障をきたすときもあったが、近年の子どもが被害者になる事件が多発している状況下で、子どもを守るという観点からもこの活動の重要性が見直されてきている。



2 下校時の安全

下校の時刻が学年により異なるため、複数下校を徹底するよう指導している。また、登下校の安全のために教職員が実際に登下校路を歩き、安全マップの見直しを行い、新たに「防犯マップ」を作成した。全保護者と関係機関に配布し、注意を呼びかけるとともにマップを活用して指導も行った。さらに、下校時の安全のために昨年度より、P T Aから全児童に配布された防犯ブザーを身につけ、いざという時に使えるよう使い方の指導もしている。

P T Aからは、全家庭に「ただいまパトロール中」- こども守ってあげ隊 - の黄色のカードを配布いただき、買い物時など、自転車等につけていただいている。

3 地域での取組

地域で子どもたちが安全に暮らせるために、地域の各種団体（13団体）と協議する場もあった。

その場で1・2年生の「お迎えボランティア」の立ち上げ、下校時、外に出て自宅周辺で子どもを見守る（午後2時半～6時の間）、「こども110番のいえ」に協力を要請すること等を息の長い活動として取り組むことが決定された。

決定内容を、自治連は、文書を配布して全戸に周知し、P T Aや学校は、会長・校長連名で、保護者に知らせるようにしていく。



みんなで守り育てる子どもの安全

小野小学校

取組の内容及び方法

1 朝の登校見守り

組織

交通安全対策協議会 P T A

活動日時

月曜～金曜 午前8時～8時半

活動に用いる物品

カラーコーン カラーコーンパー

活動内容

交通安全対策協議会は固定したメンバーで、P T Aは当番制で毎朝、校区内の数箇所立ち、子どもたちへの声かけをはじめ交通安全や不審者対応に取り組んでいる。



2 モバイルキャンペーン運動

組織

自治連合会 P T A

活動日時

毎日 昼夜通して

活動に用いる物品

ステッカー

活動内容

「ただいま 安全パトロール中」のステッカーを自転車の前かごや自動車の前部に設置し、本校への来校時だけでなく校区内の通行にも活用し、安全面や啓発にも役立てている。今年度は500部を新しくP T Aでつくり協力者を増やしている。



3 みんなができる見守り活動

組織

地域の住民

活動日時

月曜～金曜 午前8時～午後4時半

活動内容

地域の行事の際にも呼びかけ、本校への来校時だけでなく学校周辺に立ち寄る時等は、ついでに足をのばしてもらい、学校周辺のパトロールをお願いしている。



4 その他

P T Aと防犯推進委員協議会による「こども110番のいえ」の協力箇所の再確認と拡大をはじめ、少年補導委員会との合同パトロール(のぼり旗の新調)など地域ぐるみの安全に取り組んでいる。

あんしん・あんぜん みまもりたい

みんなで守る学校安全活動

広沢小学校

取組の内容及び方法

1 学校の取組

4月に避難訓練（不審者対策）を実施し、子どもたちに緊急時の対応を指導した。

町別児童集会においてそれぞれの地域の危険な場所・安全な場所の理解を深めた。

各町ごとに危険と思われる所を考え、防犯・安全マップにまとめる。そして、児童・地域みんなで共通理解し安全に心がける。



4 施設の充実

平成17年11月には、広沢小学校の正門に「みまもりたいハウス」が設置され、暑さ、寒さ対策もこれで万全である。

また、ハウスの屋根には監視カメラと防犯灯を取り付け、夜間に不審者が門を乗り越えないように点灯する仕組みになっている。

平成18年2月には、北門にも、正門と同様の「みまもりたいハウス」を設置した。地域挙げて、「あんしん・あんぜん」の学校づくりに取り組んでいる。また、北門と運動場に非常用のベルとパテライトを取り付け、何か非常事態が起こればすぐに知らせることができるようにしている。

2 地域の防犯推進委員の取組

平成15年12月に地域の防犯推進委員の方々を中心にした子どもたちをみまもる活動「みまもりたい」が発足した。下校時の子どもの安全をみまもる活動がそれ以後継続している。

現在、みまもりたいは、ボランティア登録者が20名ほどになり、下校時に正門を中心に時には校区のポイントをパトロールしている。

3 PTAの取組

PTAの活動として、毎月の朝の「声かけ運動」を下校時にも広げ、声かけと集団登校の引率を行っている。

「子どもあんしん・あんぜんパトロール中」のステッカーを自転車用と個人用の2種類作成し、全会員に配布した。

買い物や散歩など常に携帯するようお願いし、校区みんなで子どもたちをみまもっている環境を作っている。



保護者・地域との連携により進める子どもの安全確保

パトロールボックスの運用

嵐山小学校

取組の内容及び方法

1 取組の趣旨

学校・PTA・地域の各種団体・関係機関との連携を一層推し進め、登下校はもとより地域社会での子どもたちの防犯・安全確保を図る。

2 経 過

本校では、平成15年2月より高齢者（千歳クラブ）をはじめとする地域諸団体に「安全パトロール」を委嘱し、活動を進めてきている。

本年度、「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」の指定校を契機に、本校区を「嵐山モデル地区」とし、防犯・安全活動をより強固なものにするための取組を進めている。



平成17年5月に学校より「パトロールボックス」の設置を自治会連合会に要請し、7月に承認を得て8月末に校門横に完成した。現在、PTAをはじめ地域各種団体の方々に「パトロールボックス」常駐をしてもらっている。

3 安心安全を進める学校を目指して

PTA他10の各種団体の方が当番制により、月曜日～金曜日の午前8時から下校時刻の30分後まで「パトロールボックス」に3～4人が常駐する。

主な活動として

- ・朝、「パトロールボックス」から出て校門横で登校する子どもたちを、温かい挨拶で迎えていただき、授業中には「パトロールボックス」内で保護者や業者などの出入する人を確認する。

- ・通常の来校者については職員室にまず出向くことを伝えている。不審者と思われる場合は、声かけを行うか、インターホンで職員室に連絡する。
- ・校内の巡視や校舎内の巡視も行う。
- ・下校時には校門横で子どもたちへの声かけを行っていただく。
- ・当番を終えると日誌にその日の様子、特記事項、申し送り事項を記入する。
- ・緊急時の対応としては、インターホン等で連絡を受けた教職員は校長に連絡をし、教職員が現場に急行する。当番一人では対応しない。危険が伴う緊急事態には「非常ベル」を押す。教職員は「危機管理マニュアル」にしたがって迅速に対応する。

取組の成果と課題

「パトロールボックス」に常駐してもらうことにより、不審者侵入の抑止力となっており、教職員は安心・安全への地域全体の取組に一層の理解を示し、子どもは、安心して学校生活を送れている。朝の挨拶も増え、今まで知らなかった地域の方々と子どもとのふれあいも深まりつつある。また、保護者の安全に対する意識も高まってきている。課題としては、ずっと将来的にPTAや地域の方々の奉仕（ボランティア）に頼っていけるのか。学校安全についての根本的な施策が必要ではないか。また、安全マップの見直し等、下校時の校区パトロールを充実することも目下進めているところである。



みんなで見守る「花園の子」

花園小学校

取組の内容及び方法

1 登校時の安全指導

本校の子どもたちは、「花園子ども見守り隊」の方々をはじめ、保護者・地域の多くの方々に見守られている。

登校時には、各町の交通安全推進委員会の方々をはじめ、地域の有志の方々が、雨の日も風の日も毎朝、交通量の多いポイントに立っていただき、子どもたちの安全な登校を優しい眼差しで見守ってくださっている。

2 下校時の防犯パトロール

子どもたちの下校時には、自主防災会をはじめとする地域や保護者の方々に、それぞれの学年の時間帯に合わせての、「家の前での見守り」、「買い物」、「散歩」、「掃除」等々をお願いしたり、教職員も交代で通学路や人通りの少ない通りをパトロールしたりして、地域ぐるみの目で子どもたちの安全確保に努めている。

3 『花園安全マップ』

「花園安全マップ」(PTA作成)は以前からあるが、本年度は、教職員、地域、PTAがそれぞれ校区の危険箇所等を点検し、それをもとに、PTAの方々の手で新しいバージョンに作り上げてもらった。



4 「危険箇所」・「こども110番のいえ」の確認

各町別の集団下校を実施し、町担当(学校)と地域委員(PTA)が引率して、下校指導を行った。

それぞれの登下校コースで、交通面における「危険箇所」、万一の場合に助けを求める「こども110番のいえ」、注意をしなければならない「人通りの少ないところ」を確認しながら下校した。

5 「親子で考えましょう 身近な危険!」(PTA活動)

本年度のPTA活動のスローガンは、「親子で考えましょう、身近な危険!」である。

“ふれあい活動推進事業”の一環として2つの行事を実施した。

「安全について知ろう!」(6月25日)

右京警察による親子交通安全教室、平安騎馬隊の体験騎乗により、交通安全についての理解を楽しく深めることができた。

「安全について学ぼう!」(10月22日)では、右京警察の方々を迎え、親子で、防犯についての理解を深めるとともに、警察犬とのふれあいの時間を持った。

両行事とも、たくさんの参加のもと、親子で「安全」を考える有意義な時間となった。

守ろう 創ろう みんなの安全

桂川小学校

取組の内容及び方法

1 地域ぐるみで取り組む「桂川安心安全のまちづくり」

朝の登校時刻に、PTA地域委員さんをはじめ地域のボランティアの方が立ち、子どもの安全の見回り、声かけをする。

各自治会、各種団体、PTA、学校の代表が一堂に会し、「安全に関する会議」を開き、子どもたちの登下校の安全確保のための具体的な手立て、実施計画について話し合った。

各自治会、各種団体、PTAなどが呼びかけて、児童の下校時間帯における見回りと、子どもたちへの声かけを実施。買い物、散歩、散歩などを子どもの下校時間帯に合わせるなど。

2 通学路の安全確保、安全確認の取組

地域、PTA、学校が一体となって、児童の通学路の安全確保を図るため、防犯上危険なところなどの通学路の巡回点検と、「安全坊や」の設置、「こども110番のいえ」の設置を行っている。

学校の町別児童集会で、各町別班毎に学区の地図をもとに、通学路の確認、防犯上危険なところ、「こども110番のいえ」の場所等を記入するなど子どもの目線からの班毎の安全マップを作成した。さらに、各町別班で作成した安全マップをもとに、学校全体の『桂川学区安全マップ』にまとめた。

(H17.12.22)

3 子どもたちの防犯意識を育てる指導

不審者が校内に侵入したことを想定した「避難訓練」を実施し、子どもたち自身が学校内における安全な避難の仕方を学習した。

(H17.10.19)

PTAから全校児童へ防犯ブザーを贈呈していただいた。その贈呈式の日に合わせて防犯教室を実施した。防犯教室では、以下の内容で進めた。

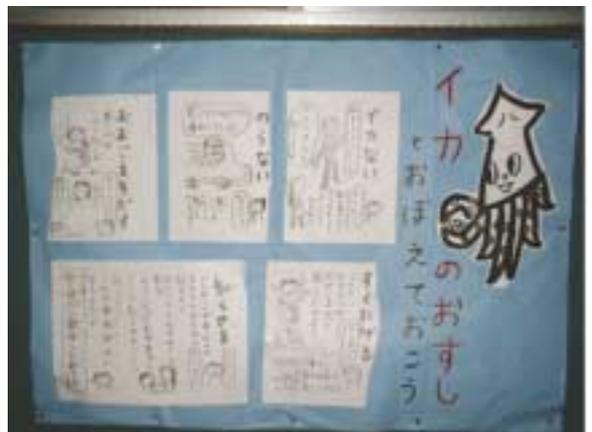
- ・PTAの方や教職員が、襲われたときの防犯

ブザーの使い方を劇で紹介した。

- ・西京警察署から警察官やマスコットに来てもらい、身の守り方などについてのお話。
- ・スクールガードリーダーの方からのお話。
- ・自治連合会長さんからのお話。(H18.1.10)「イカのおすし」の歌テープを毎日の給食時間に流したり、「イカのおすし」の説明を掲示したりするなど、日常的に子どもたちが防犯意識をもてるように、指導を継続している。



< 上桂交番の警察官によるお話 >



< 「イカのおすし」の掲示 >

みんなでつくる安心・安全のまち すながわ

砂川小学校

取組の内容及び方法

1 学校安全ボランティア

正門をはいると、学校安全ボランティアボックスがある。砂川小学校の正門は、いつもあいている状態である。地域の方々と保護者のご協力により、常時2人の学校安全ボランティアの方々が、外来者の受付をしたり、子どもたちの安全を見守っていただいたりしている。

「地域の安全は、地域で守りきる。」を合言葉に、みなさんが活動していただいているおかげで、子どもたちも、安心できる環境で、学ぶことができている。



安心・安全ネットワークは、地域諸団体を中心に、子どもたちの安心・安全のために活動を展開している。

2 学校の取組

「地域を探る」総合的学習の時間では、「防災探検隊」をつくり、地域の安全設備、安全体制、安全を守っていただいている地域の方々をたずねて、インタビューをしたり、学んだことを「砂川安全マップ」にまとめたりして、地域へ学んだことを発表している。



朝の登校時には、「砂川交通安全推進委員」の方々が、子どもたちの安全な登校を、毎日見守って、支えていただいている。子どもたちも、元気に地域の方々に挨拶して学校へ向かっている。



日頃お世話になっている「学校安全ボランティア」のみなさんに感謝の気持ちを伝える全校集会を行った。

家庭・地域との連携による子どもの安全確保

～ 子どもたちを守る町づくり 学校づくりの推進 ～

石田小学校

取組の内容及び方法

1 登校時の安全を守る

【PTA声かけ運動・さわやか登校日】

【PTA全会員の輪番制による登校指導】

PTAでは毎月第1月曜に「PTA声かけ運動」を行っている。この「PTA声かけ運動は」保護者が子どもたちの登校の安全を見守るだけでなく、「おはようございます！」と元気な声で子どもたちに声をかけることで、朝のあいさつの習慣化が図れると考えている。また、子どもたちが地域の人たちに見守られていると実感でき、このことで子どもたちの心の安定化が期待できる。

また、第3月曜に「さわやか登校日」を行っている。この「さわやか登校日」は昨年度（平成16年度）からPTA地域委員が中心に行っている。子どもたちを朝、学校に送り出す際、子どもたちを家の前より少し遠くまで見送り、近所の子どもたちの安全確認、さわやかな気持ちで登校できるように実施している。また、今年度（平成17年度）からはPTA全会員による輪番制による登校指導を毎日実施している。

これら全ての活動に学校側も生徒指導部が中心に毎日登校指導を行っている。また、「PTA声かけ運動」の日に合わせ、集団登校の日を設定し、全担任による始業前、集団登校指導を安全ジャンパー（蛍光色）を着用して行っている。

2 緊急下校時の安全

本校においては台風や子どもたちの安全確保が必要な緊急下校の必要性が生じた場合、PTA本部に下校指導及び安全確保を要請している。緊急下校時の連絡・安全確保等の人員確保や体制づくりをPTA、地域の協力を得て、可能な限りの人員確保を行っている。



3 学校・PTA・地域合同防犯対策研修会

【不審者侵入対策研修会】

昨年に続き、学校不審者侵入対策研修会を学校・PTA・地域の合同で行った。講師は山科警察署から招いた。

保護者、地域の方々、教職員が子どもの命を守るため、さすまたを使った研修をした。また、今年度、全教室にさすまたを設置し非常の事態に備える。さらに、子どもを守るために学校、PTA、地域の連携を今まで以上に強いものにしていきたいと考えている。



4 安全に関する会議

【地域ぐるみの学校安全対策推進会議】

小学校・教育委員会・PTA・山科警察署・スクーラーガードリーダー・自町連・学識経験者（立命館大学）を構成メンバーに地域ぐるみの学校安全対策推進会議を設置している。会議の中で話し合われた石田小学校の実態にあった不審者侵入対応マニュアルの策定が今年度なされた。

「安全な社会ではなくなった。」この危機意識を学校・PTA・地域と合同で学校不審者対策研修を行うことや石田小独自の不審者侵入対応マニュアルで共通理解できたと考えている。

学校・PTA・地域の強い連携で子どもの安全を確保する体制がとれてきた。今後、さらに地域全体で子どもを守るシステムづくりを推進していく。関係機関の協力を得て、子ども自身が自分で自分の命を守る訓練を定期的に行うことが出来た。

子どもの安全意識を高め 学校・保護者・地域 で取り組む下鳥羽安全確保推進活動

下鳥羽小学校

取組の内容及び方法

1 子ども安全意識の向上に向けて

「防犯教育の推進」のための講話の実施

児童全員対象に、朝会等で学校長を中心に安全への訓示をしたり、警察署・地域団体から安全に関する講話を受けたりして防犯意識を高める取組を実施している。

学級担任の随時指導の充実

月ごと・季節ごとに重点的にテーマを設けたり緊急事案発生時はもちろんのこと、随時指導を行ったりしている。

「CAPプログラム」の導入

本校では1年生と4年生の全員、および教職員に対して「きょうとCAPのワークショップ」の受講を行っている。子どもワークショップでは子どもの人権意識を高め、あらゆる暴力から自分の身を守る自分の力を引き出す教育プログラムのもと、具体的に子ども自らが「身を守る方法」や自らの人権を守る方法について学ぶことができた。

このワークショップ受講以後、学級では下校時に「いや」など大声を出す訓練や様々な安全の意識づけを機会あるごとに行うようにして、安全への意識を高めるように取組を進めている。

2 地域ぐるみの見守り活動



登校時の立ち番

毎日、学校長・TT教員・自治連合会会長を中心に2ヶ所の校門と通学路で「朝のこえかけ」を実施している。通学路の安全確保と

ともに、挨拶の励行と声かけ、健康状態観察など、子どもの健全育成の側面でも効果をあげている。

通学路の点検

町別児童会とPTA地域委員との合同での通学路点検。特に危険箇所（不審者から声かけなどされた場所）の確認と安全マップへの記入を行い、注意喚起の安全啓発を行っている。

下校時パトロール

下鳥羽防犯推進協議会の定期パトロールの実施、見守り腕章の着用で、有志による外出時パトロールを実施している。

地域ぐるみの声かけ運動（鈴の装着）

下鳥羽自治連合会から全校児童分の鈴の贈呈を受けた。児童全員のランドセルに鈴を装着するようにした。鈴の音で、登校・下校時の子どもの存在を知らせ、地域での子どもの見守りをお願いするものである。



3 校内の安全体制の強化

校門インターホンの設置による来校者の確認

校門横のインターホンと職員室インターホンで来校者を確認して、校内への立ち入りを許可する形にして安全確保を図るようにしている。

全教室トランシーバの設置

緊急時には、どの教室からも同時連絡が可能となるよう各教室にトランシーバを配備している。

その他、各階ごとに1台のインターホンを設置して、職員室インターホンとの連絡も行うようにして緊急時に備えている。

地域との連携による登下校の子どもの安全確保の取組

向島藤の木小学校

取組の内容及び方法

以前より朝の登校時には少年補導や防犯委員の方々が校門前や近くの交差点に立ち、本校の教職員とともに子どもたちが安全に登校できるよう見守ってくださっている。

本校では、下校時においては、広島や栃木での痛ましい事件以後下校時間を次の4回に区切り、子どもたちの安全確保を図っている。

4 時間目までの時	13:30 ~ 14:00
5 時間目までの時	14:30 ~ 15:00
6 時間目までの時	15:30 ~ 16:00
放課後	16:30 完全下校

これらの時間帯には、生徒指導加配や手のあいた教職員、担任等が校門前に立ち、児童を見送っている。また、保護者にもこれらの時間帯を知らせ、時間に余裕があるときは要所に立つてもらおうなどの協力を呼びかけている。

それから、本校では校区のほとんどが団地であるため、部屋の窓から見守ってもらったり、エレベーターホールで出迎えてもらうなどの協力を呼びかけている。

部活動については実施時間を5時までとし、近くの交差点まで担当者が見送っている。「パトロール中」のステッカーを全保護者に配布し、自転車や自動車に取り付けてもらうなどのお願いもしている。



12月初旬、学校評議員会を持ち、子どもたちの安全確保についての方策を考えてもらった。そして、1月28日に地域懇談会を実施した。各自治会や各種団体の長さん、幼稚園や保育園の園長さん、児童館の館長さんなどに集ってもらい、子どもたちの安全確保についての地域の協力を呼びかけた。その結果、当面は下校時のパトロールについてできるかぎりの協力をしていただくことになった。2月下旬にも地域ぐるみの取組について具体的方策を考えていただくことになっている。



地域ぐるみの子ども見守り活動

上賀茂小学校

取組の内容及び方法

1 防犯無線セキュリティ設置

P T A ・自治連合会の協力を得て、校内に防犯無線セキュリティを設置した。不審者の侵入が教室にあれば、直ちに非常ベルが職員室に鳴るようになっている。学校は、子どもたちにとって「安全・安心」を肌で感じるようにするために、防犯無線セキュリティを使って、緊急通報・避難の防犯訓練を実施している。また、教職員・子どもたちが、混乱することなく安全に素早く避難措置ができるように、警察と連携して子どもの安全を確保している。



2 「こども110番のいえ」の確認

P T A が中心になって、既存の「こども110番のいえ」の場所を確認し、子どもたちに知らせるとともに、子どもたちの安全を守る「こども110番のいえ」のマップを作り直した。

そして、「こども110番のいえ」のマップをP T A より各家庭に配布するとともに、拡大した「こども110番のいえ」のマップを教室に掲示し、安全意識の高揚を図っている。



3 地域子ども見守りパトロール隊

P T A ・地域の諸団体・地域住民が協力し合い、子どもの登下校の安全を守ったり、声をかけあったり、パトロールをしたりしている。

この地域ぐるみのパトロールが無理なく長く続けられるようにということで、P T A で話し合いを重ねた結果、子どもたちの下校時刻に自宅近く及び通学路に立ち、腕章をつけながら子どもたちの安全を見守っていくことになった。

また、地域の諸団体・地域住民の方も、登下校時に、自宅近くの通学路や交通安全上危険な場所に立ち、子どもたちに安全を呼びかけたりあいさつをしたりしている。



取組の成果と課題

P T A ・地域の諸団体・地域住民に協力をお願いし、子どもたちの登下校の安全対策として「地域ぐるみの子ども見守り活動」に取り組んだ。

学校と地域のつながりが深まるとともに、「あいさつの輪」が広がり、希薄になりつつある地域のつながりが、確かなものになってきている。

今後、子どもたちの安全確保の取組を充実し、地域ぐるみで上賀茂小学校の子どもたちを見守っていききたい。

みんなで見守る子ども安全活動

柘野小学校

取組の内容及び方法

1 取組の趣旨

柘野学区は、北区上賀茂と西賀茂の北部中央に賀茂川が流れ、北東部の山手には京都産業大学があり、東南部は上賀茂神社と接している。また、北部山手には北山があり、周辺は山道や田畑の広がる田園地帯が多くある。この学区は10年ほど前から西賀茂を中心に宅地化が進み、年々人口が増えている。賀茂川沿いの府道も、市原野方面へ伸びるバイパスの開通により年々交通量が増している。

このような地理的・地域的条件から考えても、本学区内には防犯及び交通安全面で心配な所がたくさんある。そのため、柘野学区の住民が一体となったネットワークづくりや地域組織を生かした安全の整備や取組が急がれている。

2 「子供たちの安全を守る会」

防犯に関する地域組織については、平成11年12月日野小学校で起こった児童殺傷事件後、本校区でも子どもたちの安全やかかけがえない命を守るために、『柘野学区の子供たちの安全を守る会』が設置された。この『柘野学区の子供たちの安全を守る会』には、柘野学区町内連合会、柘野社会福祉協議会、上鴨防犯協会柘野支部、上鴨少年補導委員会柘野支部、上鴨防犯推進委員会柘野支部、柘野学区自主防災会、上鴨交通安全協会柘野支部、柘野消防分団、柘野保育園保護者会、柘野保育園、柘野小学校PTA、柘野小学校が参画し、適宜話し合いの場を設けている。昨年末連続して起きた小学生殺害事件後には、早速に会合を開き、「地域内で実行できる具体的なことは何か？」について話し合いを続けている。



上記の『柘野学区の子供たちの安全を守る会』

に参画している地域各種団体・PTA・学校が互いに連携・協力しながら、防犯に関する具体的な取組として平成15年度より次のようなことを行っている。

PTA地域委員の協力により、「こども110番のいえ」を50軒から100軒に増やす。

上鴨防犯推進委員会柘野支部のメンバーを中心としながら、毎日登下校の安全指導及び見回りを始める。

- ・薄黄緑蛍光色のジャンパーを作成し、犯推進活動を始める。
- ・『柘野学区の子供たちの安全を守る会』の名前の入った黄緑色の腕章を作成する。
- ・地域諸団体等における見回りは、月曜日から金曜日までの登校時間帯（午前7時30分～午前8時45分）と下校時間帯（学年・曜日によって異なるが、午後2時～午後4時）にメンバーが交代しながら行う。



PTAにおいても防犯のためのボランティアを募集し、登下校時見回り活動を始める。

- ・見回りをする際に黄緑色の腕章し、10箇所ポイントで分担しながら活動する。
- ・PTAより子ども全員に防犯ブザーを渡し、毎日携帯させる。
- ・PTA全員に学校来校用名札を配布する。また、各家庭に自転車等に装着する黄色い「防犯パトロール」プレートを配布する。
- ・各町内ごとに防犯上危険な場所がないか調べるとともに通学路の安全点検を行う。

教職員は、正門近く横断歩道前で、毎朝日直が交代しながら登校指導を行う。また、下校時は、学年に応じて適宜下校指導及び校区パトロールを行う。

- ・「こども110番のいえ」や危険な場所を書き入れた安全マップを作成する。
- ・全校の子ども所在地が分かる校区地図を作成する。

地域の子どもは地域で守る

大宅小学校

取組の内容及び方法

校内の安全

学校への不審者の立ち入りや、登下校において子どもが連れ去られることを防止するために、校内の安全確保やパトロールの強化に努めている。

校内の安全確保

組織	教務部
活動時間	8時40分～9時
活動内容	校内巡視

登校時の安全

朝は、校区内をPTAが当番制で交通安全に取り組んでいる。

PTAは、黄色の旗を持ち、毎朝、交通安全指導と不審者の見張りを行っている。

学校も毎朝、校門で挨拶と安全指導を行っている。

PTA活動

組織	PTAの地域委員
活動時間	8時～8時30分
活動に用いる物品	黄色の旗
活動内容	児童の安全確保

下校時の安全

下校時は、特に低学年は、学年内で同じ方向に帰る児童同士、集まっていっしょに帰るようにしている。低学年の担任は、途中まで児童を送っている。

PTAによる「黄色いリボン 安全キャンペーン」行う。

安全キャンペーン中

組織	PTA・女性の会
活動時間	2時30分～4時
活動に用いる物品	黄色いリボン・腕章
活動内容	児童の安全確保



地域ぐるみで子どもの安全を守る活動

西野小学校

取組の内容及び方法

1 子どもを見守る活動

登校を見守る活動（毎日）

子どもたちの登校を学校教職員・PTA地域委員とボランティアの方で見守っている。ボランティアの方は、車や不審者から子どもを守るために交差点に立っていただいたり、集団登校についてきていただいたりしている。PTAは集団登校に付き添い、教職員は要所に立ち、子どもたちの安全を見守っている。



< 登校を見守る活動 >

下校を見守る活動（毎日）

学年により下校時刻が違い、集団下校でもないで子どもたちの帰る時刻がバラバラになる。そのため、子どもの安全を守る活動は大変になってくる。そこで、「西野交通安全女性の会」の方が、子どもの下校時間帯に合わせて、約1時間程度要所に立っていただき、見まもり活動をしてくださっている。

パトロール

夏季・冬季休業中は、地域の有志・少年補導・PTA・教職員で夜間パトロールを実施した。そのうち数回は警察も参加していただいた。昼間は、自転車の前かごに安全ステッカーを張り付け、買い物等の用事の折りに見回りをしている。

あいさつ運動

年度はじめ、学期はじめ等に、60名ほどの保護者が子どもたちの登校を見守り、あいさつを交わす運動をしている。

以上の活動の時には、できるだけおそろいのジャンパーや帽子・腕章・手袋などを身につけ、笛などを持って行っている。

2 イベント

12月23日（金）には、西野学区をあげて、地域の安心安全を、子どもたちの健やかな成長を願いパトロールした。パトロールカーを先頭に学区民200名ほどが参加した。

数名の方がプラカードを持ち、腕章・手袋・タスキなどを身につけパトロールした。



< 西野学区安心安全パトロール >

3 安全講習会

12月17日（土）に大宅小学校にて「児童の安全と地域活動」ということで山科支部の講習会が開催された。西野学区からは、学校・少年補導・交通安全女性の会・安全ボランティアの方々が参加し、「子どもの安全を守る」ということで関係機関や他校と意見交流をとおして、安全に対する認識をさらに深めることができた。

笑顔で声かけ みんなで守ろう子どもの安全・地域の安全

音羽小学校

取組の内容及び方法

1 登校時の安全指導

地域からは、交通安全対策連絡協議会の方々を中心に毎朝10名の方が、交通量の多い交差点に立ったり、児童に付き添ったりしていただいている。PTAからは、地域委員さんが当番制で毎朝4つの地点に立っていただき、学校も管理職と教職員が四ノ宮の交差点と校門前に立って登校指導にあたっている。

2 下校時の防犯パトロール

自治連合会とPTAが中心になり、パトロールの腕章を200枚と全家庭用に自転車用ステッカーを作成した。犬の散歩、門掃き、買い物時等にパトロールしていただける方を地域から募集し、その結果、地域住民や保護者から毎日15名程度の方が、児童の下校時に通学路に立ってパトロールをしていただいている。また、その活動とは別に、PTAでは毎火・木曜日に地域委員さんが当番制でパトロールをしていただいている。学校からも、教職員が毎日1名通学路をパトロールしている。



3 「こども110番のいえ」の見直し

PTAと地域の防犯推進委員協議会が中心になって、「こども110番のいえ」の見直しと再依頼をされて、隣接する滋賀県藤尾学区の方にも引き受けていただき10軒以上増え、現在84軒になった。また、「こども110番のいえ」についての保護者や地域への啓発活動（地図、名簿、プリントの配布）もしていただいた。



4 協議会・研修会の開催

7月に、地域の関係団体、PTA役員、学校が一堂に会して「学校安全対策委員会」を開催し、子どもの安全を守るための取組について話し合いを持った。

8月には、「CAP・大人ワークショップ講習会」を開催し、保護者、教職員、地域の関係者ら60名の参加を得て、子どもへの暴力防止についての研修を深めた。その後9月には、6年生の子ども対象にワークショップも開催した。

12月には、山科全域の「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業に関わる防犯講習会」が開催され、学校・PTA・地域の関係者が参加し、他校の実践や警察署の講話を聞き研修を深めた。

5 その他

毎日の登下校時の安全パトロールを通して、地域や保護者の方々と子どもたちが挨拶や会話を交わす中で、互いをおもいやったり、感謝する気持ちが培われてきた。

子どもの安全を守る『おかえりトトロ隊』の活動

大塚小学校

取組の内容及び方法

1 取組の趣旨

本校は、音羽山の麓にあり、校区の中には目につきにくい寂しい場所があちこちにある。児童の中にはこういったところを通して通学しているものもいる。また、校下は声かけ事案がよく起こることもあり、安全な登下校ができるかが大きな課題となっていた。

低学年の児童を中心に、登下校の送り迎えをされている家庭もあるが、たくさんの児童には目が届きにくい。そこで、本校のPTA及び教職員は、こういった実態を解決するため、保護者はもちろんのこと、地域住民の方々に応援をお願いし、児童の登下校をたくさんの目で見守る計画を立てた。

2 組織作り

取組は、児童の登下校時に「おかえりトトロ隊」という名前が入った黄色い腕章をつけてパトロールしていただくもの。最初は保護者に参加を呼びかけた。また、地域にも呼びかけ、この取組に参加していただける人を募集した。参加される方はPTAに登録してもらい、だれに渡したかが分かること、使用されなくなった場合は返却していただけるようお願いした。堅苦しいことだが、腕章を悪用されると、逆効果になると考えたからだ。



腕章は、PTAで製作されたが、黄色くよく目立つものが出来上がった。1月の学校始業時には123人の人が登録を完了し、登下校時にパトロールを始めている。また、教職員も時間の都合をつけてパトロールに参加している。

3 パトロールの方法

校区に黄色い腕章をつけている人がたくさん

いればいるほど、犯罪抑止力は増加する。少しでもたくさんの人々に腕章をつけていただき、パトロールしてほしいという願いを実現させるために、パトロールの時間などに制限をつけない方法を取り、少しでも参加しやすくなるように配慮した。

児童の下校を待つ保護者は、自分の子どもが帰宅してくると、子どもとともに自宅に帰られ、パトロールは終了する。しかし、地域の子育ての終わった方々は、長い時間パトロールをしていただける。また、買い物など外出するときにも腕章をしていただくようお願いし、それに協力いただくと、校区の中に腕章をつけた人がたくさんできることになり、必然的に目が行き届く。したがってこの取組の輪を広げるため学校はもとより、街頭でも運動の参加を呼びかけた。

たくさんの目が校区にできれば、それだけ安全な地域づくりに貢献できるようになる。効果は、小学生だけにとどまらない。

単にパトロールだけでなく、下校指導もできる範囲をお願いした。また、学校でもこの取組を児童に知らせ、児童自らが安全な登下校に関心を持つこと。また、パトロールに参加し、自分たちの安全に気を配ってくださっている地域の方々に感謝の気持ちをもつよう指導を行った。

取組の成果と課題

家庭・地域・学校の一体となった取組が地域の安全につながる。下校時、地域のあちこちに黄色い腕章をした人が増えてきた。特に声かけ事案がよくある地域にはたくさんの人が出てくんだり、児童に声をかけていただいている。

見守っていただいている児童自らが、さらに安全に対する意識が高まるよう、学校では折に触れ指導に当たらなくてはならない。



地域が見守る安全活動

「パトロール百々」中心とした活動

百々小学校

取組の内容及び方法

1 月曜日から金曜日までの登下校時の見守り

登校時の見守り（午前7時30分～9時頃）

- ・学校の西門前と東門前での見守り
- ・新大石道の交差点での安全確認
- ・新大石道射場ノ上バス停付近の横断歩道の安全確認
- ・大石道交差点での安全確認
- ・PTA地域委員さんによる児童引率
- ・PTAの月1回のあいさつ運動

下校時の見守り（午後2時頃～3時頃）

- ・低学年の下校時間帯での安全確認
- ・西門と東門での安全確認
- ・下校時、自宅近辺での家族等での見守り

その他の取組

- ・緊急時の区内パトロール
- ・サルの出没（本年度）
- ・陶器まつりのパトロール
- ・「あんしん・あんぜんパトロール中」のステッカーの自転車のかごへの取り付け
- ・少年補導による夜間パトロール



<パトロール百々見守りとPTAのあいさつ運動>

2 パトロール百々の持ち物・服装

- ・全員名札着用
 - ・ホイッスルの携行
 - ・帽子（夏用・冬用）
 - ・ジャンパー（夏用・冬用）
- *帽子・ジャンパーは、自前でそろえている

3 パトロール百々の活動の様子

登校時、パトロール百々の方々の「おはよう」という声かけで、挨拶をする児童が増えてきている。まだ、はずかしそうな声で挨拶する児童もいるが、児童からも気軽に声をかけるなど親しみをもって接してもらっている。

メンバーの方も優しい笑顔で触れ合っておられ、中には低学年児童の頭をなでて、スキンシップを行っている方もおられる。

参観日等の行事の他にも、見守っていただくなど、いろいろな場面で協力していただいている。



<パトロール百々による登校時の見守り>

地域ぐるみで見守る子どもたちの安全

大宮小学校

取組の内容及び方法

1 防犯パトロール隊

- ・大宮小学校PTA有志で結成
- ・毎月1日の午後3時学校正門出発
- ・通学路を中心に校区内の人通りの少ない場所（危険な場所を確認）を巡回。
- ・下校途中の子どもたちだけでなく、地域の子どもたちへも声をかける。（地域の中で心と心のつながりを大切に）
PTAの名札・腕章をつける



2 夜間パトロール

- ・毎月第1, 第3土曜日午後8時頃より大宮学区をパトロール。（おやじの会）
- ・毎月第4土曜日午後7時より（交通安全協会・PTA合同）
- ・コンビニエンスストア, 路地空き地, 駐車場等若者たちがたむろしている場所を重点的にパトロール。（徒歩）
おやじの会ユニホームを着用



3 登校指導

地域交通安全活動推進委員, 大宮交番所連絡協議会, P T Aの方々によって, 通学路の交差点等で安全登校指導を実施。〔学校開催日（長期休業期間除く）〕
- 腕章, 手旗, 名札, ジャンパー -

4 スクールガードリーダー（警察官OB）

毎週火曜日登校, 下校いずれかの時間帯に腕章, 帽子をつけ, 校区内をパトロール。（文部科学省と警察庁が連携した事業）

5 子ども見守り活動

登下校時間帯に家の外に出て, 登下校児童に声かけ運動。また, 買い物等, ちょっと出かける際には自転車の前かごに「ステッカー（安全パトロール中）」, もしくは「腕章」をつけてパトロールを兼ねる。（随時）



こどもの安全・地域の安全をみんなの手で

常磐野小学校

取組の内容及び方法

1 「子どもたちを守る会 ときわのパトロール隊」の活動

地域各団体（少年補導委員会・民生委員会・女性会・防犯委員会・老人クラブ）とPTA会員、住民有志で「ときわのパトロール隊」（参加者200人余）を組織し、当番制で安全パトロールを実施している。

定時に学校に集合する。集合時刻は、特に、低学年の下校時刻に合わせて設定する。

児童の下校前に校内、特に校舎裏等人目につきにくい場所をパトロールする。

（1日の当番の数は6～10名）

児童の下校路を二人一組でパトロールする。丸太町通りを中心に、各自の判断でわき道も点検する。

会員には、パトロール隊の名札・笛を各自に配るとともに、当番は持ち回りの腕章を付ける。



< 地域の方が校内をパトロール中 >

2 PTA会員のパトロール活動

保護者の方にも「ときわのパトロール隊」に参加していただく一方で、小さな子どもがいるなどの事情でパトロールに参加しにくい保護者は下校時刻に合わせて、自宅周辺をパトロールしている。

登校時に、児童に付き添って登校路をパトロールする。途中の交差点等で留まり登校指導

を兼ねて安全を確かめる。

下校時刻にあわせて自宅前や居住町内で安全確認をする。

会員は、PTA本部から配布した名札を着用してパトロールをする。

会員には、普段の外出（買い物等）にも着用してもらい随時活動する。



< お父さんも下校路をパトロール中 >

3 教職員の取り組み

日々の安全指導を徹底しながら、登下校の指導に取り組んでいる。

毎朝、登校時に主要交差点で教職員が安全指導を行う。

木曜日の下校時（一斉下校）に、各担任が途中まで送りながら、安全確認をする。

教職員が交代で、授業時・休憩時間・放課後など校内をパトロールしている。

4 その他

各団体のパトロール時には、共通の赤い紐・オレンジ色の名札を着用して、地域全体の取組であることを強調し、不審者に対しての地域挙げての抑止力としたいと考える。

所轄右京警察署に、特に下校時のパトカー、制服警官の巡回を要請している。

地域・PTAと連携し取り組む学校安全活動

宇多野小学校

取組の内容及び方法

1 取組の趣旨

宇多野小学校は、京都市の西北に位置し、現在477名の児童が学校に通っている。学校教育目標「気づき、考え、実行する子ども」をめざし、自然豊かな環境で様々な取組を進めている。

子どもたちの安全を守る取組や防犯活動は、地域・PTA・学校と連携して行っている。地域の防犯推進委員会では、各種団体長が集まり「安全に関する防犯会議」を開き、総力をあげて児童の安全を守る取組について話し合っている。

2 宇多野安全パトロール隊

宇多野の子どもたちの安全を守るため、宇多野地域パトロール隊が通学路のパトロール、登下校時の家の前等での立ち番、通学路のポイントでの立ち番、登下校時の付き添い、夜間のパトロールなどの取組を行っている。

平成17年4月22日には、登下校の安全について学習した町別集会の後、宇多野地域パトロール隊の出発式が行われた。出発式では、安全についての話を右京警察署や右京消防署の皆様から聞き、子どもたちも少し緊張して聞いていたようだった。

お話を伺った後、右京警察署や右京消防署の方々に見守られながら、地域の安全ボランティア、宇多野地域パトロール隊約60名の方々とともに集団下校を行いました。多くの大人に見守られているということを子どもたちは体感した。



< 宇多野地域パトロール隊出発式 >

3 「こども110番のいえ」確認

PTA主催宇多野クリーン大作戦を6月4日

(土)に行った。朝10時、各集合場所で「こども110番のいえ」についての説明を聞いた後、たくさん子どもたちと保護者によるクリーン隊が学校に向けて出発した。沿道にある「こども110番のいえ」を確認しながら、ごみ拾い活動をした。「こども110番のいえ」が実際どこにあるのか、緊急のときかけこむ家はどこにあるのか確かめた。



4 安全マップの見直し

PTA地域委員は、登校時には毎日、子どもたちに付き添って学校までの登校指導をしている。1年を通して子どもたちの安全面を見守る行動を行っている。

また、毎月1日・15日の宇多野安全の日には各交差点に立ち、事故がないよう教職員・PTA地域委員・交通安全推進会・警察の方に見守っていただけて子どもたちは登校している。

この冬休み中には、PTA地域委員の方が、通学路を調べ、宇多野校区の安全マップの見直しを行った。



< 宇多野安全の日 >

5 交通安全フェスティバル

交通安全推進委員会が宇多野交通安全フェスティバルを9月12日に行った。右京警察の方に来ていただき、自転車の安全な乗り方などを教えていただいた。

今後、毎月15日に宇多野地域パトロール隊、PTA、教職員が一緒となって集団下校を行い、地域・PTA・学校が連携し、総力をあげて子どもたちの安全を守る取組を強めていきたいと思っている。

地域を貫く国道162号線と山に囲まれた校区の安全な環境づくり

高雄小学校

取組の内容及び方法

1 取組の趣旨

高雄地域は、京都市の北西に位置し、この地を縦断する国道162号線は、京都から南北に長く谷間を縫い、京北周山を経て日本海若狭まで通じている。

朝夕の国道には、間断なく車の列が続き、歩道ぎりぎりまで車が近づいてくる。

学校を中心に、校区の両端から2km近くの道のりを子どもたちは登校している。

特に、北部槇尾方面は人家のない寂しい箇所が多く、常に学校・家庭・地域が連携し、安全上の措置を講じている。

2 PTAの取組

防犯に関わる取組以前より、PTA・自治会などを中心とした「町担当地域委員」12名が毎月第二月曜日に、安全の旗を掲げて子どもたちの町グループに付き添って学校までの登校指導を行っている。

校区内の安全情報も常に全委員に提供し合って安全確保に努めている。

また、地域内においては、「あんしん・あんぜんパトロール中」のステッカーを配布し、車のフロントガラスに貼り、出かける際に見守り活動を行っている。地域の実態から自転車利用が少ないことからこの方法がとられている。

3 地域ボランティアの取組

地域のボランティアが毎日、子どもたちの登校時刻・下校時刻に所定の場所で20年近くにわたり、交通・防犯の両面からその活動に携わっている。

機会ある毎に、学校に直接足を運び、子どもたちに、普段気がかりになっている安全に関する注意事項を話している。

国道沿いや人通りの多い商店・保護者・地域住民の家の窓などに「こども・あんしん・あんぜん見守り中」のステッカーを掲示して注意を喚起している。



4 関係機関との協力

警察署駐在所員が、毎朝、子どもたちが登校する時間帯に、校区の端から端までを赤色灯をつけて何往復も走行し、見回りと交通規制をしている。

地域情報の細部にまで精通した専門的な見地から機会ある度に、具体的な示唆を学校へ寄せられている。

5 小・中学校の連携

12月より、下校体制を再検討して、登校時に近い町単位とした形態に編成し直した。より自宅近くまで複数の子ども同士で帰れるよう、授業終了時刻を考へて、前半下校・後半下校の二段階で、まとまったの下校を実施している。

状況によっては、教職員が危険箇所近くまで街頭誘導をしたりして安全策をとっている。

また、中学校生徒会の見守り活動も発足し、小・中一体となった集団ができています。



こどもぼうはんパトロール隊

～ひととまち こどもとおとなの「絆」～

榎原小学校

取組の内容及び方法

1 PTAパトロールボランティア

子どもたちの下校時の安全確保のため、PTA本部の呼びかけにより募った保護者によるパトロールボランティアである。当番制や輪番制ではなく、個々の都合のつく曜日（ランダムでも可）に、午後3時から4時の時間帯（低学年児童の下校時間帯）を中心に、「こどもぼうはんパトロール隊」の黄色い腕章をつけて、巡回ではなく立番方式で自宅近くで見守っている。1月末現在で、学区内50箇所以上のポイントで子どもたちの安全を見守っており、さらにそのポイントは広がりつつある。PTA保護者の自発的な取組だけに、着実にその活動は広い本学区の見守り隊として定着している。



<黄色い腕章>

2 榎原ヘルプネットワーク「絆」

民生児童委員協議会では、榎原ヘルプネットワーク構築の一環として「絆・榎原社会福祉協議会」とデザインされた白いジャンパーを着て、地域ぐるみの防犯意識を高める取組を行っている。学区民のメンバーが、散歩や買い物、所用の時などに揃いのジャンパーを着ることによって、不審者による児童への犯罪や事件の抑止につながることをねらいとしている。児童の登下校時においては、学校教職員も着用し安全確保に努めている。さらには、夕方5時から7時頃の時間帯には、学区民メンバーを中心に、人通りの少ない道や暗くて危険な場所のパトロールも随時行っている。

また、自治連合会や防犯推進会、少年補導と

も連携し、地域ぐるみで児童の健全育成・安全確保に積極的かつ熱心に取り組んでいる。数々の子どもを対象とした行事やイベントはもとより、日々の地道な活動こそ、「ひととまち、こどもとおとな」の信頼関係を紡ぐ「絆」である。



3 交通安全推進と連動した防犯活動

毎朝、雨の日も風の日も雪の日も交通量も多く、多くの児童が横断する水築町交差点等で、交通安全推進会による交通安全指導を行っている。本校は、町毎に高学年の登校班リーダーを先頭に集団登校を行っている。異年齢集団での仲間づくりはもとより、「おはようございます」という朝の挨拶は、地域の方々との豊かなふれあいを毎日生み出している。そして、自分たちが安心して安全に地域で育つ環境づくりに、多くの人が関わっていることを実感している。

安心・安全のまち「榎原」を担う地域の方々の顔がどの児童にもしっかり刻まれている。



学校・地域安全防犯活動

桂東小学校

取組の内容及び方法

1 学校・PTAの取組

PTAには、パトロールパネルを配布。
(日常生活で買い物へ行く時などに常に自転車のかごに取り付けていただき、子どもの事故を抑止する。)

新たに「こども110番のいえ」の確認マップ及び防犯マップの配布。

PTA校外補導委員による安全マップの作成及び配布。

PTA・地域の方々が学校訪問された時には、必ずカメラ(録画)・インターホンによる対応の実施。

校門に表示パネルを設置し、安全・防犯情報を地域に発信。



< 防犯パトロール隊結成 >

PTAによる子どもたちの登下校時の見守りとパトロールの実施。

(玄関先での声かけの協力依頼。また、日が暮れても公園で遊ぶ子どもたちがいれば注意を呼びかける。)

2 地域と連携した活動

地域による「門灯をつけて明るい街づくり運動」の推進をはじめ「防犯ブザー・赤色灯」の設置。

自動車5台による防犯パトロール隊が結成され、子どもの安全・防犯活動として、主に子どもの登下校時に地域パトロールを実施。

各自治会に「安心・安全防犯推進のぼり旗」の設置による、地域住民の防犯意識の高揚と犯罪抑止。

子どもネットワークでは、防犯情報の共有や地域パトロールによる子どもの見守りを実施。



< 安心・安全防犯推進のぼり旗 >

地域ぐるみで子どもを守る

～ 学校・地域が一体となった子どもたちの安全確保 ～

稲荷小学校

取組の内容及び方法

1 教職員の取組

- ・子どもへの安全指導の徹底
部活動の終了時刻厳守
- ・不審者侵入を想定した避難訓練の実施
各教室に「ヘルプカード」「防犯ブザー」を設置する。
- ・地域パトロールの強化
「パトロール中」の腕章をつけ登下校を中心に、校区をパトロールする。
- ・関係機関との連携
伏見警察署 防犯委員会等

2 PTAとの連携

- ・校区内の危険箇所の点検
- ・下校時，児童が1人になってしまう通学路の確認とその対応
- ・「こども110番のいえ」の再点検と追加登録
- ・「防犯ブザー」の全児童配布
ベルマーク運動によって，防犯ブザーを200個取得。全児童に配布する。
- ・ステッカー付自転車による抑止活動
100名のPTA会員が「パトロール中」のステッカーを自転車の前籠に取り付け，犯罪の抑止効果を高める。
- ・家庭教育学級による防犯意識の高揚
- ・子どもたちが，落ち着いて安全に学校生活を送れていることが見届けられるよう，いつでも参観できるよう学校を開放している。



3 地域の協力

- ・地域の各種団体の方々の協力により，子どもたちの登下校の時間に合わせて，散歩や水撒きなどをしていただき，声かけ等をして子どもたちを見守る「見守り運動」の実施。



4 スクールガードリーダーの巡回と指導

- ・週1回スクールガードリーダーに巡回していただき，登下校の状況の連絡や安全についての助言を受ける。
- ・子どもたちの安全や危機管理につながる研修会の実施。

5 伏見中支部の各校との連携・協力

- ・安全に係る取組の交流と情報の共有
- ・子どもたちの安全について学識経験者及び警察からの指導助言を受ける。

取組の成果と課題

各実践を通して，保護者・地域の方々の安全に対する意識が高まり，子どもたちの命をまもり安心・安全につながる質的な見直しが図られた。

一方で，登校時は多くの見守りがあるが，下校時は，学年によって下校時間帯が違うことや，11月から12月にかけては日没も早いこともあり，自主的な見守り運動だけでなく組織的な取組の必要性を感じる。

下校時，最終1人になる子どもたちの安全を守ろうと地域の方々から声があがってきているので来年度につなげていきたい。

セーフティネット藤城

藤城小学校

取組の内容及び方法

藤城小学校PTA地域委員会では、昨年の取組を参考に、「各家庭において子どもたち一人ひとりのモラルを高めることが、全体のモラルを高めることになり、子どもたちを守ることにつながる。」ことを再確認した。各家庭へは、子どもへの安全指導の徹底をお願いした。同様に、地域委員会では、例年、夏休み・冬休みの長期休業中に校区内パトロールを実施している。今年度も12月26日～28日にかけてパトロールを実施したが、生活のほとんどを地域で活動するこの時期は、保護者の力だけで子どもたちを見守るのには限りがあるのが現状である。



校区全世帯へのお願い（12月21日付）

日ごろから子どもたちに目を配っていただき、声をかけてやってください。

お買い物や散歩に出かけられる時間を、子どもたちが、地域で活動している時間にあわせてください。

子どもたちは防犯ブザーを携帯しています。ブザーの音が聞こえましたら、様子を見てください。

子どもたちが危険な遊びをしていたり、危険な場所にいたりした場合は、ためらわずに声をかけてやってください。

万が一、子どもに何か異変があったときに、「こども110番のいえ」に逃げ込むように指導しています。ご協力ください。

不審者、変質者と認められた場合、ためらわず110番してください。

地域と手を携えた安全活動

春日野小学校

取組の内容及び方法

登下校の子どもの安全を守るためには、子どもを見守る目がたくさんあればあるほどいい。そんな思いを地域のみなさんに受け止めてもらっている。

本校ではこの間ずっと教職員による登校時・下校時の安全パトロールを続けてきた。下校時には、学年によって下校時刻が異なるために、時間差を設けての安全パトロールを繰り返してきた。そして、地域の方々にも保護者のみなさんにも子どもたちが安全に登下校できるように、地域での生活が送れるように見守っていただいている。

この間自治町内連合会をはじめとして、地域の各種団体の会合においても、春日野小学校、そして春日丘中学校に通う児童・生徒の安全を守るために何ができるだろうか、何をすればいいのだろうか、話し合っていたり、行動に移していただいたりしている。「こども110番のいえ」も町内各地に設置され、子どもたちの安全な登下校や地域生活を送るための役割を果たしていただいているところである。

子ども見守り隊は、より幅広く隊員を募り、その活動が子どもたちの安全だけでなく、地域の安全意識を高めるとともに、安全で住みよい町づくりにも一役も二役もかうことになってくる。

よりたくさんの地域住民がこの活動に積極的に参加するように、いろいろな場で参加を募っていただいていることも大変心強いことである。

社会福祉協議会では、子どもたちが危害を受けている状況を見聞きするにつけ、できる取組からやっていこうと、平成16年12月中旬より社協の会合や回覧板等で児童の登下校の見守りを訴えていただいた。会員さんはもとより、校区の各町内会へも出向いて、見守りを呼びかけていただいた。この呼びかけに応じた住民が登下校時に家の前で安全確認や声かけ活動をしていただいている。また、近隣の安全巡視のために下校時間帯の散策を兼ねたパトロールなどにも取り組んでいただいている。

通りかかる子どもに「気を付けて帰りや」「今日はどんな勉強したんや」などと話しかけると

子どもたちも「こんにちは」「ありがとう」と返事をしたり、学校の事を話したりしている。子どもたちは見守られていることを実感しながら家路についている。

協議会の役員さんからは「未永く取組を続けたいので、多くの人に協力してほしい」とのお話も伺い、大変嬉しく受け止めているところである。



少年補導委員会では従来より継続して地域の児童・生徒が安全で健全な生活を送れるように、不断のパトロールや啓発活動を展開されている。登下校時の安全について喧伝される以前より、積極的な役割を地域では果たしていただいている。子どもたちの様子もよくご存じで、登下校の様子だけでなく地域での生活状況や子どもたちの様子についても折に触れ学校に連絡を取っていただいている。

子どもたちからも親しまれ、パトロール中だけでなく、地域で出会った時にも子どもたちの方から話しかけており、子どもたちにとっては心強い存在となっている。



地域ぐるみで守る、子どもたちの安全

～学校・地域が一体となった安心・安全な町づくり～

伏見板橋小学校

取組の内容及び方法

1 取組の趣旨

子どもたちの安全が脅かされる事件等を契機に、子どもたちの安全について再点検、安全確保に向けた取組をこれまでから推進してきた。

昨年末に起こった広島・栃木と相次ぐ事件を本校では深刻に受け止め、地域各種団体（板橋会）と学校が横のつながりを強化、子どもたちの生命を守り、安心安全な町づくりをしていくという観点から、登下校の安全確保を中心とした取組を推進した。

2 教職員の取組

子どもへの安全指導の徹底
通学路、危険箇所の確認地図作成
不審者を想定した避難訓練の実施
地域パトロールの強化
パトロール用ジャンパーの購入と活用
関係機関との連携
伏見暑及び下板橋交番との密な連携



3 P T A の協力

「こども110番のいえ」の再点検
地域安全マップの作成と配布
「パトロール中」のステッカー付自転車による抑止活動
校内の安全パトロール「ぶらりタイム」
P T A 役員が毎日当番制で、中間休み・昼休み校内を巡回して児童の安全を守る。
パトロール日報「板橋小学校見聞録」の記入
P T A ホームページによる、緊急情報の提示と安全情報の発信

4 地域各種団体との連携

安心安全会議の開催
啓発チラシ「安全な板橋の町をつくりましょう」の町内回覧
「パトロール中」の腕章を地域の協力者に配布
地域の方々による見守り活動
登下校時（登校7:50～8:30 下校1:30～4:45）
地域の方々が散歩・水やり・買い物等々で、できる限り戸外に出て、子どもたちの安全を見守る



ふれあい活動の中での取組
「こども110番のいえ」を巡るオリエンテーリングの開催
ポスター「守ろう子供 板橋のチカラで」の配布と掲示



取組の成果と課題

実践を通して、地域全体に「地域の子どもは地域で守る」という気運が、更なる高まりをみせてきた。

また、P T A をはじめ地域各種団体等の会合の都度「子どもの安全をどのようにして守るか」が話題となり、地域住民の目が子どもたちに注がれるようになった。

放課後、子どもたちは複数で下校をするが、最終的に一人になる時間帯がある。この時間帯の安全確保をどう図っていくか、更なる検討を加えていく。

学校・家庭・地域で地道につみあげる安全確保対策

～「子どもの安全な町は 大人も住みよい町」を目標に地域ぐるみで安全を確保していく～

伏見住吉小学校

取組の内容及び方法

1 「校区パトロールの強化とカラーブルゾンの着用」

校区は、家々が軒を寄せ合う町並みが続いているものの、高齢者世帯が多く、通り抜けの自動車が多いわりには、人通りは案外少ない。必ずしも、人々の目が十分行き届いているとは言い難いところであり、校区のパトロールは、欠かすことができない。校区パトロールの強化を図るとともに、それをより効果的にするため、パトロール時や「朝の声かけ」(毎月1回校門前でPTA・教職員で行う)や「登校の見送り」(PTA地域委員)等行事の折には、カラーブルゾン(校名入りユニホーム)を着用し、子どもを見守る目をアピールし、犯罪抑止力としていくことにした。



2 「安心・安全ネットワークづくり」

学校・PTA、地域諸団体で「伏見住吉子どもを見守る会」を発足させた。区内には、在宅の元気な高齢者が多い。自転車に「パトロール中」プレートの取り付けをいただいたり、「子どもを見守る会」の「パトロール中」吊り下げ札をつけて児童の登下校を見守ってもらうように地域に呼びかけ、協力をいただいている。「こども110番いえ」には、毎年ご協力の依頼と挨拶をするようにしているが、お引き受けから年月の経過している所には、ご家庭の状況の変化を聞き、実情を把握し、警察署とも連携をとるようにしている。

3 安全マップの更新

本校は伏見の中心部にあり、校区東部は古くから開けた住宅街、西部は戦後に開けた住宅街からなる。学校は、疎水が伏見城下の濠川と東



高瀬川放水路へと分岐していく地点にあり、それらが自然と人工の織り成す風情を醸し出している。しかし、今日それらも子どもの安全という視点からみると、さまざまな課題をはらんでいる。のどかな川べりの遊歩道が、以前は格好の通学路と見られていたが、今では、人通りの少ない、心配な場所と見なくてはならなくなっている。従来の安全マップがどうしても交通安全の視点にシフトがかかり過ぎていた点を踏まえ、教職員とPTAで区内の危険箇所を改めて見直し、安全マップの更新の共同作業をすすめている。

4 不審者から身を守るワークショップの実施

「きょうとCAP」の協力を得て、毎年6年生を対象に児童に不審者や暴力から身を守るスキルを身につけさせる講習を開いている。また、保護者対象の教室も開き、家庭での指導に役立てるようにしている。

取組の成果と課題

安全確保対策は、終点のない取組であって、間断ない持続した取組としていかなければならない。そのためには、学校・家庭・地域が連携と補完をし合いながら無理のない着実な活動を積み重ねていくことが大切であると考えている。「子どもの安全な町は、大人も住みよい町」を目標に、地道に取組を積み重ねていこうという意識が、学校・家庭・地域のそれぞれに高まり始めている。地域の人々は、この町で生まれ育った人々が中心であり、地域への愛着は深く、皆で町の安全・安心を守ろうという意識は高い。これら校区の特性をふまえ、今後も安全確保の取組を進めていきたい。

地域みんながみまもり隊

～地域みんなで抑止力を!～

横大路小学校

取組の内容及び方法

1 「パトロール中」のプレート・腕章の活用

それぞれの活動の時にプレート及び腕章をつけ地域みんなで見守っている。

保護者

地域を自転車及び自動車で回る時は、必ずプレートをつける。各家庭2枚ずつ配布。

地域

各種団体の方々が、地域を回られる時、少し遠回りをして、プレート・腕章をつけ通学路を随時回っていただく。

教職員

登校指導・下校時のパトロール・部活動了後の付き添い時、プレート・腕章をつける。

朝の交通安全指導

交通安全推進委員会とPTA地域委員とで、登校時に交通安全指導を行っているが、その時も、プレート・腕章をつけ、児童の見守り活動を行う。



2 パトロールの日常化

より多くの目で子どもたちを見守っていただくために、児童の登下校時に犬の散歩や門掃き等を行う。

PTAからの働きかけで

学校だよりでのお願いで

地域の安全会議でのお願いで

学校・PTAより各種団体へのお願いで

3 「防犯教室」の実施

1月17日、伏見警察の生活安全課に来ていただき、外で遊ぶ時の注意や知らない人に連れて行かれそうになった時の対処法を教えていただいた。保護者の方も熱心に聞いておられた。



プレート名は『横大路PTA』より、地域全体の取組にするため『横大路』に変更

今後の取組

- ・PTAのみならず、地域の方全員に安全マップを配り、危険箇所を常に意識していただく。
- ・地域諸団体が、児童の下校時、通学路に出て見守り活動を行う。

地域の子をみんなで守る「羽束師みはりたい」

羽束師小学校

取組の内容及び方法

1 組織

自治連合会を中心とした少年補導委員会・体育振興会・老輝会（老人会）とPTA（地域で公募した安全ボランティアを含む）及び学校で組織している。

2 活動日時

月曜日～金曜日の毎日、授業終了の下校時刻から、放課後の下校時刻まで活動している。

3 活動に用いる物品

パトロールの時着用するジャンパー

自治連合会の方は自治連合会のジャンパー（黄緑の非常に目立つ色）を着て、少年補導委員会の方は少年補導のジャンパーを着用し、PTAは地域生徒指導連絡協議会のジャンパー（現在作成中）を着て、教職員は自治連合会のジャンパーを着てパトロールしている。

「こども110番のいえ」の立体的表示

「こども110番のいえ」の表示はプレートで正面からは見えるが、斜めからは見にくいので学校で独自に旗を作り子どもたちが見やすいように工夫した。

防犯ベルを配布

PTAの安全対策委員会が全校児童に防犯ベルを配布し、地域ぐるみで子どもを守る町づくりを目指している。



4 活動内容

昨年末の小学生が被害者となった事件を受けて、地域の子どもたちを地域ぐるみで守ってこうと自治会・PTA・学校の三者で話し合いをした。その結果、以下のように活動することになった。

集団登校及び複数下校の徹底と三者によるパトロールの強化を実施する。

下校時は自治会・PTAによるパトロールをする。

教職員によるパトロールは一斉下校時等に、主に低学年担任により随時実施する。

教職員を対象とする防犯訓練を実施して防犯に対する意識の向上を図るとともに緊急時の対応能力を高める。

子どもたちが防犯ベルを持っていることを、地域の人たちに知ってもらい、ベルが鳴ったら状況を把握し、直ちに対応していただくように要請している。



地域ぐるみで、子どもたちに安全な羽束師づくりを目指している。

「地域で守る」明親見守り活動

明親小学校

取組の内容及び方法

1 防犯・安全パトロールの取組

- ・大淀中学校区夜間パトロール（夏季休業中）
 - ・天神祭りパトロール（7/24 25）
 - ・淀花火大会パトロール（8/21）
 - ・與杼神社祭礼パトロール（11/23）
- 地域行事，祭礼などのイベントの時や夏季休業中を通して，小中学校の教職員とPTA，少年補導委員会が合同で校区の中を手分けして，地域の防犯・安全パトロールを実施した。
- ・学校定期パトロール（長期休業前）
- 学校独自でも長期休業前などは集団下校で児童を各地域まで送ったあとそれぞれの地域のパトロールを行っている。



<パトロールに出かけるPTA役員>

2 明親小学校「地域見守り隊」

もともとはPTAから声が上がって始まった活動だが，自転車の前かごに「子どもを守ろう安全パトロール中」というプレートを持参してもらるか，腕に「明親小学校 見守り隊」という文字の入ったリストバンドをつけてもらうという取組を行っている。

特に定期的に集まったり，日時を決めてパトロールをするわけではなく，買い物やその他の用事で地域に出かける時にプレートをつけた自転車に乗ってもらったり，リストバンドをつけてもらったりするだけであるが，地域の中で「見守り隊」のプレートやリストバンドをつけた人を見かけることで，子どもに安心感を与えたり，不審者から子どもを守ることに繋がったりしていると考えられる。

また，今年度の半ばからは，連合自治会を通

じて地域の全家庭に呼びかけてもらったが，趣旨に賛同した地域の方から申込をいただき，名前を登録する参加者が徐々に増えつつある。



<自転車かごプレートとリストバンド>

3 防犯マップの作成と活用

もともとあった学校安全マップに手を加え，明親地域防犯マップを作成した。現在このマップを活用して，連合自治会の所属団体である防犯推進委員協議会の方々による地域のパトロールが行われている。

また，防犯推進委員協議会の方では，このマップと通学路図から防犯上危険であると思われる場所に立て札や表示板を取り付けるべく，現在準備が進められているところである。



防犯マップ

みんなで守ろう 子どもたち

～安心・安全 豊かな心で元気な子ども～

雲ヶ畑小学校

取組の内容及び方法

1 取組の趣旨

校区は、山間部に位置し、民家もまばらであり、人通りも少ない。また、通学路は川沿いで道幅も狭く、足を踏み外せば川に転落する危険な状況もある。

そこで、地域で安心・安全な生活を確保するため、少年補導・長寿会・自治振興会等の代表者と連携して、地域ぐるみの組織体制で取り組んでいる。

2 防犯意識の向上に向けての取組

昨年夏より公共交通機関であるバスが音楽を鳴らして走行していることにヒントを得て、警察のパトロールカーも雲ヶ畑校の校歌や牛若丸のメロディーを鳴らしながら地域を巡回している。また、事故や事件を未然に防止するため、警察とも連携し、子どもたちの防犯意識の向上を図っている。

子どもが自分の身の安全を守るため
笛や防犯ブザーを常に持ち、必要に応じて鳴らす。

集団で登下校する。

こども110番のいえの位置を知る。

危険を感じたら近くの家に飛び込み、助けを求める。

見知らない人に声をかけられても、絶対に付いて行かない。

3 登下校時の安全確保について

(1) 保護者・学校の活動

年度当初に登校の時間や集合場所は決めてお知らせしてきたが、11月下旬より登校時は、毎日保護者が交代で引率し、下校時は、教職員が毎日交代で引率しながら、子どもたちの安全確保に努めている。

登下校時の子どもの安全は、学校や保護者が見守りながら引率している。普段の子どもたちの生活は、山間で人通りも少ないが、保護者を中心に地域の住民全体で子どもたちの安全確保に努めている。

(2) 地域のすべての住民に安全確保を呼びかける「防犯活動啓発用品」

- ・のぼり旗・自転車に付ける安全プレート
- ・防犯用三角コーン・防犯ブザー



集団で登下校する様子

- ・雨の日も雪の降る寒い日も、保護者に見守られながら、元気に登校する子どもたち。



- ・教職員に引率されながら下校する子どもたち。



取組の成果と課題

1 成果

保護者や教職員が、毎日交代で送迎している様子を見ながら、地域の方からも「おはよう」「いってらっしゃい」「こんにちは」「お帰り」等々の声かけも増え、子どもたちは笑顔で答えている。

2 課題

近年、道路整備が行われよくなってきているが、それに伴って交通量も増え、不審者が往来する危険性も高まっていると考えられる。そこで子どもたちへの危機管理意識を徹底することが重要となってきている。

みんなで取り組む防犯安全活動

宕陰小学校

取組の内容及び方法

「防犯安全教室」

実施日時	平成17年7月2日(土)
場 所	宕陰小学校 体育館及び校庭
参 加	P T A , 教職員 , 児童生徒 , 地域諸団体 総数150名
講 師	京都府警

毎日のように、小さな子どもたちが被害にあう痛ましい事件がテレビや新聞等で報道されている。

そこで、毎日のように通い、慣れ親しんだ学区であっても「思わぬ場所で、思わぬ危険な目にあうことがある」ということを前提に防犯安全教室を実施した。実際に色々な場面を設定し、具体例をあげて行った。例えば、子どもが不審な人物に出会って、助けを求めて来た時は、どの様に対応したらよいのか、「こども110番のいえ」に助けを求め、駆け込んで来たときは等。

結果は、知識としては持っていても、実際にはあわててしまって、なかなか冷静な行動ができなかった方が多かったようである。

また、不審な人に出会わないようにするには、どうしたらよいかについて、大人も子どもも学習した。

一人の参加者から「幸い本学区では事件につながる問題はおきていないが、他学区からの情報では、気がかりな事例も聞かされている。自分たちの学区内でおこっても不思議ではないと思う。」という声もあった。

他にも、いくら子どもが心配でも、大人が一日中そばにいて守ることはできない。しかし、何かがあったとき、子どもがどう対処できるかを教えておくことも大切なことではないだろうかという意見もあった。

今後もP T A や地域諸団体、地域警察署の連携協力を得て、児童生徒の安全確保を最優先に

し、登下校時における保護者や地域の方々の声かけ等をはじめとした取組を通して、児童生徒を見まもり、支え合える地域ぐるみの活動を押し進めていきたいと考えている。

そして、さらに安心して住める学区づくりに努めていきたい。



学校・家庭・地域が一体となって安全な学校づくりを

嵯峨野小学校

取組の内容及び方法

学校安全部会 13名

安全に関する指導の徹底をはじめ、交通事故等の防止や防犯対策等の子どもを守る取組と仕組みを地域ぐるみで創造する。

組織 学校運営協議会

学校・地域・PTA

地域安全部会 9名

子どもの登下校の安全・防犯、自転車等の交通安全指導、各種パトロール活動の充実を図ることで安全安心の街づくりを進める。

内 容

朝のあいさつ運動の実施

登校時刻に合わせて門であいさつとパトロール



嵯峨野パトロール隊の活動

合同パトロール
近所のパトロール
自転車等に安全プレート
校内のパトロール

防犯行事の実施

子どもを守る防犯教室開催
12/22(木)実施
防犯避難訓練の実施

「こども110番のいえ」の活用

「こども110番のいえ」マップの配布
情報交換

全1年生に防犯ブザー贈呈

PTAより



校内の環境整備

門の閉めよせ
掲示板の充実
校内に侵入しにくい環境へ



防犯教育の実施

緊急時対応マニュアルの作成と
児童への指導
安全マップの作成と児童への指導



みんなで続ける学校安全活動

御室小学校

取組の内容及び方法

1 通学時の児童保護及び誘導

組織 P T A ・教職員
活動日時 毎朝 8 時 ~ 8 時半
活動に用いる物品 蛍光色ジャンパー
横断用旗

活動内容

正門京福電車踏み切り付近と、東門一条通押しボタン信号の 2 ヶ所に分かれ、毎朝 P T A からは 2 名、教職員からは 1 名が、児童の通学の様子を見守っている。

P T A の当番は、6 年生から順番にまわし、各学級委員が当番表を作り配布している。



3 防犯避難訓練

組織 学校・地域
(防犯推進委員連絡協議会)・警察
活動日時 平成 17 年 7 月 6 日
10 時 ~ 10 時 30 分

活動内容

不審者侵入を想定した非常事態における心構えや護身方法の訓練を実施した。

また、学校外での非常事態における心構えや護身方法(「こども110番のいえ」の利用や防犯ブザーの使い方等の周知)の訓練も行った。

2 校区全体で取り組む安全

組織 自治連合会・P T A
活動に用いる物品 ステッカー
吊り下げ名札
腕章

活動内容

「こども安全パトロール中」のステッカーを地域住民や保護者に自転車等につけてもらい、買い物等に出かけてもらう。

また、児童の下校時間帯には、吊り下げ名札をつけて、イヌの散歩や門掃き等をしてもらうことにより、児童に安心感をもたす。



地域ぐるみの学校安全活動

～ 保護者・地域・関係機関との連携で進める安全活動～

京北第一小学校

取組の内容及び方法

1 防犯・安全啓発の取組

安全ピラの配布・協力

学校及び通学路における児童の安全確保

- ・不審者が出た場合、学校から保護者に文書で連絡
- ・注意の呼びかけや保護者から学校に情報依頼

自分で自分の命を守ることに對する意識の高揚

- ・「知らない人に声をかけられた時」「遊びに行く時」の約束等
- ・防犯ブザー常時携帯の徹底と正しい使い方の指導

親子防犯教室の実施（7月）

- ・「知らない人についていけない」「一人で遊ばない」等ビデオを鑑賞による親子学習
- ・生活安全課担当者による講話



自転車の正しい乗り方とヘルメットの着用についての指導

- ・家庭との連携で自転車乗りのきまりの徹底（7月の地区別懇談会にて）
- ・「こども110番のいえ」についての指導
- ・児童・家庭・地域に場所とその意義の徹底を図り相互理解の強化

学校安全マップ

- ・校区における危険箇所の点検
- ・校舎掲示用地図作製
- ・児童への注意喚起と安全意識の高揚

2 安全教育安全管理の取組

「学校安全の日」設定（毎月一日）

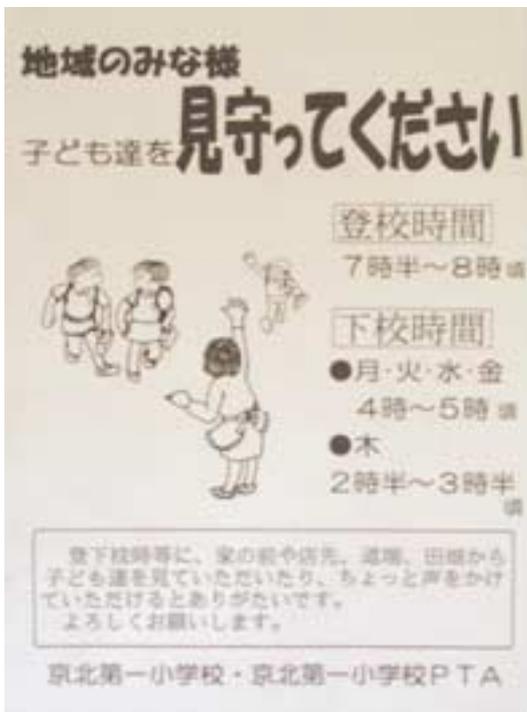
- ・朝の挨拶をはじめ集団登校の仕方、横断歩道の渡り方等を指導
- ・学校施設の安全点検

学校への不審者侵入時の危機管理

- ・警察署と連携した防犯訓練（9月）
- ・児童の安全確保・不審者への迅速な対応・危機管理マニュアルに従った組織的な行動避難訓練

- ・6月：火災（授業時）火災時の基本的な行動と避難経路の理解

- ・1月：地震（休憩時）休憩時に災害が発生した場合の避難の仕方の理解



P T Aによる交通指導・挨拶運動

（毎月第二火曜日）

- ・P T A会員が児童の登校時横断歩道に立ち、交通指導と朝の挨拶運動を実施

子どもを守る学校安全活動

京北第二小学校

取組の内容及び方法

1 登下校における安全活動

登校指導並びに挨拶運動

- ・校区の駐在所の方による毎朝の安全指導
- ・PTA役員と教職員による毎月始めの登校指導
- ・毎月15日の学校安全の日に教職員による登校指導



< 駐在所の方による安全指導 >

集団一斉下校

- ・毎日、午後4時30分（冬季は4時）に、通学班（町別）ごとの集団一斉下校

通学路の安全点検

- ・4, 9, 1月に教職員が通学路を児童と一緒に歩いて通学路の安全点検を実施



< 集団一斉下校 >

地域への呼びかけ

- ・校区の全家庭に児童の登下校に合わせて散歩や家の前への出迎えなどと呼びかけた
- ・PTA会長からの「お願い」文の配布

2 不審者等から子どもを守る活動

警察との連携による防犯教室、防犯訓練の実施

- ・警察署員による子ども防犯教室や警察と連携しての不審者の学校への侵入を想定した防犯訓練

防犯協会等からのステッカーを活用する取組

- ・地域の防犯協会から配布されたステッカーを自家用車に貼りつけて走行

不審者、不審電話等の情報のお知らせ文を配布

- ・身近な情報は文書にして全保護者に周知



< 警察による防犯教室 >

取組の成果と課題

- ・集団登下校を実施しているため、児童の登校や下校の実態が把握しやすい。
- ・地域に見守りボランティアを募集した結果、たくさんの方からの応募があり、多くの方が児童の安全のため、活躍してくださっていることがわかった。
- ・通学路には人家の無いところがあったり、児童の家が散在していたりするので、最後まで安全確保がしにくい。
- ・警察との連携により、防犯教室・防犯訓練を実施したが、今後も引き続き児童の安全を守るために取組を強化していきたい。

学校・地域で取り組む子どもの安全安心の校区づくり

京北第三小学校

取組の内容及び方法

1 学 校

通学路の安全確認

- ・ 学期複数回（入学後1ヶ月，学期始め，交通安全週間等）
- ・ 通学班ごとに児童の下校に合わせて担当教員もいっしょに歩いて，下校指導及び通学路の安全確認を行う。
- ・ 「安全マップ」の昇降口掲示による危険箇所の意識

登下校の安全確認に関する啓発

- ・ 学校だより「大杉」，保護者向け文書等
- 学校評議員会（主任児童委員を含む）での話し合い

防犯教室（3学期）

- ・ 駐在所巡査による講話，不審者対応のビデオ視聴

交通・安全オリエンテーリング（1学期）

- ・ 道路歩行中，自転車運転中，校内での安全確保，不審電話への対応，不審者への対応等のコーナーを設けて，異年齢集団班で各コーナーでの問題を解きながら回り，安全や防犯に対する意識の高揚を図る。
- ・ 駐在所巡査と連携し，1つのコーナーを分担してもらい，交通安全や防犯についての講話やクイズをしてもらう。



< ビデオをまじえて不審者への対応を学習 >

2 PTA

通学路の安全確保

- ・ 安全坊やの設置（7月，夏休み）
- ・ 安全坊やを親子で製作（6月）

歩道設置の運動

通学時の安全についての話し合い

- ・ PTA役員会（年間随時）
- ・ PTA総会（4月，3月）
- ・ 地区別懇談会（7月・夏季休業日前）
- ・ 学級懇談会（年間数回）
- ・ 個別面談（7月，12月）

3 地 域

北桑田防犯協会製作の「防犯パトロール実施中」のステッカーを付けての車の走行
学校周辺及び通学路への目配り（散歩，ゲートボール，農作業時等）

4 警 察

学校周辺のパトロール

児童通学時のパトロール

登校時の交通安全指導



< 交通・安全オリエンテーリング 防犯のコーナー >

地域ぐるみの学校安全体制の取組

川岡小学校

取組の内容及び方法

1 取組に至る経過

本校は、平成11～13年度に京都市教育委員会より指定を受け、防災・安全教育に取り組み、平成14年度は文部科学省・京都市教育委員会より指定を受け、地域ぐるみの学校安全推進モデル事業に取り組んだ。

平成15年度以降も、学校の柱の一つとして取組の継続・見直しをしている。

2 通学路看板取付

学区内の道幅の狭い府道（旧山陰街道）・交通量の多い新山陰街道など事故の発生しやすい通学路にPTA本部役員・地域補導委員が中心になって看板を取り付けた。〔今年度の新しい取組〕



3 通学路の安全確認・登校指導

校区を歩いて回り危険な場所を確認し、交通安全・防犯などの生活安全に視点をおいて、詳しく調べた。PTA地域委員と学校が定例会議を持ち連携を深めている。話し合ったことがらを来年の学校安全マップに生かせたらと考えている。また、親子で校区図を見て、安全な登下校について話し合う機会をつくり、安全についての意識を高めている。

川岡交通安全推進委員会の方が当番で朝の登校指導・声かけ運動に参加していただき、子どもたちの安全を見守っていただいている。



4 安全委員会の取組

- ・15日学校安全の日・朝の声かけ運動
- ・お昼休みの安全運動・ポスターや標語作り
- ・校内ひやりハットマーク、「こども110番のいえ」、川岡レスキューステッカーの点検（古くなったステッカーの貼りなおしなど）

また、朝の声かけ運動は、児童会とタイアップして全校的な活動に広がっている。



学校と地域で“子どもを守る”

松尾小学校

取組の内容及び方法

1 学校の取組

指導 各学年研究授業(2年6/30 6年9/15 4年10/27)



2年生研究授業



チャレンジ教室

登下校安全指導
安全ノートの活用

- 町別児童会・集団下校
- 集団登校(4/12, 7/20, 3/20)
- 緊急時集団下校とその体制
- 避難訓練(不審者侵入・火災・地震)
(5/20, 9/9, 1/17)
- チャレンジ教室(レッツ安全教室)(7/21)

管理 毎月の校内安全点検
校内パトロール

研修会 不審者侵入避難訓練(教職員対象)
授業研究発表会(1・3・5年1/20)
安全研修会(8/29)



安全委員会



ネットランチャー

児童 ランドセルに防犯ブザーの携帯
安全委員会(毎月奇数週水曜日)

教職員 防犯ブザー携帯
名札着用

用具 教師用・教室用防犯ブザー
ネットランチャー
さすまた等

設備 カメラ付きインターホン
オートロック門
大型モニター
非常ベル
インターホン
校内放送



オートロックの正門

2 地域の取組

P T A 登校時 各町別地域委員の同行
緊急時 各町別地域委員と集団下校
来校時 名札着用
通常・休み中 校区パトロール

西京警察 パトロール・交通安全指導
交通教室(5/9)
自転車教室(5/27)



交通教室



自転車教室

新入生保護者対象交通安全指導
(11/17)

消防署 交通安全講習(9/28地域対象)等
社会見学・体験活動(9/27)

消防分団 安全体験・お話(10/13)
自主防災(11/20地域対象)等



消防署見学

「こども110番のいえ」子どもの安全確保
少年補導 校区パトロール

スクールガードリーダー 校区パトロール
ボランティア 登校時交通安全指導
各種団体 下校時交通安全指導
自治連合会 登下校時の児童の見守り等



地域ボランティア

学校・家庭・地域が一体となった子どもの安全確保

嵐山東小学校

取組の内容及び方法

1 登下校時の安全確保

教職員・警察・地域の方々が校区内の横断歩道や踏切、危険な交差点に立ち安全指導を行っている。



ブロック別集会（町別集会）の後には、担当の教職員が通学路の安全を確認の上、地域委員協力のもと、集団登校集合場所まで集団下校を実施している。



スクール・ガードリーダーが、週に1日校区内の巡回及び安全点検を実施し、児童への安全指導をしている。



2 安全確保の呼びかけ

学校・学年通信等およびPTAだよりで児童の安全確保のための協力を呼びかけている。校区内には、PTAや各種団体が安全確保の呼びかけを掲示するなどしている。



3 子ども安心安全ネットワーク

学校・学年通信等およびPTAだよりで児童の安全確保のための協力を呼びかけている。校区内には、PTAや各種団体が安全確保の呼びかけを掲示するなどしている。

- ・基本方針：児童の安全確保
迅速な通報
教職員の受傷事故防止
- ・組織（事務局：西京警察署）
保育園・幼稚園・小学校・中学校
- ・活動：情報の提供活動
防犯指導の実施
防犯訓練の実施
- ・連絡方法：ネットワークを通じて順次
FAX送信する。

取組の成果と課題

学校・PTA・地域の諸団体が、連携を深め有機的に結びついて児童の安全確保のための取組を進めていったことは、それぞれの立場で安全に対する意識の高揚につながり大きな意義があった。

今後も、これらの取組が地域住民全体にさらに広がっていくことを願っている。

地域の安全は面で守る

藤ノ森小学校

取組の内容及び方法

1 主に校内の取組

- ・正門横に地域ふれあい広場を設置し、地域諸団体、個人の皆さんの協力のもと、児童の登下校や日常の様子を見守ってもらう。
- ・校門、中庭等を中心にカメラを8台設置し、センサーと併用することにより、職員室で集中的に監視している。これらの機器を活用することによって不審者の侵入を未然に防いでいる。



<地域ふれあい広場>



<監視カメラ>



<センサー>



<監視カメラ>



<職員室モニター>

2 主に校外の取組

- ・学区社会福祉協議会等の協力で、登下校中の児童の見守りを依頼する「緊急アピール」を校区内各所（学校名約120部，PTA名約80部）に掲示した。



<緊急アピール>

- ・従来の自転車等に付ける「パトロール中」のプレート（PTA，地域で約200枚）に加え、教職員の自家用車にマグネット式プレートや吸盤式プレートを装着し、通勤時や校外移動時に掲示している。



<マグネットプレート>



<吸盤プレート>

- ・低学年の下校時刻に合わせて、教職員（常時6名）が下校路をパトロールしている。
- ・PTAおよび藤ノ森少年補導委員会が毎月1回ずつ下校時間帯に通学路のパトロールを実施している。

安全対応能力と防犯意識を高める

桃山小学校

取組の内容及び方法

学校・地域・家庭が一致協力し、地域ぐるみで子どもたちの安全を守る体制作りや活動をする。

1 登下校時の子どもたちを守る

4月・5月 教職員、地域委員、PTAで校区・通学路の安全点検をし、安全マップやパトロールに反映させる。

毎月はじめの声かけ運動の実施

校門と校区の要所で朝のあいさつの声かけと登校する児童の安全を確保する。

地域のボランティア2名の方に、毎朝交通安全上危険な箇所立っていただき、登校する児童を見守ってもらっている。

4月11日 PTAで防犯ブザーの斡旋。

(多くの児童が登下校、外出時に目立つように持ち歩くことで、犯罪の抑止力とする。)

5月・1月 PTAによる自転車・自動車の安全プレートの協力者への配布



5月27日 安全マップ「校区危険箇所地図」の配布により、危険箇所の共通認識を図るとともに、校区の細部の点検を多くの目で継続して行う。

11月30日 「登下校時の声かけ」の協力依頼のプリントをPTAが、保護者・地域に配布。登下校時に通る子どもたちの様子を自宅前で見守り、「おはよう」「おかえり」などの声かけをしてもらい、「小さな積み重ねであっても、地域全体の大人の目が犯罪への抑止力となるはず。みんなで子どもたちを守りましょう。」と子どもたちの安全確保への協力を呼

びかける。

毎月15日を「安全の日」と決めて地域委員会作成の注意喚起のプリントを配布している。



2 地域における防犯意識を高める

7月2日「プロが教える親子で学ぶ護身術」

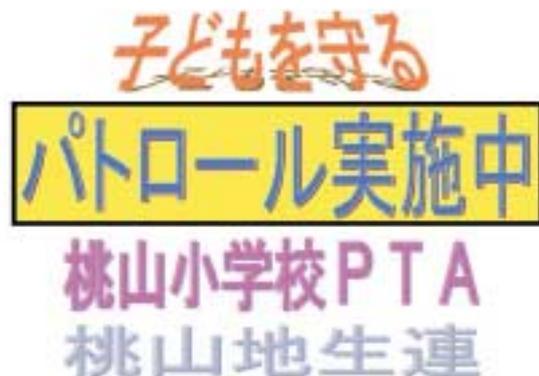
ふれあい活動で、児童・保護者・地域の人から参加者を募り、元K-1の佐竹雅昭氏が講師に招いて、いざというときに身を守る方法を教えてもらった。

防犯グッズに頼るだけでなく、実際に身体を動かし、護身術を体験した。

11月5日 児童地域住民対象の「防犯教室」の実施(伏見署員が講師となって、暴漢から身を守る心得の講義と所作を実演)

地域行事や各種団体の会合で、機会あるごとにボランティア募集の呼びかけや、子どもを守る取組への協力の呼びかけをした。

「配布した安全プレート」



広めよう安全知識・高めよう安全意識

桃山東小学校

取組の内容及び方法

1 組織

「桃山東地域ぐるみ安全対策委員会」

学校・・・安全委員会

P T A・・・地域委員会

地域・・・防犯推進委員会

交通安全推進委員会

2 活動内容・日時・使用物品

防犯教室

・ 6月28日(火)

不審者侵入時の教職員の対応。児童自ら身を守る方法。児童がインターホンを使って連絡する訓練。

・ 11月25日(金)

地域・P T A・学校担当者出席。伏見警察署員から防犯の知識を学習。

・ 12月14日(水)

伏見警察署員による学習。声かけ事案への対応。全校児童と保護者も参加。

啓発活動

・「こども110番のいえ」の再編成

新マップをカラー印刷し、全家庭配布。

・「校区安全マップ」を作成

印刷し全家庭配布。

・「桃山東パトロール腕章」の作成

全家庭配布。

・「わんわんパトロールカード」作成

保護者・老人会・女性会の方の希望者に配布。

・「パトロール中カード」作成

自転車のかごにつけるタイプ。自動車のフロントに置くタイプ。保護者・地域の希望者に配布。



< 防犯教室で自分で自分を守る方法を学ぶ >



< 全家庭配布「新こども110番のいえマップ」 >



< 全家庭配布パトロール腕章 >

3 常時活動

登校時の声かけ・パトロール

下校時のお迎え・パトロール

「地域の子どもは地域で守ろう」の合言葉のもとに

伏見南浜小学校

取組の内容及び方法

1 取組の趣旨

校区は、商店街や酒蔵・マンションが立ち並んでおり、人通りも多く観光客も多い。しかし、人通りの少ないところや変質者が出没するといったところもあり、子どもたちにとって注意しなければならない場所もある。

今までからも、地域の人たちは、「地域の子どもは地域で守ろう」という意識が高く、子どもたちはそうした環境の中で温かく育てられている。

従来、不審者等防犯情報については、教育関係連絡網を作っていた。そこでは、小学校に情報が集約され、校区にある1幼稚園・2保育園・1児童館・1中学校・少年補導委員会に連絡、それぞれの立場で子どもたちに注意を促してきた。少年補導委員会では消防分団とも連携し、校区のパトロールなどを実施していただいた。

また、PTAではホームページを立ち上げ、不審者情報や安全に関するメール配信をスタートさせた。

2 「こども110番のいえ」の点検

昨年末相次いで発生した小学生が犠牲になる事件の後、校区全体に子どもの見まもり等の協力を依頼していく方向で安心・安全のための取組を進めている。子どもたちの登下校の時間帯を知らせ、その時間帯に出来るだけ家の外に出てもらって安全な通学路にしていこうということである。

さらに、PTAと少年補導委員会・防犯委員会の協力で「こども110番のいえ」の点検を実施した。従前からの家以外にも設置箇所を考え、新たに協力を求め、ほぼ全員の方に協力をいただいた。

スクールガードリーダーの活動も校区の巡回など細かい目配りをしてもらって安心材料になっている。



<スクールガードリーダーの活動>

3 登校時の安全

朝は集団登校をしているが、地域の中には、子どもたちの登校時にいつも通学路に立って安全な登校を見守ってくださる人がいる。また、集団登校の場所まで、子どもたちを送る保護者やPTA役員も朝のあいさつ運動を兼ねて、パトロールしていただいている。



4 下校時の安全

下校時刻にばらつきがあるので、地域全体に子どもたちの下校時の安全に目を配ってもらうようお願いした。主に午後2時前後・3時前後等、それらの時間帯に、植木の水やり・買い物・犬の散歩など家の外での活動で、少しでも子どもたちを見守ってもらうようにしている。

取組の成果と課題

『伏見南浜小学校パトロール中』のプレートでは、子どもが卒業したら使わないから小学校と入れるのをやめよう、「パトロール中と書いたジャンパーとか腕章などがあるとちょっとやりやすい」などあちこちで、安心・安全のための意見を出してもらえるようになり、子どもたちの安心・安全のための機運が高まっている。

また、各団体でパトロール中というプレートを作って車につけていただいているところもある。

痛ましい事件が続き、なんとか子どもの安心・安全のために少しでも協力してもらえればと始めた取組であるが、多くの方が関心をもち、協力の申し出をいただいている。今後は、パトロール中であるということが一目でわかるようなベスト・バッジなども充実させていくつもりである。

安心と安らぎのまちづくり

「このまちは大人の眼が光っています」というまちに

向島小学校

取組の内容及び方法

1 地域パトロール

向島自治連合会では、交番との連携を進め地域で子どもたちを守り、「安心と安らぎのあるまちづくり」のための取組を最優先に進めていただいている。

12月より毎週 月曜日と木曜日の午後2時から学校東門に集合し、8人ずつ2班に別れてのパトロールを実施している。

子どもたちにとっては地域の人自分たちの安全を守るために活動していただいていることの安心感や大人への信頼感が増している。

一方、大人としては地域を見直すきっかけとなっているようだ。



2 掲示板と啓発ポスター

「子どもを地域で守ろう」の防犯啓発ポスターを各町内に配布、掲示板をはじめ目につきやすい場所に貼付し、地域住民に呼びかけをしている。

また、他の掲示物にも常に気を配り、その都度、必要な物を必要な場所、必要な時期に掲示し、読み手に新鮮な情報を提供することで防犯・環境美化に目の行き届いた地域であることを示している。

これらの取組を通して、犯罪に対する抑止力を地域全体で高めるようにしている。



3 安全グッズの活用

P T A地域委員をはじめP T A会員、地域諸団体に「プレート」を配布し、自転車の前面付けて、防犯・安全意識の高揚に活用している。決まった時間帯にパトロールするのではなく、都合のよい時間に行っている。多くの人々が関心をもって見ていることから、地域の防犯・安全に対する認識の表れが大きな抑止効果のひとつになっている。



4 交番との連携

警察の地域防犯・安全対策の経験を生かし、向島地域として、今、何をなすべきかを豊富な実績をもとにした取組と、この活動への理解及びサポートをしていただいている。

向島二の丸の見守り活動

向島二の丸小学校

取組の内容及び方法

1 PTAとの連携

本校では犯罪への抑止力とすべく、9年前から自転車の前かごに「パトロール実施中」のプレートを取り付ける取組を独自に行ってきた。

また、数年前よりPTA役員が数人ずつの当番を決め、毎日の登下校時に見守り活動を続けている。教職員もその活動と連動し、立つポイントを分担して見守り活動をしている。



本校では午前8時から午前8時30分の間に登校することになっている。そのため朝の見守り活動もその時間帯に合わせて行っている。

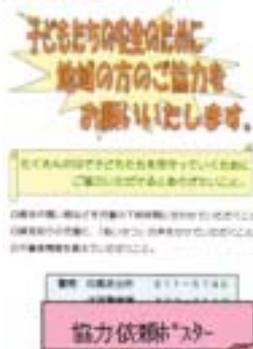
下校時は、下校時刻にばらつきがあるため、見守り活動は低学年の下校時刻に合わせている。そのため、PTAが毎月の見守り活動当番表を作成する際には、学校の教務部と厳密に打ち合わせをしている。また、下校時刻が午後6時頃になる部活動を終えて下校する児童は教職員引率のもと集団下校しているが、その集団下校にPTA役員が付き添うこともある。

2 地域との連携

本校には歴代PTA本部役員によるOB会があり、その会員に見守り活動への参加を呼びかけたところ、多くの方々の賛同を得られることとなった。

高層住宅の自室から登下校の様子を注視する方、自転車や自家用車に「パトロール中」のステッカーを取り付ける方、時間帯には関係なく買い物には腕章をつけて行く方など、その会員による見守り活動は多様である。

また、本校区は3つの街区で構成されているが、各街区の自治会等の協力を得て、地域の方々へご協力を願うポスターを各棟に貼らせてもらっている。そのことと「全小学校に京都市教委 ロゴ入り腕章など配布」との新聞記事の相乗効果で地域の方が見守り活動に参加を表明されるケースもあった。



取組の成果と課題

1 成果

本校PTAの今年度のテーマは「地域のおとなと子どもが仲良くなるう」である。つまり、地域のおとなと子どもが仲良くなって、お互いあいさつを交わしたり、子どもが良くないことをしていたらおとなが注意できたりするような関係を構築しようとするものである。

このテーマに沿って見守り活動を進めていくことにより、おとなと子どもが親しい関係になり、子どもたちが安心して登下校できるようになってきた。また、前項で記述したように、PTA会員以外の方々にも児童の安全に目を向けてもらえるようになってきた。

2 課題

決められた登下校路を通ったり、身に危険が及んだときの対処法を学んだりすることが大切である。今後は自分の身を自分で守るという意識とともに行動がきちんをとれるよう、指導を更に徹底させなければならない。



地域ぐるみで子どもを守る学校安全活動

～ 犯罪を寄せ付けない地域をめざして～

久我の杜小学校

取組の内容及び方法

1 久我の杜安全推進委員会

学校・PTA・自治連合会が連携した『校区の安全・あんしん』のための実行委員会を11月に発足した。子どもたちを見守るために何ができるか、学校では...、PTAとしては...、地域では...という内容で、熱心な話し合いを行い、子どもたちが犯罪に巻き込まれないような町づくりについて確認しあった。今後のあり方を中心に、地域でできることを話し合い、定期的に委員会を開催し、情報交換をする中で、さらに連携を深めていきたい。

まず、地域全域に「子ども安全・あんしんピラ」を配布した。また、パトロールは各種団体長を中心に協力体制を形成していくことを確かめ合い、できることから実施し、報告・交流することでお互いが連動した活動になると考えている。

教職員のパトロール

日常行っている児童宅への家庭訪問の際、学校への帰途に校区をパトロールする。(自転車前かごに『パトロール中』のパネルを貼付、1月より安全・安心腕章、2月より地生連ウィンドブレーカー等の着用)

保護者のパトロール

保護者が来校の際、自転車やバイク、自動車の見えるところに『パトロール中』のパネルを貼付して、保護者が安全に対して高い意識をもっていることを示す。

2 学校安全体制を支える地域ぐるみの安全活動

久我の杜下校時安全・あんしんマップ

これまでの『久我の杜安全マップ』『こども110番のいえマップ』に加え、学校が子どもたちの下校時の一人になる危険箇所や死角になりやすい場所などを書き込んだ『久我の杜下校時安全マップ』を作成し、下校時の地域パトロールに役立てられるようにした。地域委員を通じて地域パトロールをする関係者に回覧して確認してもらった。子どもたちの登校の安全指導に加え、すでに、校区全域に配布している子ども安全・あんしんピラを参考にして、下校の時間帯にもパトロールをして子どもたちを見守ってもらうようにした。また、地域委員を通じて新

たに7軒の家が「こども110番のいえ」として登録していただくことになり、子どもたちの安全確保に向けた協力体制が一段と向上した。今後も連携を深めていきたい。

おやじの会ドッジボール大会(1月)

今年度は、地域のおやじとして男性の参加をさらに呼びかけた。地域の安全・あんしんパトロールをする際、地域のおやじとしての意識を高めるとともに『こがのもり』のネームの入ったウィンドブレーカーを着た人に見守ってもらっているという子どもたちの意識も高めたいと考えた。満面の笑顔でドッジボールをしている子どもたちの姿に地域のおやじからは、「こんなかわいい子どもたちを犯罪に巻き込んでほしくない。できるだけことはしていきたい。」という声を聞くことができた。



神川中学校ブロック地域生徒指導連絡協議会
神川中学校ブロックでは、神川・久我の杜・羽束師の3小学校と神川中学校が地域生徒指導連絡協議会のネームとロゴの入った共通のデザインでウィンドブレーカーを作成し、地域パトロールで使用している。様々な立場で子どもたちを守るという姿勢を知らせることで、抑止力に繋がっているのではないかと考えている。

地域清掃活動

自治連合会では子どもたちが地域で遊んでいるときの安全を守るため、各町ごとに独自の取組を工夫している。町内で計画された地域清掃活動では、子どもの参加を呼びかけ、近所のおじさんやおばさんと一緒に清掃活動を行うことによって交流を深め、地域の大人が子どもたちに声をかけやすくし、日頃の地域の安全・あんしんに心配りを行っている。



地域ぐるみで守る子どもの安全

学校・家庭・地域が一体となって

美豆小学校

取組の内容及び方法

1 登下校時の安全指導

子どもたちの安全な登校を進めるため、以下の場所で安全指導を行っている。

淀大橋南詰交差点での指導

淀川以南の地域の保護者及び地域委員、防犯推進委員、教職員が、登校時に安全指導を実施している。

リバーサイドマンション、八幡長町、美豆町など校区内・各地域の地域委員により登下校指導を行っている。

校門前

教職員が登校時に実施している。

2 PTA・地域関係諸団体との連携強化

地域ぐるみで子どもたちの安全を守るため、以下のような取組を行っている。

登校時における淀大橋南詰交差点での指導

地域委員による「旗当番」の実施と当番表の作成。保護者や防犯推進委員による登校指導の実施。

校区内・各地域の地域委員による登下校指導リバーサイドマンション、八幡長町、美豆町などで実施。

保護者・地域住民による「こども110番パトロール中」のステッカー運動

自転車のかごなどに「こども110番パトロール中」の黄色いステッカーを付け、地域全体で子どもを守っていく体制をつくる。各町自治会による自主的な活動の推進が進められている。

「美豆小こども110番のいえ」の設置

地域に「こども110番のいえ」を設置し、緊急時における子どもの安全確保と抑止力を図る。

学校や地域での子どもへの声かけ

子どもの登下校時における「おはよう。」「いってらっしゃい。」「お帰り。」などの声かけ運動の推進。



3 「安全の集い」の実施

子どもたちの安全意識の向上、地域との連携を強化することをねらいに平成14年度より「安全の集い」を実施している。内容は年度により異なっているが、消防署や警察署と連携して防犯・防災安全に関する体験学習を実施している。

4 教職員への防犯ブザーの配布

平成15年度より、緊急時に備え防犯ブザーを全教職員に配布した。本校の防犯安全に関するマニュアルである「自主防犯体制」の中で明記し、危機意識の向上に役立てている。

5 防災ヘルメットの配備

平成17年度より、防災ヘルメットを全校児童・教職員用に配備した。これは地震や火災に備え、防犯に対する抑止力の向上のために、教室や職員室前の廊下に常時備えてある。



取組の成果と課題

学校はPTA・地域関係諸団体と、日頃から連携した取組が進められている。

子どもたちには、学級での安全指導、避難訓練、「安全の集い」などを通して危機意識の向上に努めてきた。この結果、子どもたちは、安心して学校に通学しているのが現状である。

今後、PTAや地域関係諸団体にとどまらず、地域の全家庭に浸透するような地域ぐるみの取組を一層進めていきたい。

5 . 資 料

京都市立学校長・園PTA会長様

京都市立学校長・園長様

学校・保護者・地域が一体となって 子どもの登下校時等における安全確保の徹底を！

去る、11月22日に広島県の小学校1年の女子児童が下校途中に殺害され、ダンボール箱に入れられ遺棄されるという大変痛ましい事件が発生いたしました。

幼児・児童・生徒の安全確保につきましては、日ごろから万全を期していただいているところであります。特に、子どもたちの登下校時の安全確保については、これまでからも、学校・家庭・地域・各種団体等が連携し、通学路での立番や子どもたちの付き添い、地域の実態にあった学校独自の安全マップの作成等、地域ぐるみの安全の取組を推進され、子どもたちを見守っていただいております。

今回の事件を契機に、学校・家庭・地域社会・各種団体・関係機関との連携を一層強化し、今一度、登下校時はもとより地域社会における安全確保をはじめ、幼児・児童・生徒への安全指導や学校・園の安全管理について、あらためて認識し、主に次の点について、留意されますようお願いいたします。

保護者・地域が、登下校時（特に下校時）や放課後等に、子どもの様子に目を配るなど、安全確保にこれまで以上に関わっていただく。

家庭で、子どもの下校時刻、特に通常と異なる場合等に注意するなど、安全確保に努めよう。

学級・学年等複数で下校しよう。必要に応じて、集団登下校を行おう。

知らない人の誘いに応じないように指導を徹底しよう。

「こども110番のいえ」と日頃から連携を図り、積極的に活用しよう。

平成17年11月24日

京都市子ども安全会議
人づくり21世紀委員会
京都市PTA連絡協議会
京都市地域生徒指導連合会
京都「おやじの会」連絡会
京都市立幼稚園長会
京都市小学校長会
京都市立中学校長会
京都市立高等学校長会
京都市立総合養護学校長会
京都市教育委員会

京都市子ども安全ネットワークニュース

vol.5 平成17年7月 発行：京都市子ども安全会議事務局
(教育委員会体育健康教育室 TEL 213-5472)

川岡小学校 安全功労者内閣総理大臣表彰を受賞

～京都市立学校の地域ぐるみの取組が日本一に!～

「国民安全の日」(7月1日)に総理大臣官邸大ホールで表彰式が行われました。川岡小学校が全国約23,500ある小学校の頂点に輝きました。

安全功労者内閣総理大臣表彰は、昭和35年に創設された国民安全の日の創設意義に基づき安全功労者を表彰する伝統あるものです。

また、国民安全の日は、国民が生活のあらゆる面において、施設や行動の安全確保に留意し、習慣化する気運を高め、交通事故等の日常生活の安全をおびやかす災害の発生の防止をはかるため創設されたものです。



小泉純一郎首相から表彰を受ける青野京子校長
俣野武夫自治連会長、吉村真琴安全主任も同席

門川大作教育長に報告を行い、樹本頼兼市長の感謝状を受ける。
左から青野京子校長、門川教育長、藤岡一郎京都産業大学大学院教授、
俣野武夫自治連会長、福井雅浩PTA会長



全国に先駆けた地域ぐるみの取組と成果

登校時の立ち当番及び地域の連絡網作成(PTA)

立ち番を全保護者が交代で実施、子どもの安全に対する意識の高まりにつながりました。

地域委員による通学路の安全確認(PTA)

通学路を実際に歩いて回り、交通安全や防犯等の視点で危険な場所を確認し、学校へ情報提供しました。

夏休み中のラジオ体操のよびかけ(PTA)

地域の大人の参加により、子ども達も地域に顔見知りの大人が増えました。

夏休みの学校で泊まる会(少年補導委員会)及びその参加児童による「夜回り」の実施(消防分団)

火の用心の夜回り、野外炊飯、キャンプファイア等を通して地域と子どもの交流が図れました。

防災センター見学(女性会、老人クラブ、西京消防署)

世代間交流による会話の活性化により「危険」への心構え等大きな効果が得られました。

子どもみこし作りと地域の練り歩き(オヤジの会)

他の子どもとのふれ合いの少ない父親がみこし作成等を通して子どもとの交流を図ることができました。

“かわおかレスキュー”(「こども110番のいえ」川岡小学校版)ステッカーの貼付依頼(自治連合会)

“地域の子どもは地域で守る”という意識を地域の大人に持ってもらうきっかけとなりました。

各地で「夜回り」を実施(消防分団,PTA)

地域の方に子どもが主役の防犯や防災に対する意識付けの促進につながりました。

川岡小学校の取組は、京都市の各地域でもすでに実施されているものもあり、今回の受賞は京都における地域ぐるみでの安心安全の取組の推進に大いなる勇気を与えるものです。

～子どもたちの更なる安全確保に向けて熱い検討が重ねられる～

「京都市子ども安全会議」

今年度の第1回会議が5月30日に開催され、“文部科学省委嘱事業「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」”，“PTA・「おやじの会」ホームページ開設”，“学校安全のための方策の再点検”の事業取組報告等があり，その後の意見交換の中で，地域，保護者，学校の各委員それぞれの立場から，これまでの取組とその成果を踏まえ，更なる充実に向けての意見が出されました。

今後はこれらの意見をもとに各地域での様々な取組を展開してまいります。なお，今年度から京都産業大学大学院教授で京都市生活安全施策懇談会会長の藤岡一郎様を委員に加え，専門家の視点を得て更なる取組の推進を図っていきます。



＜活発な検討を重ねる委員＞

防犯のプロが子どもの安全を見守る！

～スクールガード・リーダー委嘱状交付式～



＜森原 子ども安全統括官から委嘱状の交付＞

スクールガード・リーダーの委嘱状交付式と学校向け「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」説明会を6月20日に京都市総合教育センターで行いました。

スクールガード・リーダーは防犯の専門家である警察のOBで，学区の巡回及び登下校時の安全確保，校門付近での立番等を行います。今回は17名のスクールガード・リーダーが委嘱され，7月1日から週に2日，一日当たり2校区を巡回します。

今年度は，市立小学校の8支部90校（北上，山科，右北，右南，西東，伏中，伏東，伏西），平成18年度は残りの9支部91校で実施し，2箇年で全市に展開します。

この指定を機に地域ぐるみで子どもの安心安全を守る取組が各地域において益々充実することを目指しています。

京都の地域ぐるみの取組に全国が注目!!

「こんなことをしています ～保護者・地域の安全活動～」

京都市では，各地域で子どもの安全を守るための地域ぐるみの創意あふれる地道な取組が展開されています。各地域での取組を一層充実させていただくため，参考までに紹介します。

朱雀第三小学校

地域，保護者とともに「学校の防犯」について堀川警察署と協議し，不定期ではあるが週に複数回，警察官が地域パトロールの際，学校に立ち寄る体制を確立しました。制服の警察官が中間休みや昼休みに，運動場などで児童を見守っています。

下鳥羽小学校

子どもたちを地域で守ろうと，下鳥羽自治連合会とPTAがパトロール用腕章（100枚）を作成し，保護者や地域住民が犬の散歩や買い物など外出する際に腕章をつけることで，子どもへの犯罪の抑止効果を狙う活動を展開しています。

～子どもたちに 安心安全の 夏休みを～

京都市子ども安全ネットワークニュース

vol. 6 平成17年12月 発行：京都市子ども安全会議事務局

教育委員会体育健康教育室 ☎213-5472 <http://www.edu.city.kyoto.jp/taiikukenko/>

学校・保護者・地域が一体となって 子どもの登下校時等における安全確保の徹底を!!

～広島県、栃木県の事件を受け「緊急京都市子ども安全会議」を開催～

下校途中の小学校一年の女兒が殺害されるという惨事が十日足らずの間に続発し、この事件を深刻に受け止め、緊急の「京都市子ども安全会議」が12月5日に開催されました。

学校・保護者・地域の代表が参画したこの会議では、

- ① 保護者・地域の参画による各小学校での緊急の安全会議等の開催
- ② 地域ぐるみでの防犯マップや通学路の総点検の実施
- ③ 先進的な取組を参考にした各地域の実情に合わせた取組の一層の推進

など悲しみ・怒りを原点に子どもの安全確保に向けての具体的な取組を直ちに行動することになりました。



会議の冒頭、全員で被害者に黙祷を捧げた後、門川大作教育長が、「京都市では、地域の子どもは地域で守り育てる取組が行われており、安全確保もこれに尽きる。広島・栃木の事件は今日明日にでも京都で起こっても不思議はないとの危機感を行動の連携に高めたい。献身的な取組をいただいているPTA・地域の方々に感謝しより一層の取組をお願いしたい。」とあいさつしました。

また、意見交換では、PTA・人づくり21世紀委員会・学校幼稚園の代表から

- ・ **防犯マップの再点検**など地域の実情に合わせた取組を一層進めていく
- ・ 弱い立場の者を標的にする犯人への**悲しさを超えた激しい怒りを原点に行動へ繋げる**
- ・ 学校現場、家庭、地域で、**通学路に死角がないか再点検**する必要がある
- ・ 地域での各団体の横のつながりを強め、**情報を共有し、隙間を埋める対応**をするための行動が大切である
- ・ **「子どもの命」に焦点**を合わせ、家族のあり方や地域のあり方、ひいては大人社会のあり方を今一度見直す機会としたい 等が提起されました。

さらに、藤岡一郎「京都市子ども安全会議」顧問、京都市生活安全懇話会会長、京都産業大学大学院教授から「事件・事故が起こってからではなく、**目に見える形での抑止力（安全パトロールの腕章をつける等）**としての行動を起こす必要がある。」等とのコメントが寄せられました。この会議を契機に、学校・家庭・地域がさらに連携し、子どもたちの安全確保を徹底することを確認しあいました。

～「京都市子ども安全会議」とは～

京都市では平成16年4月に、学校、PTA、人づくり21世紀委員会等の代表と教育委員会が、子どもの安全対策について話し合い、総合的・系統的な安全対策を推進するため、「京都市子ども安全会議」を発足し、定期的に会議を開催するとともに、公用車用の「パトロール中」ステッカー作成や「学校園防犯実践事例集」の発刊など、具体的な行動へ繋げています。

～京都市のこれまでの経過～

11/22 (火)	広島市女児下校途中における殺害事件発生
11/24 (木)	京都市子ども安全会議、校長会、PTA、おやじの会など11団体が「学校・保護者・地域が一体となって子どもの登下校時等における安全確保の徹底を！」緊急アピール
12/ 2 (金)	・今市市女児下校途中における殺害事件発生 ・事件の続発を深刻に受け止め、京都市教育委員会は緊急幹部会を夜9時から開催
12/ 5 (月)	午前10時から「緊急子ども安全会議」を開催

～緊急アピール要旨～

今回の事件を契機に、学校・家庭・地域社会・各種団体・関係機関との連携を一層強化し、今一度、登下校時はもとより地域社会における安全確保をはじめ、幼児・児童・生徒への安全指導や学校・園の安全管理について、あらためて認識し、主に次の点について、留意されますようお願いいたします。

- ① 保護者・地域が、登下校時（特に下校時）や放課後等に、子どもの様子に目を配るなど、安全確保にこれまで以上に関わっていきう。
- ② 家庭で、子どもの下校時刻、特に通常と異なる場合等に注意するなど、安全確保に努めよう。
- ③ 学級・学年等複数で下校しよう。必要に応じて、集団登下校を行おう。
- ④ 知らない人の誘いに応じないように指導を徹底しよう。
- ⑤ 「こども110番のいえ」と日頃から連携を図り、積極的に活用しよう。

平成17年11月24日

京都市子ども安全会議・人づくり21世紀委員会・京都市PTA連絡協議会・京都市地域生徒指導連合会・京都「おやじの会」連絡会・京都市立幼稚園長会・京都市小学校長会・京都市立中学校長会・京都市立高等学校長会・京都市立総合養護学校長会・京都市教育委員会

～地域で取り組まれている先進的な取組例～

各地域で取組の一層の推進を図ろう！

- ・知らない人に声をかけられたとき等どう行動するかを学校、家庭で話し合い、危険回避の力を育成する。
- ・地域の方々が日頃行う「ジョギング・門掃き・犬の散歩・買い物・草花の世話」などを子どもたちの登下校の時間に合わせて行う。
- ・防犯マップの作成、見直しを学校・保護者・地域と共同で行う。子どもたちとともに現地確認をし、全家庭に配布して一人でも多くの方に見守り協力を依頼する。
- ・「こども110番のいえ」の方と顔見知りになり、いつでも飛び込めるようにしておく。
- ・PTA・おやじの会ホームページを立ち上げ、安心安全情報を配信していく。
- ・中学生が登下校時等に小学生を見守る取組等を進める。

京都市子ども安全ネットワークニュース

vol.7 平成18年1月 発行：京都市子ども安全会議事務局

教育委員会体育健康教育部 TEL213-5472 <http://www.edu.city.kyoto.jp/taiikukenko/>

開かれた学校づくりと安心安全の取組の融合を!!

～学校、家庭、地域の連携の深まりのなかで安全確保
とともに子どもの学び・育ちのさらなる充実に向けて～



京都市立学校の冬休み明けの始業時期に合わせ、子どもの安全確保に万全を期し、さらなる取組強化に繋げるため、1月6日に「緊急拡大子ども安全会議」が開催されました。会議の冒頭に門川大作教育長から「子どものために地域がまとまることにより、子どもの安全の問題だけではなく、地域コミュニティ作り、まちづくりへと繋げていくことを目指したい」と挨拶がありました。

PTA 連絡協議会各会長、人づくり 21 世紀委員会幹事長、学識経験者、校長会各会長、教育委員会等の代表や京都市総合企画局・文化市民局が参加した今回の会議では

① 開かれた学校づくりの推進

学校・家庭・地域の連携による、地域で子どもを育む取組の更なる充実

② 教育長をはじめ、首席指導主事等による全小学校一斉訪問・取組点検

「学校安全推進会議」や「見守り隊」について、1月10日以降、4日間で全小学校を訪問し、激励及び取組の総点検の実施

③ 子どもの見守り活動の先進的な実践例の全市的拡大

京都おやじの会連絡会会長の森田眞利氏による山ノ内小学校区の状況報告等を受けて、取組の全市的拡大

④ ジャンパーの作成

PTA からの要請を受け、各小学校へ 20 着程度のジャンパー作成に必要な経費を配分

⑤ 「こどもあんしん・あんぜんパトロール中」ロゴ入り腕章の 8,000 点の追加配備

(12月に2,000点を当初配備)

等が提起されました。参加者は学校・家庭・地域の連携を深め、子どもたちの安全確保とともに学び・育ちを一層充実させていくことを確認しました。

～既に「子ども見守り」活動を行っている学区のジャンパー等を紹介!～



※ 2/19・11:30～ KBS テレビ 山ノ内小学校の地域での安全取組の様子が特番で放送 !

地域ぐるみの安全に関する取組の現状等

[小学校] ～学校訪問等を通して～

学校安全の取組への激励と現状把握を行うため、教育委員会職員が緊急全校訪問を行いました。

- ① 従来から全小学校区において、学校安全ボランティア（スクールガード）の方々に献身的な子どもたちの見守り活動を実施していただいています。子どもに関わる事件・事故の増加に伴い、学校安全ボランティアへの参加を積極的に呼びかける学校が多くなり、地域社会全体で通学路を含む学校の安全体制の整備が進んでいます。
- ② スクールガードの活動は全校で実施いただいております。スクールガードを組織化して「みまもり隊」を立ち上げていただいているところが平成16年度は約40校ありましたが、現在、発足予定も含めると100校を超えており、行政区等の支部をあげて校区ごとの「みまもり隊」を発足されているところもあります。
- ③ 地域の方々・保護者の声を学校運営に反映させる「学校運営協議会」設置校や設置申請中の学校は、「安全推進委員会」をその1つの委員会に設定されています。また、学校評議員が一堂に会する場で、安全の取組に関する内容を議題として取り上げ、協議している学校が多数あります。
- ④ 「安全マップ」の見直しや「防犯教室」は実施予定も含めるといずれも実施率は100%です。

[中学校]

安全会議での提起を受けて、子どもの安全に関して、「中学生は守られる側とより小さな子どもを守る側の両方であるとの認識をもつこと」等、具体的に次の4点について推進していくことになりました。

- ① 学校安全推進会議等を独自、あるいは小中連携により開催
- ② 中学生に「みまもり隊」の一員であるとの意識化
- ③ 小学校安全マップの確認と中学生の視点を含めた「中学校安全マップ」の作成
- ④ 生徒を対象とした防犯教室(避難訓練)の実施

地域で取り組まれている先進的な取組例

～各地域で取組の一層の推進を図ろう！～



[小栗栖小学校]

地域の方々とPTAが長年継続してきた「おはよう運動」に加え、昨年11月、防犯推進委員会・PTAの呼びかけにより、地域各種団体の参加のもと「おぐりす こどもみまもり隊」が発足し、その活動が開始されました。朝の登校時や各学年の下校時刻に合わせて、多くの方々が活動されています。

[陵ヶ岡小学校]

子どもの登下校の安全を確保するために、PTA及び防犯推進委員会陵ヶ岡支部の皆さんが中心になって校内への不審者侵入防止や学区内のパトロール等の活動を積極的に推進されています。陵ヶ岡自治連合会のご尽力で「陵ヶ岡子ども安全見守隊詰所」が造られ、子どもの安全に大きな効果を生み出しています。



平成17年度 文部科学省委嘱

**「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」
報 告 書**

京都市教育委員会体育健康教育室

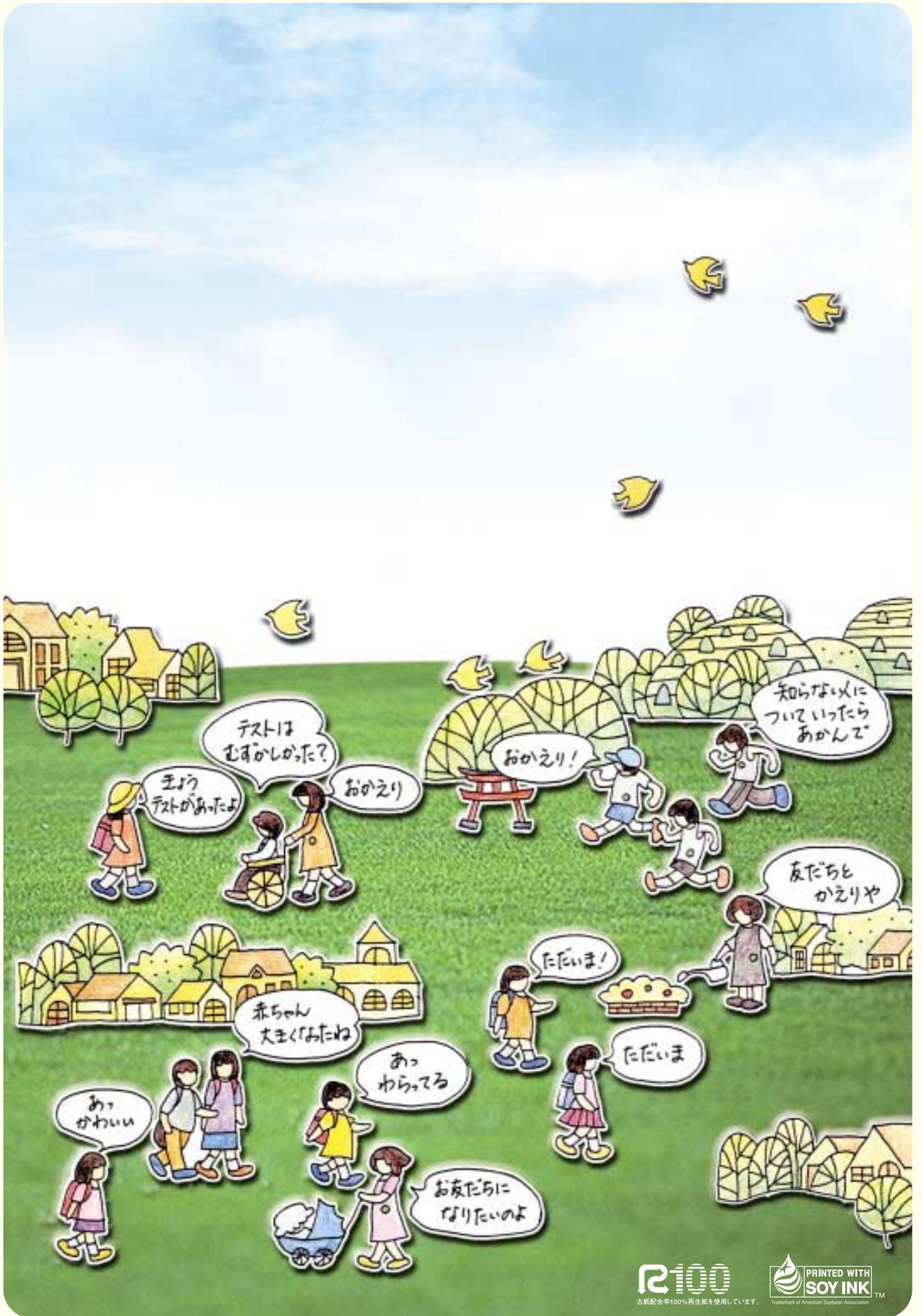
〒604-8091 京都市中京区寺町通御池下る本能寺前町500-1
中信御池ビル6階

TEL (075) 2 1 3 - 5 4 7 2

FAX (075) 2 1 3 - 5 4 7 6

<http://www.edu.city.kyoto.jp/taiikukenko/>

平成18年3月31日



テストは
むずかしかった？

まゆ
テストがあったよ

おかえり

おかえり！

知らない以に
ついていったら
あかんで

友だちと
かえりや

赤ちゃん
大丈夫か？

たはいま！



たはいま

あ
かわいい

あ
わらってる

あ
わらってる

お友だちに
なりたいのよ

r100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。

PRINTED WITH
SOY INK
Trademark of American Soybean Association